

鳥取県がん検診実績報告書

平成31年3月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

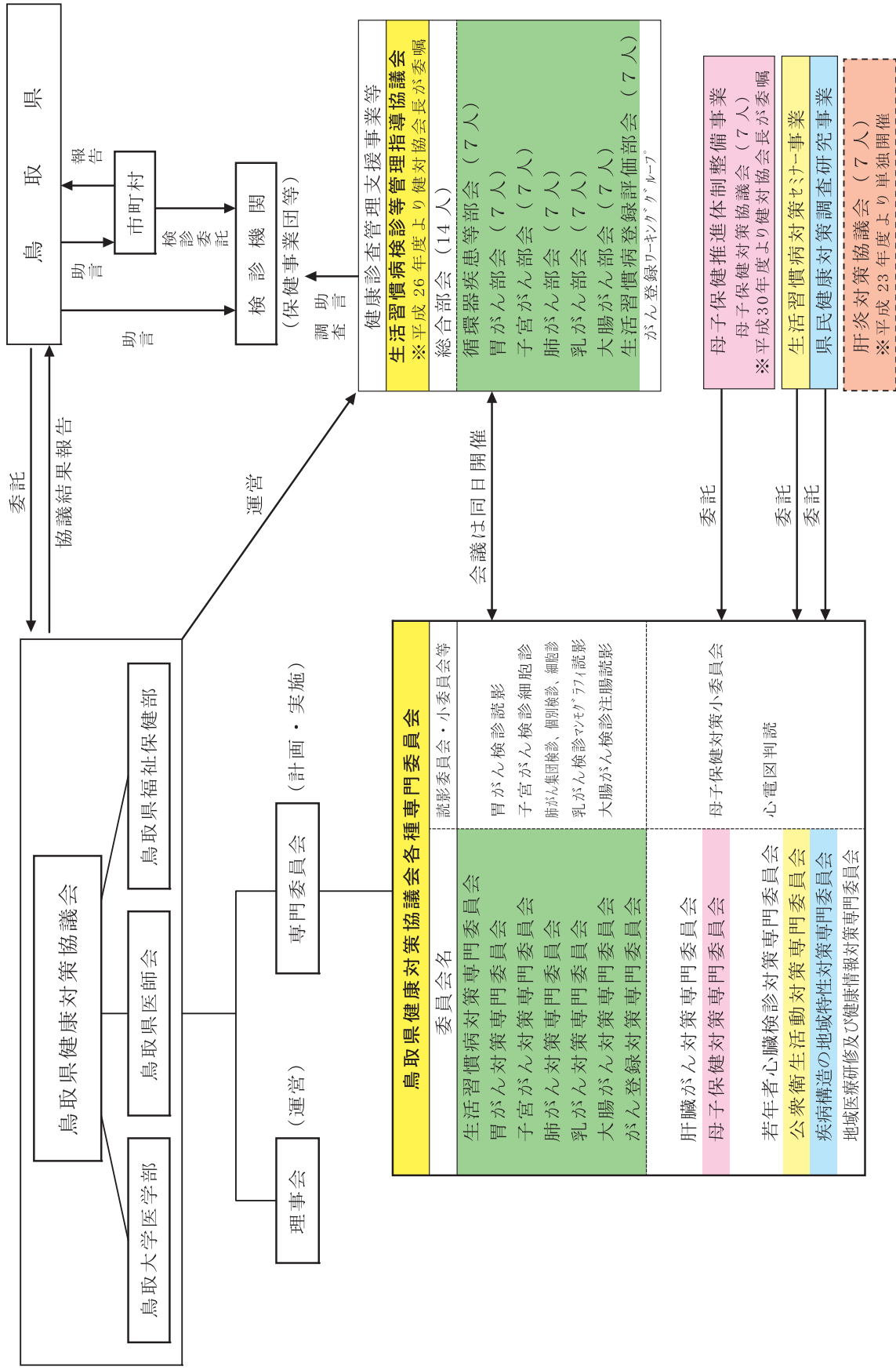
鳥取県がん検診実績報告書

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 平成29年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	17
3. 肺がん検診	26
4. 乳がん検診	40
5. 大腸がん検診	47
6. 肝臓がん検診	56
7. 全国がん検診実績との比較	69
III. 平成30年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	74
2. 子宮がん検診症例研究会報告	76
3. 肺がん検診症例研究会報告	78
4. 乳がん検診症例研究会報告	80
5. 大腸がん検診症例研究会報告	82
6. 肝臓がん検診症例研究会報告	84
7. 各地区がん検診症例検討会開催状況	87
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	88

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



Ⅱ. 平成29年度各がん検診事業実績

指 標 の 解 説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\boxed{\text{推計}} \quad \boxed{\text{対象者数}} = \boxed{\text{市区町村}} \quad \boxed{\text{人口}} - \left(\boxed{\text{就業者数}} - \boxed{\text{農林水産業}} \quad \boxed{\text{従業者数}} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務）

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

- (1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者
- (2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

子宮がん検診の場合、異形成と子宮内膜増殖症はがん疑いとして集計します。

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：要精密検査者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃 がん 検 診

1. 胃がん検診実績

平成29度の対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計値）189,132人のうち、受診者数はX線検査11,029人、内視鏡検査は40,453人で合計51,482人、受診率は27.2%で前年度より837人、0.4ポイント増加した。

受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は78.6%で、年々増加している。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数27,300人、受診率35.5%で、全国平均（平成28年度）受診率4.0%に比較し高い。

検査の結果、胃がんであった者は148人発見され（X線検査15人、内視鏡検査133人）、がん発見率は0.29%であった。

X線検査でのがん発見率は0.14%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.33%である。

陽性反応適中度（がん/要精検査者）はX線検査1.5%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ9.0%であった。

確定調査の結果、確定癌は154例、発見癌率は0.30%であった。

(1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は11,029人で、受診率は5.8%である。一次検診の要精検査者は993人で、要精検査率は9.0%で、前年度より0.4ポイント増加した。精検受診者数830人、精検受診率は83.6%で前年度より2.9ポイント減少した。車検診の要精検査率8.4%、施設検診は13.7%で（東部17.5%、中部8.3%、西部9.5%）で、例年は中部の要精検査率が高い傾向であったが、許容値11.0%以下となり改善された。一方で、東部の要精検査率が17.5%と許容値を大幅に超えた。

精検結果は、胃がんであった者は15人で、胃がん発見率は0.14%であった。

国はプロセス指標として、要精検査率許容値11.0%以下、精密検査受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.11%以上、陽性反応適中度許容値1.0%以上を指標としているが、鳥取県は精検受診率以外は指標をクリアしており、精度の高い検診がおこなわれている。ただし、例年と同様に施設検診におけるX線検査では要精検査率が高い。

(2) 内視鏡検査は、17市町村で実施され、受診者数は40,453人で、検査結果は胃がんであった者は133人が発見され、発見率は0.33%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数は1,485人で、組織診実施率3.7%、東部4.0%、中部4.6%、西部3.0%である。また、陽性反応適中度（がん/組織診実施者数）は9.0%で、東部6.0%、中部8.4%、西部13.4%であった。

〈検診方法別結果〉

区 分	市町村数		受診者数（率）	がん	がん発見率（%）
	実 施	未実施			
X 線 検 診	19	0	11,029 (21.4%)	15	0.136
内視鏡検診	17	2	40,453 (78.6%)	133	0.329
計			51,482 (100%)	148	0.287

〈検診機関別結果〉

(1) X線検診

・一次検診

区 分	受診者数 (率)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	9,751 (88.4%)	818	8.4	7.4	9.9	8.4
施 設 検 診 (病院・診療所)	1,278 (11.6%)	175	13.7	17.5	8.3	9.5
計	11,029 (100%)	993	9.0	8.8	9.9	8.6

・精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診 率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	690	84.4	14	0.144	0.148	0.218	0.068
施 設 検 診	140	80.0	1	0.078	0.149	0.000	0.000
計	830	83.6	15	0.136	0.148	0.216	0.057

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組 織 診 実 施 者	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
病 院	11,090	439	37	0.334	0.207	0.194	0.726
診 療 所	29,363	1,046	96	0.327	0.259	0.475	0.332
計	40,453	1,485	133	0.329	0.240	0.386	0.396

〈圏域別結果〉

(1) X線検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率 (%)
東 部	4,734	417	8.8	343	82.3	7	0.148
中 部	2,778	274	9.9	236	86.1	6	0.216
西 部	3,517	302	8.6	251	83.1	2	0.057
計	11,029	993	9.0	830	83.6	15	0.136

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組織診実施者	実施率 (%)	がん	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
東 部	17,068	689	4.0	41	0.240	6.0
中 部	6,483	297	4.6	25	0.386	8.4
西 部	16,902	499	3.0	67	0.396	13.4
計	40,453	1,485	3.7	133	0.329	9.0

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

平成29年度に発見された胃がん及び胃がん疑いについて確定調査を行った結果、確定胃がんは154例（一次検査がX線検査：車検診15例、施設検診1例、一次検査が内視鏡検査：138例）で、発見率は0.304%であった。胃MALTリンパ腫が1例であった。

調査結果は以下のとおりである。

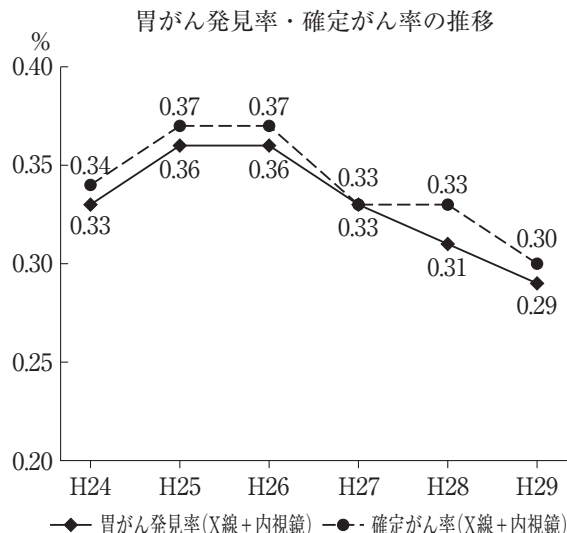
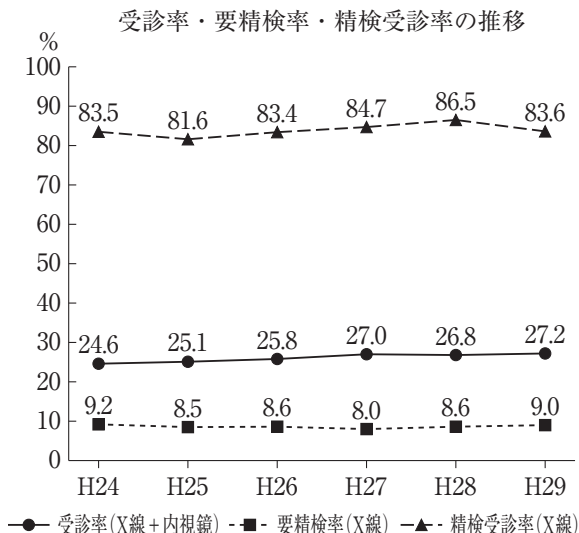
- (1) 早期癌は124例、進行癌は30例であった。早期癌率は80.5%（東部82.5%、中部66.7%、西部85.1%）であった。
- (2) 切除例は77例で、内視鏡切除が73例であった。非切除例が3例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性106例、女性48例であった。40歳代1人、50歳代3人、60歳代40人、70歳代65人、80歳以上45人で、例年と同様に60歳代、70歳代の男性が多い。80歳代が増えている。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が62.1%を占めている。進行癌の肉眼分類は「2」が43.3%を占めている。例年通りの傾向であった。
- (5) 切除例の大きさは2cm以下のものが54.5%を占めたが、一方で5cm以上のものが15例認められた。
- (6) 肉眼での進行度は、X線検査ではstage I Aが9例で56.3%、内視鏡検査ではstage I Aが109例で80.2%であった。StageⅣがX線検査で2例、内視鏡検査で2例、それぞれ見つかっている。
- (7) 前年度受診歴を有する発見進行癌については、各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 胃がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		24 年 度			25 年 度			26 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			190,556			190,556			190,556
	受 診 者 数(人) B	15,251	31,711	46,962	14,303	33,564	47,867	13,801	35,404	49,205
	受 診 率(%) C = B/A	8.0	16.6	24.6	7.5	17.6	25.1	7.2	18.6	25.8
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	13,855			13,083			12,620		
	要 精 検 者 数(人) E	1,396			1,220			1,181		
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標:許容値1.0%以下	9.2			8.5			8.6		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,166			996			985		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	83.5			81.6			83.4		
精密検査結果	胃 がん の 者(人) I	33(0)	124(78)	157(78)	27(5)	144(55)	171(60)	25(3)	153(48)	178(51)
	胃 がん 発 見 率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.22	0.39	0.33	0.19	0.43	0.36	0.18	0.43	0.36
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標:許容値1.0%以上	2.4			2.2			2.1		
確定調査結果	確 定 がん 数(人) L	30	128	158	29	146	175	27	154	181
	確 定 がん 率(%) M = L/B	0.20	0.40	0.34	0.20	0.43	0.37	0.20	0.43	0.37

区 分		27 年 度			28 年 度			29 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			190,556			189,132			189,132
	受 診 者 数(人) B	13,642	37,828	51,470	11,961	38,684	50,645	11,029	40,453	51,482
	受 診 率(%) C = B/A	7.2	19.9	27.0	6.3	20.5	26.8	5.8	21.4	27.2
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	12,548			10,933			10,036		
	要 精 検 者 数(人) E	1,094			1,028			993		
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標:許容値1.0%以下	8.0			8.6			9.0		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	927			889			830		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	84.7			86.5			83.6		
精密検査結果	胃 がん の 者(人) I	18(1)	153(102)	171(103)	15(6)	144(92)	159(98)	15(3)	133(85)	148(88)
	胃 がん 発 見 率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.13	0.40	0.33	0.13	0.37	0.31	0.14	0.33	0.29
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標:許容値1.0%以上	1.6			1.5			1.5		
確定調査結果	確 定 がん 数(人) L	18	151	169	18	150	168	16	138	154
	確 定 がん 率(%) M = L/B	0.13	0.40	0.33	0.15	0.39	0.33	0.15	0.34	0.30

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成29年度胃がんX線検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b/a			要精検者数 d		異常認めず		e = d/b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,702	3,950	253	593	9.4	15.0	12.7	11	22	242	571	4.3	3.7	3.9
45～49歳	2,391	3,400	234	474	9.8	13.9	12.2	11	27	223	447	4.7	5.7	5.4
50～54歳	2,494	3,868	223	454	8.9	11.7	10.6	19	20	204	434	8.5	4.4	5.8
55～59歳	3,464	5,767	281	641	8.1	11.1	10.0	26	37	255	604	9.3	5.8	6.8
60～64歳	7,789	11,161	602	1,018	7.7	9.1	8.5	86	78	516	940	14.3	7.7	10.1
65～69歳	13,314	16,514	1,074	1,311	8.1	7.9	8.0	116	109	958	1,202	10.8	8.3	9.4
70～74歳	11,961	15,344	830	914	6.9	6.0	6.4	92	76	738	838	11.1	8.3	9.6
75～79歳	11,039	16,002	537	644	4.9	4.0	4.4	88	68	449	576	16.4	10.6	13.2
80歳以上	18,509	39,463	474	472	2.6	1.2	1.6	55	52	419	420	11.6	11.0	11.3
計	73,663	115,469	4,508	6,521	6.1	5.6	5.8	504	489	4,004	6,032	11.2	7.5	9.0
合計	189,132		11,029		5.8			993		10,036		9.0		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f/d			精密検査結果								胃がん発見率 (%) i = h/b			陽性反応適中度 (%) j = h/d		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん h		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
40～44歳	8	18	72.7	81.8	78.8	2	7	6	11	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	8	25	72.7	92.6	86.8	3	11	5	14	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	12	20	63.2	100.0	82.1	2	3	10	17	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	21	29	80.8	78.4	79.4	4	5	17	24	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
60～64歳	66	71	76.7	91.0	83.5	12	16	52	55	0	0	2	0	0.332	0.000	0.123	2.3	0.0	1.2
65～69歳	88	98	75.9	89.9	82.7	14	19	72	78	1	1	1	0	0.093	0.000	0.042	0.9	0.0	0.4
70～74歳	70	74	76.1	97.4	85.7	12	19	56	54	0	0	2	1	0.241	0.109	0.172	2.2	1.3	1.8
75～79歳	70	66	79.5	97.1	87.2	8	20	60	42	0	1	2	3	0.372	0.466	0.423	2.3	4.4	3.2
80歳以上	40	46	72.7	88.5	80.4	8	9	31	34	0	0	1	3	0.211	0.636	0.423	1.8	5.8	3.7
計	383	447	76.0	91.4	83.6	65	109	309	329	1	2	8	7	0.177	0.107	0.136	1.6	1.4	1.5
合計	830		83.6			174		638		3		15		0.136			1.5		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

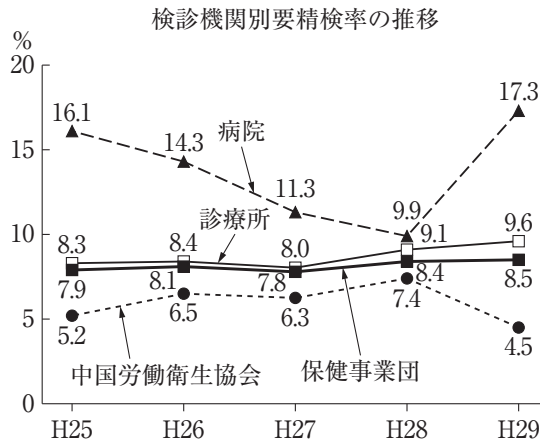
一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b'/a'		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b'/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	3,843	5,666	414	393	3,429	5,273	10.8	6.9	8.5
中国労働衛生協会	100	142	5	6	95	136	5.0	4.2	4.5
病院	293	382	57	60	236	322	19.5	15.7	17.3
診療所	272	331	28	30	244	301	10.3	9.1	9.6
計	4,508	6,521	504	489	4,004	6,032	11.2	7.5	9.0
合計	11,029		993		10,036		9.0		

b. 精密検査結果

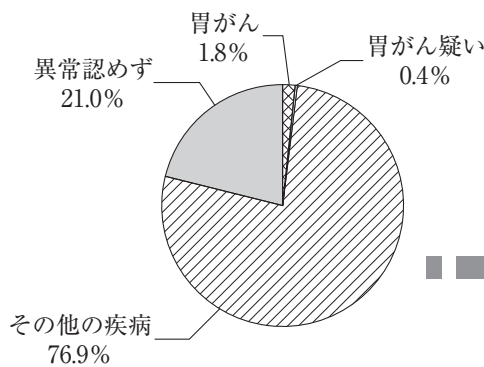
一次検診機関	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d'/b'			精密検査結果								胃がん発見率 (%) g' = f'/a'			陽性反応適中度 (%) h' = f'/b'		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	319	361	77.1	91.9	84.3	55	86	256	266	1	2	7	7	0.182	0.124	0.147	1.7	1.8	1.7
中国労働衛生協会	4	6	80.0	100.0	90.9	0	2	4	4	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
車検診小計	323	367	77.1	92.0	84.4	55	88	260	270	1	2	7	7	0.178	0.121	0.144	1.7	1.8	1.7
病院	38	52	66.7	86.7	76.9	9	13	28	39	0	0	1	0	0.341	0.000	0.148	1.8	0.0	0.9
診療所	22	28	78.6	93.3	86.2	1	8	21	20	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
施設検診小計	60	80	70.6	88.9	80.0	10	21	49	59	0	0	1	0	0.177	0.000	0.078	1.2	0.0	0.6
計	383	447	76.0	91.4	83.6	65	109	309	329	1	2	8	7	0.177	0.107	0.136	1.6	1.4	1.5
合計	830		83.6			174		638		3		15		0.136			1.5		

・ 検診機関別要精検率の推移

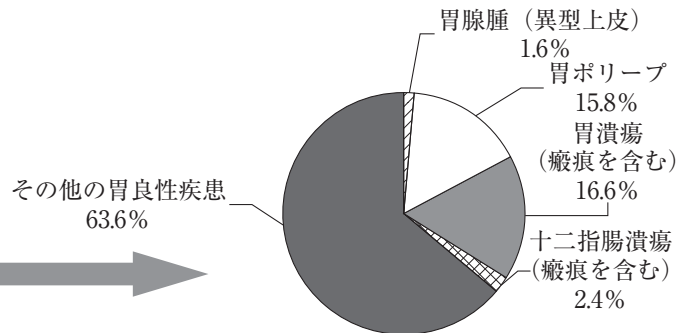
一次検診機関	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
保健事業団	7.9	8.1	7.8	8.4	8.5
中国労働衛生協会	5.2	6.5	6.3	7.4	4.5
車検診小計	7.8	8.0	7.7	8.4	8.4
病院	16.1	14.3	11.3	9.9	17.3
診療所	8.3	8.4	8.0	9.1	9.6
施設検診小計	11.5	11.0	9.6	9.6	13.7
合計	8.5	8.6	8.0	8.6	9.0



精密検査結果 (X線)



その他の疾病の内訳



4) 平成29年度胃がんX線検診受診状況

市町村名	対象者数			受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員								
	A	B	C	計	受診率 (%)	E = D/A	F	G	計	H = F + G	I = H/D	J	K = J/H	L	M	N	O	P = M + N + O	Q = O/D	R = O/H
鳥取市	59,003	2,261	619	2,880	4.9		141	109	250	8.7	203	81.2	26	175	—	2	177	0.069	0.8	
米子市	44,119	499	387	886	2.0		38	27	65	7.3	59	90.8	12	46	—	1	47	0.113	1.5	
倉吉市	17,150	688	11	699	4.1		71	2	73	10.4	61	83.6	11	46	—	4	50	0.572	5.5	
境港市	11,206	240	139	379	3.4		19	18	37	9.8	34	91.9	9	25	—	—	25	—	—	
岩美町	4,582	528	2	530	11.6		47	1	48	9.1	44	91.7	4	38	—	2	40	0.377	4.2	
八頭町	6,230	928	44	972	15.6		76	7	83	8.5	64	77.1	10	51	—	3	54	0.309	3.6	
若桜町	1,539	140	8	148	9.6		12	1	13	8.8	13	100.0	2	11	—	—	11	—	—	
智頭町	3,027	204	—	204	6.7		23	—	23	11.3	19	82.6	—	19	—	—	19	—	—	
湯梨浜町	5,676	533	1	534	9.4		56	—	56	10.5	49	87.5	17	29	1	2	32	0.375	3.6	
三朝町	2,574	341	2	343	13.3		33	—	33	9.6	29	87.9	11	18	—	—	18	—	—	
北栄町	5,516	610	6	616	11.2		73	—	73	11.9	65	89.0	22	43	—	—	43	—	—	
琴浦町	6,751	582	4	586	8.7		39	—	39	6.7	32	82.1	9	22	1	—	23	—	—	
南部町	4,011	273	18	291	7.3		14	3	17	5.8	12	70.6	1	11	—	—	11	—	—	
伯耆町	4,257	424	—	424	10.0		33	—	33	7.8	27	81.8	7	20	—	—	20	—	—	
日吉津村	1,008	148	24	172	17.1		15	7	22	12.8	21	95.5	6	15	—	—	15	—	—	
大山町	6,967	616	13	629	9.0		63	—	63	10.0	51	81.0	22	28	—	1	29	0.159	1.6	
日南町	2,551	360	—	360	14.1		33	—	33	9.2	26	78.8	2	23	1	—	24	—	—	
日野町	1,553	209	—	209	13.5		24	—	24	11.5	13	54.2	1	12	—	—	12	—	—	
江府町	1,412	167	—	167	11.8		8	—	8	4.8	8	100.0	2	6	—	—	6	—	—	
合計	189,132	9,751	1,278	11,029	5.8		818	175	993	9.0	830	83.6	174	638	3	15	656	0.136	1.5	
東部	74,381	4,061	673	4,734	6.4		299	118	417	8.8	343	82.3	42	294	—	7	301	0.148	1.7	
中部	37,667	2,754	24	2,778	7.4		272	2	274	9.9	236	86.1	70	158	2	6	166	0.216	2.2	
西部	77,084	2,936	581	3,517	4.6		247	55	302	8.6	251	83.1	62	186	1	2	189	0.057	0.7	

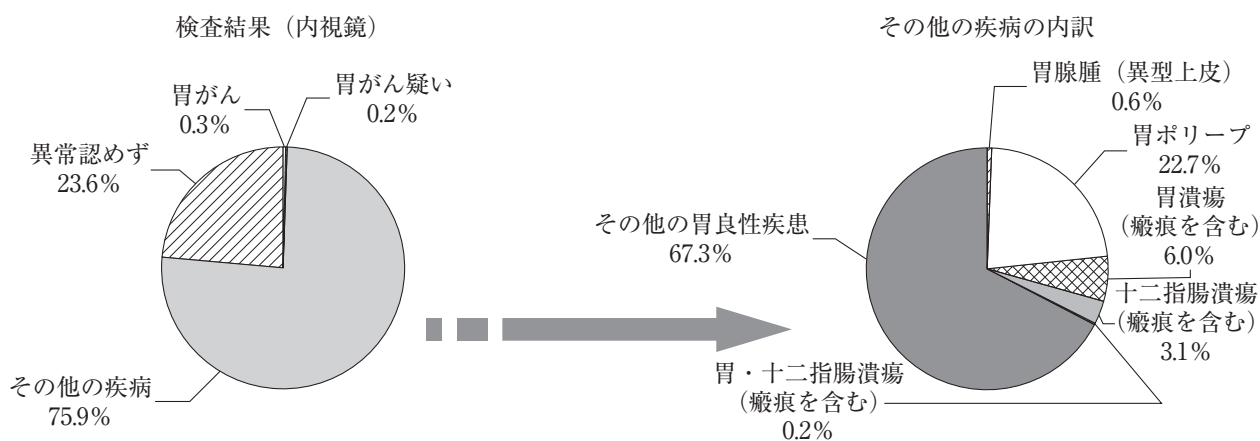
(3) 平成29年度胃がん内視鏡検診

1) 年齢階級別

年 齢	一次検診 受診者数 a		検 査 結 果								胃がん発見率 (%)		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b		c = b / a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	577	958	245	429	332	529	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000
45～49歳	543	954	205	366	337	587	1	1	0	0	0.000	0.000	0.000
50～54歳	524	1,144	142	374	379	769	3	0	0	1	0.000	0.087	0.060
55～59歳	692	1,647	164	470	527	1,174	0	2	1	1	0.145	0.061	0.086
60～64歳	1,816	2,882	406	712	1,402	2,165	3	3	5	2	0.275	0.069	0.149
65～69歳	3,649	4,756	707	1,109	2,911	3,633	11	8	20	6	0.548	0.126	0.309
70～74歳	3,564	4,509	694	1,034	2,836	3,459	13	5	21	11	0.589	0.244	0.396
75～79歳	2,601	3,457	524	792	2,047	2,657	13	3	17	5	0.654	0.145	0.363
80歳以上	2,502	3,678	433	735	2,030	2,920	11	8	28	15	1.119	0.408	0.696
計	16,468	23,985	3,520	6,021	12,801	17,893	55	30	92	41	0.559	0.171	0.329
合 計	40,453		9,541		30,694		85		133		0.329		

2) 検診機関別

一次検診機関	一次検診 受診者数 a'		検 査 結 果								胃がん発見率 (%)		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	4,765	6,325	780	1,245	3,942	5,060	17	9	26	11	0.546	0.174	0.334
診療所	11,703	17,660	2,740	4,776	8,859	12,833	38	21	66	30	0.564	0.170	0.327
計	16,468	23,985	3,520	6,021	12,801	17,893	55	30	92	41	0.559	0.171	0.329
合計	40,453		9,541		30,694		85		133		0.329		



3) 平成29年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	受診者数 A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C = B/A	検査結果別人員						
				異常 認めず D	その他 の疾病 E	がん 疑い F	がん G	有所見者 H = E + F + G	が ん 発 見 率 (%) I = G/A	陽性反応 適中度 (%) J = G/B
鳥取市	14,279	572	4.0	2,090	12,131	23	35	12,189	0.245	6.1
米子市	11,668	208	1.8	2,460	9,155	16	37	9,208	0.317	17.8
倉吉市	2,495	128	5.1	980	1,501	3	11	1,515	0.441	8.6
境港市	2,652	192	7.2	979	1,653	1	19	1,673	0.716	9.9
岩美町	489	30	6.1	39	449	0	1	450	0.204	3.3
八頭町	1,221	56	4.6	214	998	6	3	1,007	0.246	5.4
若桜町	459	11	2.4	73	385	1	0	386	0.000	0.0
智頭町	620	20	3.2	30	586	2	2	590	0.323	10.0
湯梨浜町	1,197	69	5.8	422	759	12	4	775	0.334	5.8
三朝町	308	0	0.0	113	195	0	0	195	0.000	0.0
北栄町	1,181	39	3.3	514	658	6	3	667	0.254	7.7
琴浦町	1,302	61	4.7	874	412	9	7	428	0.538	11.5
南部町	1,332	73	5.5	102	1,216	6	8	1,230	0.601	11.0
伯耆町	562	0	0.0	91	470	0	1	471	0.178	0.0
日吉津村	193	19	9.8	174	17	0	2	19	1.036	10.5
大山町	133	5	3.8	133	0	0	0	0	0.000	0.0
日南町	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	362	2	0.6	253	109	0	0	109	0.000	0.0
合 計	40,453	1,485	3.7	9,541	30,694	85	133	30,912	0.329	9.0
東 部	17,068	689	4.0	2,446	14,549	32	41	14,622	0.240	6.0
中 部	6,483	297	4.6	2,903	3,525	30	25	3,580	0.386	8.4
西 部	16,902	499	3.0	4,192	12,620	23	67	12,710	0.396	13.4

(4) 平成29年度胃がん検診受診状況 (X線+内視鏡)

市町村名	対象者数 A	受診者数				X線精密検査結果+内視鏡検査結果					
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J=G+H+I	がん 発見率 (%) K=I/D
鳥取市	59,003	2,880	14,279	17,159	29.1	2,116	12,306	23	37	12,366	0.216
米子市	44,119	886	11,668	12,554	28.5	2,472	9,201	16	38	9,255	0.303
倉吉市	17,150	699	2,495	3,194	18.6	991	1,547	3	15	1,565	0.470
境港市	11,206	379	2,652	3,031	27.0	988	1,678	1	19	1,698	0.627
岩美町	4,582	530	489	1,019	22.2	43	487	0	3	490	0.294
八頭町	6,230	972	1,221	2,193	35.2	224	1,049	6	6	1,061	0.274
若桜町	1,539	148	459	607	39.4	75	396	1	0	397	0.000
智頭町	3,027	204	620	824	27.2	30	605	2	2	609	0.243
湯梨浜町	5,676	534	1,197	1,731	30.5	439	788	13	6	807	0.347
三朝町	2,574	343	308	651	25.3	124	213	0	0	213	0.000
北栄町	5,516	616	1,181	1,797	32.6	536	701	6	3	710	0.167
琴浦町	6,751	586	1,302	1,888	28.0	883	434	10	7	451	0.371
南部町	4,011	291	1,332	1,623	40.5	103	1,227	6	8	1,241	0.493
伯耆町	4,257	424	562	986	23.2	98	490	0	1	491	0.101
日吉津村	1,008	172	193	365	36.2	180	32	0	2	34	0.548
大山町	6,967	629	133	762	10.9	155	28	0	1	29	0.131
日南町	2,551	360	0	360	14.1	2	23	1	0	24	0.000
日野町	1,553	209	0	209	13.5	1	12	0	0	12	0.000
江府町	1,412	167	362	529	37.5	255	115	0	0	115	0.000
合計	189,132	11,029	40,453	51,482	27.2	9,715	31,332	88	148	31,568	0.287
東部	74,381	4,734	17,068	21,802	29.3	2,488	14,843	32	48	14,923	0.220
中部	37,667	2,778	6,483	9,261	24.6	2,973	3,683	32	31	3,746	0.335
西部	77,084	3,517	16,902	20,419	26.5	4,254	12,806	24	69	12,899	0.338

(5) 平成29年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確定胃癌数	6	0	51	7	1	22	2	0	65	154
癌発見率%	0.144	0.000	0.315	0.238	2.222	0.348	0.065	0.000	0.402	
	57 0.265			30 0.322			67 0.338			0.304
早期癌数	3	0	44	6	0	14	2	0	55	124
早期癌率%	47 82.5			20 66.7			57 85.1			80.5
進行癌数	3	0	7	1	1	8	0	0	10	30
切除例	5	0	23	4	0	13	2	0	30	77
内視鏡切除例	0	0	28	3	0	8	0	0	34	73
非切除例	1	0	0	0	0	1	0	0	1	3

(その他：胃MALTリンパ腫1例)

表2 性・年齢別

	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計
男	1	1	31	45	28	106
女	0	2	9	20	17	48

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	0	0	1	1	0	3	0	0	2	7	5.6%
II a	0	0	14	1	0	1	0	0	9	25	20.2%
II b	0	0	2	0	0	0	0	0	1	3	2.4%
II c	2	0	20	4	0	9	2	0	40	77	62.1%
II c + III	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.8%
II a + II c	1	0	5	0	0	1	0	0	3	10	8.1%
不 明	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.8%
計	3	0	44	6	0	14	2	0	55	124	

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3.3%
2	0	0	5	1	1	3	0	0	3	13	43.3%
3	1	0	2	0	0	2	0	0	3	8	26.7%
4	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3	10.0%
5	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	10.0%
不 明	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	6.7%
計	3	0	7	1	1	8	0	0	10	30	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
t1a	1	0	35	6	0	12	0	0	43	97
t1b	2	0	9	0	0	2	2	0	12	27
t2	0	0	4	1	1	1	0	0	3	10
t3	0	0	2	0	0	5	0	0	5	12
t4a	2	0	1	0	0	1	0	0	1	5
t4b	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
計	6	0	51	7	1	21	2	0	65	153
不 明	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)		21 ～ 50	51 ～	計	不 明
車 検 診	2	5	7	50.0%	5	2	14	1
施 設 検 診	0	0	0	0.0%	1	0	1	0
内視鏡検診	29	43	72	55.4%	45	13	130	8
計	31	48	79	54.5%	51	15	145	9

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	2	0	13
M	6	0	57
L	3	0	38
全 体	0	0	0
計	11	0	108
不 明	0	0	5

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	4	0	40
大 弯	0	0	20
前 壁	2	0	26
後 壁	5	0	19
全 周	0	0	1
計	11	0	106
不 明	0	0	7

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	0	1	3
M	3	0	14
L	0	0	6
全 体	0	0	0
計	3	1	23
不 明	1	0	2

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	0	0	9
大 弯	1	1	5
前 壁	2	0	2
後 壁	0	0	5
全 周	0	0	2
計	3	1	23
不 明	1	0	2

表8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計			
	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	X 線		内	
I A	2	0	43	6	0	14	1	0	52	9	0	109	9	56.3%	109	80.15%
I B	1	0	3	1	1	1	1	0	8	3	1	12	4	25.0%	12	8.82%
II A	0	0	1	0	0	2	0	0	2	0	0	5	0	0.0%	5	3.68%
II B	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.0%	1	0.74%
III A	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0.0%	1	0.74%
III B	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0.0%	4	2.94%
III C	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	2	1	6.3%	2	1.47%
IV	2	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	2	2	12.5%	2	1.47%
計	6	0	51	7	1	21	2	0	64	15	1	136	16	100.0%	136	100.0%
不明	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0		2	

2. 子宮がん検診

1. 子宮がん検診実績

平成29年度子宮頸部がん検診は対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）129,896人のうち、受診者数32,138人、受診率24.7%で、平成28年度に比べ受診者数は691人、受診率は0.5ポイントそれぞれ増であった。35歳～59歳の受診率は50%以上で目標値をクリアしている。過去3年間に検診を受診している経年受診者割合は77.7%で例年どおりであった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が20歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数59,087人、受診者数26,521人、受診率44.9%で、全国平均（平成28年度）受診率16.5%に比較し高い。

要精検者数は295人（判定不能で再検査未実施となった者を含む）、一次検査の結果判定不能で、再検査の結果、判定不能だった者が36人であった。要精検率は0.92%で、平成28年度に比べ、要精検率が0.21ポイント増加した。

精検受診者数257人、精検受診率87.1%で平成28年度に比べ3.8ポイント増加した。

精検の結果、がん10人、がん発見率（がん/受診者数）は0.03%で、前年度と同率であった。陽性反応適中度（がん/要精検者数）は3.4%であった。異形成は130人（軽度72人、高度58人）で、平成28年度に比べ40人増であった。

受診者数（率）はほぼ横ばい状態である。精検受診率は国の許容値70%以上は上回るものの、目標値90%以上には届いていない状況である。また、がん発見率、陽性反応適中度、いずれも国の許容値に届いていない状況である。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (%)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
車 検 診 (保健事業団)	10,918 (34.0%)	44	0.40	0.57	0.23	0.28
施 設 検 診 (病院・診療所)	21,220 (66.0%)	251	1.18	1.14	1.09	1.23
計	32,138 (100%)	295	0.92	0.90	0.61	1.08

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	40	90.9	1	0.009	0.000	0.029	0.000
施 設 検 診	217	86.5	9	0.042	0.056	0.072	0.027
計	257	87.1	10	0.031	0.032	0.048	0.022

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	異形成	がん	がん発見率
東 部	5,281	30	0.57	27	90.0	12	0	0.000
中 部	3,494	8	0.23	7	87.5	5	1	0.029
西 部	2,143	6	0.28	6	100.0	1	0	0.000
計	10,918	44	0.40	40	90.9	18	1	0.009

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	異形成	がん	がん発見率
東 部	7,187	82	1.14	74	90.2	31	4	0.056
中 部	2,761	30	1.09	28	93.3	19	2	0.072
西 部	11,272	139	1.23	115	82.7	62	3	0.027
計	21,220	251	1.18	217	86.5	112	9	0.042

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者32,138人中、体部がん検診対象者数は1,057人、一次検診会場での受診者は874人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は21人、受診者の合計は895人、受診率は84.7%であった。

一次検診の結果、要精検となった者16人、要精検率1.83%、精密検査受診者数は14人であった。精検の結果、子宮体部がんが3人発見され、がん発見率は0.34%であった。陽性反応適中度は18.8%であった。子宮内膜増殖症は1件であった。また、医療機関での別途受診者から、子宮体部がんが3人発見されている。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

平成29年度集計よりCIN分類による集計となった。CIN3またはAISが49例、頸部I B期以上は3例であった。CIN1、2または腺異形成は92例であった。なお、I B期以上3例の検診歴は、すべて初回受診であった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌は6例、子宮内膜増殖症1例であった。

4. その他

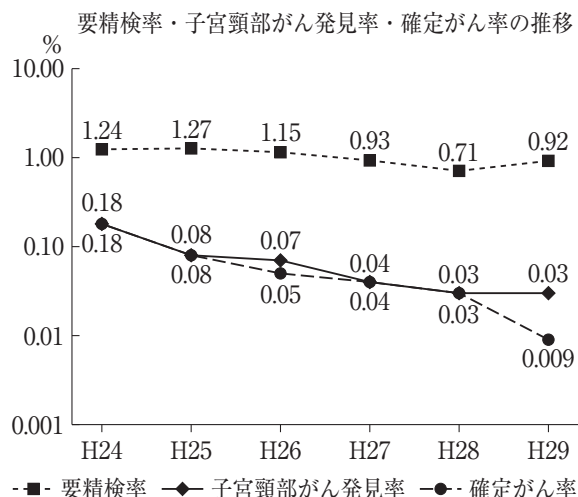
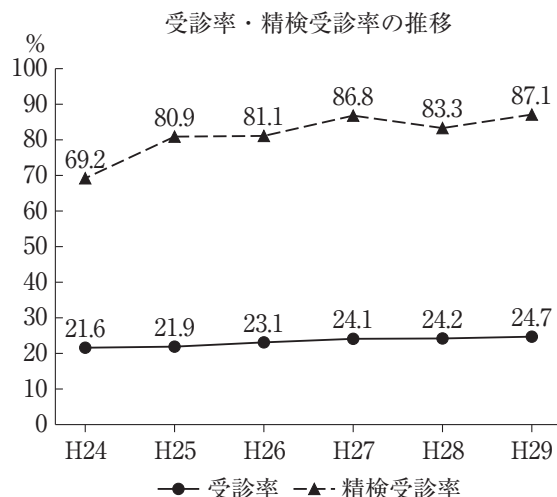
1) 平成29年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

平成29年度実績は、妊婦健康診査受診者4,318人中、子宮頸部がん検診受診者数4,246人、受診率98.3%で、要精検者数78人、要精検率1.80%、市町村が把握できた精検結果は66人で、そのうち、がん1人、異形成が18人であった。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
一次検診	対象者数(人) A	135,485	135,485	135,485	135,485	129,896	12,896
	受診者数(人) B	29,307	29,640	31,243	32,600	31,447	32,138
	受診率(%) C = B/A	21.6	21.9	23.1	24.1	24.2	24.7
一次検診結果	異常認めず(人) D	28,915	29,193	30,868	32,275	31,206	31,807
	要精検者数(人) E	364	377	360	302	222	295
	判定不能(人) F	28	70	15	23	19	36
	要精検率(%) G = E/B 指標:許容値1.4%以下	1.24	1.27	1.15	0.93	0.71	0.92
精密検査	精検受診者数(人) H	252	305	292	262	185	257
	精検受診率(%) I = H/E 指標:目標値90%以上	69.2	80.9	81.1	86.8	83.3	87.1
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	53(112)	25(150)	23(155)	14(146)	9(90)	10(130)
	子宮がん発見率(%) K = J/B 指標:許容値0.05%以上	0.18	0.08	0.07	0.04	0.03	0.03
	陽性反応適中度(%) L = J/E 指標:許容値4.0%以上	14.6	6.6	6.4	4.6	4.1	3.4
確定調査結果	確定がん数(人) M	52	25	15	14	9	3
	確定がん率(%) N = M/B	0.18	0.08	0.05	0.04	0.03	0.009

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。
- * 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
- * 5 要精検者数について、平成22年度報告から一次検診で判定不能の者のうち、再検が未実施の者も含んだ数を計上。



(2) 平成29年度子宮頸部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 再掲	一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b
					要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20~24歳	3,705	527	14.2	178	11	0	516	2.09
25~29歳	2,963	1,242	41.9	658	34	2	1,206	2.74
30~34歳	3,735	2,263	60.6	1,398	40	1	2,222	1.77
35~39歳	4,024	2,792	69.4	2,025	56	1	2,735	2.01
40~44歳	3,950	3,339	84.5	2,364	55	0	3,284	1.65
45~49歳	3,400	2,861	84.1	2,155	37	4	2,820	1.29
50~54歳	3,868	2,664	68.9	2,072	24	3	2,637	0.90
55~59歳	5,767	2,932	50.8	2,376	14	3	2,915	0.48
60~64歳	11,161	3,662	32.8	2,990	12	10	3,640	0.33
65~69歳	16,514	4,239	25.7	3,737	3	7	4,229	0.07
70~74歳	15,344	3,056	19.9	2,727	5	4	3,047	0.16
75~79歳	16,002	1,706	10.7	1,534	3	1	1,702	0.18
80歳以上	39,463	855	2.2	752	1	0	854	0.12
計	129,896	32,138	24.7	24,966	295	36	31,807	0.92

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 f	精密検査受診率 (%) g = f/d	精 密 検 査 結 果							子宮がん発見率 (%) n = k/b	陽性反応適中度 (%) o = k/d	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 h = i + j	軽度異形成 i	高度異形成 j	子宮がん k = l + m	上皮内がん l			浸潤がん m
20~24歳	9	81.8	1	3	5	5	0	0	0	0	0.000	0.0
25~29歳	30	88.2	8	5	17	11	6(2)	0	0	0	0.000	0.0
30~34歳	34	85.0	13	4	15	7	8(2)	2	2	0	0.088	5.0
35~39歳	51	91.1	15	5	29	14	15(4)	2	1	1	0.072	3.6
40~44歳	48	87.3	8	9	30	19	11(7)	1	1	0	0.030	1.8
45~49歳	32	86.5	11	9	10	5	5(2)	2	1	1	0.070	5.4
50~54歳	22	91.7	6	3	12	5	7(3)	1	1	0	0.038	4.2
55~59歳	12	85.7	4	4	4	3	1	0	0	0	0.000	0.0
60~64歳	8	66.7	2	1	4	2	2(1)	1	1	0	0.027	8.3
65~69歳	2	66.7	1	0	1	0	1	0	0	0	0.000	0.0
70~74歳	5	100.0	2	2	1	1	0	0	0	0	0.000	0.0
75~79歳	3	100.0	1	0	2	0	2(2)	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	1	100.0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.117	100.0
計	257	87.1	72	45	130	72	58(23)	10	7	3	0.031	3.4

※ () 内は中等度異形成を内数で計上

3) 検診機関別

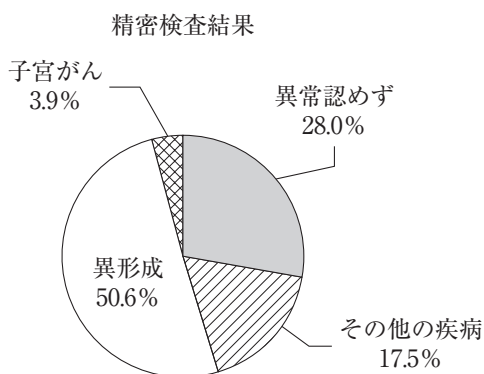
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'	一 次 検 診 結 果			要精検率 (%) c' = b' / a'
		要精検者数 b'	判定不能	異常認めず	
保健事業団	10,918	44	0	10,874	0.40
病 院	7,300	44	25	7,231	0.60
診 療 所	13,920	207	11	13,702	1.49
計	32,138	295	36	31,807	0.92

b. 精密検査結果

一 次 検 診 機 関	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率 (%) e' = d' / b'	精 密 検 査 結 果							子宮がん発見率 (%) l' = i' / a'	陽性反応適中度 (%) m' = i' / b'	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 f' = g' + h'	軽度異形成 g'	高度異形成 h'	子宮がん i' = j' + k'	上皮内がん j'			浸潤がん k'
保健事業団	40	90.9	14	7	18	9	9(4)	1	0	1	0.009	2.3
病 院	34	77.3	11	9	13	8	5(1)	1	0	1	0.014	2.3
診 療 所	183	88.4	47	29	99	55	44(18)	8	7	1	0.057	3.9
計	257	87.1	72	45	130	72	58(23)	10	7	3	0.031	3.4

※ () 内は中等度異形成を内数で計上



4) 平成29年度子宮頸部がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数 A	車検診 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診 率 (%) K=J/H	異 常 認めず L	その他 の疾病 M	異形成 N	がん O	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率 (%) Q=O/D	陽性反応 適中度 (%) R=O/H
鳥取市	41,588	3,189	6,383	9,572	23.0	20	72	92	0.96	84	91.3	32	13	36	3	52	0.031	3.3
米子市	32,218	106	7,858	7,964	24.7	0	106	106	1.33	94	88.7	27	17	47	3	67	0.038	2.8
倉吉市	11,532	691	1,513	2,204	19.1	2	21	23	1.04	21	91.3	2	2	16	1	19	0.045	4.3
境港市	7,734	335	1,545	1,880	24.3	1	14	15	0.80	14	93.3	1	3	10	0	13	0.000	0.0
岩美町	2,911	584	162	746	25.6	5	3	8	1.07	8	100.0	2	1	4	1	6	0.134	12.5
八頭町	3,960	1,023	289	1,312	33.1	5	4	9	0.69	7	77.8	3	1	3	0	4	0.000	0.0
若桜町	941	262	46	308	32.7	0	1	1	0.32	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
智頭町	1,916	223	307	530	27.7	0	2	2	0.38	2	100.0	2	0	0	0	0	0.000	0.0
湯梨浜町	3,660	690	461	1,151	31.4	4	5	9	0.78	9	100.0	0	2	6	1	9	0.087	11.1
三朝町	1,636	329	109	438	26.8	0	1	1	0.23	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
北栄町	3,548	828	409	1,237	34.9	1	3	4	0.32	4	100.0	0	1	2	1	4	0.081	25.0
琴浦町	4,321	956	269	1,225	28.3	1	0	1	0.08	1	100.0	0	1	0	0	1	0.000	0.0
南部町	2,585	311	509	820	31.7	1	13	14	1.71	5	35.7	0	2	3	0	5	0.000	0.0
伯耆町	2,771	409	320	729	26.3	1	1	2	0.27	1	50.0	0	1	0	0	1	0.000	0.0
日吉津村	724	61	237	298	41.2	1	0	1	0.34	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000	0.0
大山町	4,395	448	395	843	19.2	1	4	5	0.59	4	80.0	1	1	2	0	3	0.000	0.0
日南町	1,567	277	52	329	21.0	1	1	2	0.61	2	100.0	1	0	1	0	1	0.000	0.0
日野町	989	196	7	203	20.5	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	900	0	349	349	38.8	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
合計	129,896	10,918	21,220	32,138	24.7	44	251	295	0.92	257	87.1	72	45	130	10	185	0.031	3.4
東部	51,316	5,281	7,187	12,468	24.3	30	82	112	0.90	101	90.2	39	15	43	4	62	0.032	3.6
中部	24,697	3,494	2,761	6,255	25.3	8	30	38	0.61	35	92.1	2	6	24	3	33	0.048	7.9
西部	53,883	2,143	11,272	13,415	24.9	6	139	145	1.08	121	83.4	31	24	63	3	90	0.022	2.1

(3) 子宮体部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		24 年 度			25 年 度			26 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	833		833	559		559	823		823
	受 診 者 数(人) B	672	105	777	443	84	527	709	78	787
	受 診 率 (%) C = B / A	80.7		93.3	79.2		94.3	86.1		95.6
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	670			435			697		
	要 精 検 者 数(人) E	2			6			9		
	判 定 不 能(人) F	0			2			3		
精密検査	要 精 検 率 (%) G = E / B	0.30			1.35			1.27		
	精 検 受 診 者 数(人) H	2			4			8		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率 (%) I = H / E	100.0			66.7			88.9		
	子 宮 が ん の 者(人) J	1(0)	1(2)	2(2)	1(2)	0(1)	1(3)	3(3)	0(0)	3(3)
	子 宮 が ん 発 見 率 (%) K = J / B	0.15	0.95	0.26	0.23	0.00	0.19	0.42	0.00	0.38
確定調査 結 果	陽 性 反 応 適 中 度 (%) L = J / E	50.00			16.67			33.33		
	確 定 が ん 数(人) M	1	1	2	1	0	1	3	0	3
	確 定 が ん 率 (%) N = M / B			0.26			0.19			0.38

区 分		27 年 度			28 年 度			29 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	896		896	823		823	1,057		1,057
	受 診 者 数(人) B	806	15	821	748	7	755	874	21	895
	受 診 率 (%) C = B / A	90.0		91.6	90.9		91.7	82.7		84.7
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	782			726			845		
	要 精 検 者 数(人) E	23			16			16		
	判 定 不 能(人) F	1			6			13		
精密検査	要 精 検 率 (%) G = E / B	2.85			2.14			1.83		
	精 検 受 診 者 数(人) H	19			9			14		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率 (%) I = H / E	82.6			56.3			87.5		
	子 宮 が ん の 者(人) J	6(2)	2(4)	8(6)	1(1)	0(2)	1(3)	3(1)	3(0)	6(1)
	子 宮 が ん 発 見 率 (%) K = J / B	0.74	13.33	0.97	0.13	0.00	0.13	0.34	14.29	0.67
確定調査 結 果	陽 性 反 応 適 中 度 (%) L = J / E	26.09			6.25			18.75		
	確 定 が ん 数(人) M	6	2	8	0	0	0	3	3	6
	確 定 が ん 率 (%) N = M / B			0.97			0.00			0.67

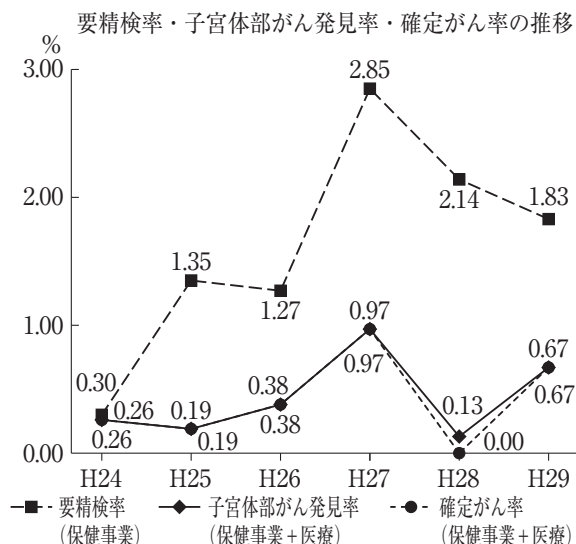
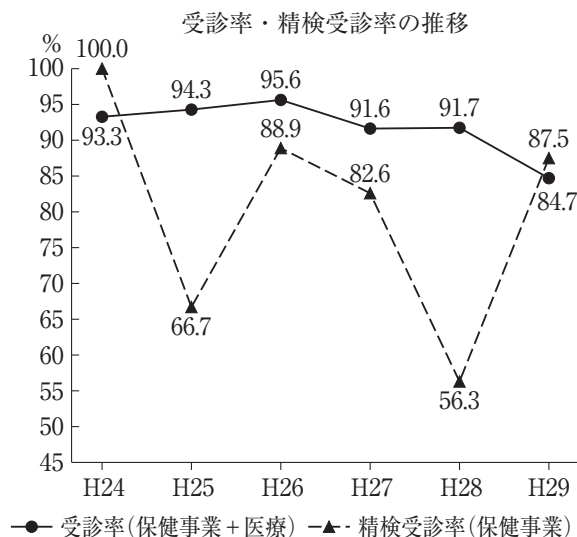
※「保健事業分」=車検診及び施設検診により検診を受けた者、「医療分」=車検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者

※精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上

※がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上

※陽性反応適中度は、要精検受診者を分母として算出。

※確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(4) 平成29年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	子宮がん検診受診者数 a	体部がん検診対象者数 b	対象率 (%) c = b / a	体部がん検診受診者数 d	受診率 (%) e = d / b	一次検診結果			要精検率 (%) g = f / d
						要精検者数 f	判定不能	異常認めず	
20～24歳	527	5	0.95	1	20.0	0	0	1	0.00
25～29歳	1,242	10	0.81	5	50.0	0	0	5	0.00
30～34歳	2,263	51	2.25	42	82.4	0	0	42	0.00
35～39歳	2,792	87	3.12	70	80.5	0	0	70	0.00
40～44歳	3,339	161	4.82	131	81.4	1	2	128	0.76
45～49歳	2,861	200	6.99	170	85.0	4	2	164	2.35
50～54歳	2,664	221	8.30	186	84.2	5	4	177	2.69
55～59歳	2,932	111	3.79	96	86.5	3	1	92	3.13
60～64歳	3,662	78	2.13	64	82.1	1	1	62	1.56
65～69歳	4,239	67	1.58	55	82.1	0	1	54	0.00
70～74歳	3,056	44	1.44	33	75.0	1	1	31	3.03
75～79歳	1,706	15	0.88	14	93.3	1	1	12	7.14
80歳以上	855	7	0.82	7	100.0	0	0	7	0.00
計	32,138	1,057	3.29	874	82.7	16	13	845	1.83

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 h	精検受診率 (%) i = h / f	精密検査結果				子宮がん発見率 (%) k = j / d	陽性反応適中度 (%) l = j / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮がん j		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
30～34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
35～39歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
40～44歳	1	100.0	0	1	0	0	0.00	0.0
45～49歳	2	50.0	2	0	0	0	0.00	0.0
50～54歳	5	100.0	5	0	0	0	0.00	0.0
55～59歳	3	100.0	1	0	0	2	2.08	66.7
60～64歳	1	100.0	0	0	0	1	1.56	100.0
65～69歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
70～74歳	1	100.0	0	0	1	0	0.00	0.0
75～79歳	1	100.0	1	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	14	87.5	9	1	1	3	0.34	18.8

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診しなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検査受診者数	精密検査結果					子宮体部がん発見率 (%)
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮がん	判定不能	
20～24歳	0	0	0	0	0	0	0.00
25～29歳	0	0	0	0	0	0	0.00
30～34歳	0	0	0	0	0	0	0.00
35～39歳	1	1	0	0	0	0	0.00
40～44歳	3	3	0	0	0	0	0.00
45～49歳	4	3	1	0	0	0	0.00
50～54歳	5	4	0	0	1	0	20.00
55～59歳	2	1	0	0	1	2	50.00
60～64歳	1	1	0	0	0	0	0.00
65～69歳	3	3	0	0	0	0	0.00
70～74歳	2	1	0	0	1	0	50.00
75～79歳	0	0	0	0	0	0	0.00
80歳以上	0	0	0	0	0	0	0.00
計	21	17	1	0	3	2	14.29

4) 平成29年度子宮体部がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員								
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	異常認めず	その他の疾病	子宮内膜増殖症	がん	有所見者	がん発見率 (%)
A	B	C	D = B + C	E = D / A	F	G	H = F + G	I = H / D	J	K = J / H	L	M	N	O	P = M + N + O	Q = O / D	R = O / H
鳥取市	0	178	178	56.2	0	4	4	2.25	4	100.0	3	1	0	0	1	0.00	0.0
米子市	0	320	320	95.8	0	4	4	1.25	4	100.0	3	0	1	0	1	0.00	0.0
倉吉市	1	145	146	96.7	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
境港市	0	49	49	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
岩美町	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
八頭町	0	16	16	57.1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
若桜町	0	2	2	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
智頭町	0	2	2	22.2	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
湯梨浜町	0	26	26	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
三朝町	0	11	11	100.0	0	2	2	18.18	2	100.0	1	0	0	1	1	9.09	50.0
北栄町	0	29	29	87.9	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
琴浦町	0	27	27	93.1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
南部町	0	14	14	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
伯耆町	1	0	1	100.0	1	0	1	100.00	1	100.0	1	0	0	0	0	0.00	0.0
日吉津村	1	1	1	100.0	0	1	1	100.00	1	100.0	0	0	0	1	1	100.00	100.0
大山町	0	21	21	100.0	0	1	1	4.76	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日南町	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日野町	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
江府町	0	31	31	100.0	0	3	3	9.68	2	66.7	1	0	0	1	1	3.23	33.3
合計	2	872	874	82.7	1	15	16	1.83	14	87.5	9	1	1	3	5	0.34	18.8
東部	0	198	198	55.6	0	4	4	2.02	4	100.0	3	1	0	0	1	0.00	0.0
中部	1	238	239	95.6	0	2	2	0.84	2	100.0	1	0	0	1	1	0.42	50.0
西部	1	436	437	96.9	1	9	10	2.29	8	80.0	5	0	1	2	3	0.46	20.0

(5) 平成29年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	平成28年度	平成29年度	平成28年度	平成29年度
CIN1、2または腺異形成	8	10	79	82
CIN3 または AIS	0	7	4	42
頸癌 I A 期	0	0	0	0
頸癌 I B 期以上	1	1	4	2
合計	9	18	87	126

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	平成28年度	平成29年度
内膜増殖症	3	1
体癌 I A 期	0	6
体癌 I B 期以上	0	0
合計	3	7

表3 発見子宮がん症例（I B期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	0	0	0
2年間隔	0	0	0
3年以上の間隔	0	0	0
初回受診	1	2	3

表4 治療機関

	CIN3またはAIS	頸癌 I A 期	頸癌 I B 期以上	計
鳥取大学医学部附属病院	9	0	2	11
鳥取県立中央病院	11	0	0	11
鳥取県立厚生病院	6	0	1	7
鳥取赤十字病院	4	0	0	4
鳥取市立病院	3	0	0	3
博愛病院	5	0	0	5
彦名クリニック	1	0	0	1
県外	1	0	0	1
計	40	0	3	43

3. 肺 が ん 検 診

1. 肺がん検診実績

平成29年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）189,132人のうち、受診者数54,776人、受診率29.0%で前年度より0.1ポイント増であった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法は40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数26,933人、受診率35.1%で、全国平均（平成28年度）7.8%に比べ高い。

このうち要精検者は1,909人、要精検率3.49%、精密検査受診者は1,709人、精検受診率89.5%で前年度より0.6ポイント減少した。

要精検率は国の指標（許容値）である3.0%以下を上回っており、近年減少傾向にあったが今年度はやや増加した。精検受診率は高く、原発性肺がん27人、肺がん疑い94人の計121人が発見された。肺がん発見率は0.05%で、国の指標（許容値）0.03%以上より高率であるが、前年度より10人（0.02ポイント）減少し、肺がん疑いが多かった。また、陽性反応的中度は1.4%であり、国の指標（許容値）1.3%を上回っているが、前年度より0.6ポイント低下した。平成29年度の結果からも、鳥取県は肺がんの罹患率が高く、要精検率が高い中で、引き続き多くの肺がんが発見され、精度管理も良好と考えられる。

施設検診と車検診を比較すると、要精検率は施設検診4.0%、車検診2.9%であり、施設検診の方が1.1%高く、西部地区で高い傾向にあった。要精検率については地域差があり、継続して精度管理には注意を払う必要がある。

X線受診者総数54,776人のうち経年受診者は40,514人、経年受診率74.0%である。

喀痰検査の対象となる高危険群所属者は6,944人（12.7%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は2,343人で、X線検査受診者の4.3%、要精検者は0人であった。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者のがん発見率の比較では、経年受診者のがん発見率は0.015%で、非経年受診者のがん発見率0.147%で、非経年受診者の方が9.94倍高かった。また、高危険群所属者6,944人のうちがんが14人発見され、がん発見率0.202%、非高危険群所属者47,832人のうちがんが13人発見され、がん発見率0.027%で、高危険群所属者の方が7.42倍高かった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (%)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東 部	中 部	西 部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	25,628 (46.8%)	743	2.90	2.07	1.86	4.36
施 設 検 診 (病院・診療所)	29,148 (53.2%)	1,166	4.00	3.25	4.09	5.53
計	54,776 (100%)	1,909	3.49	2.88	2.54	4.89

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)			
				計	東 部	中 部	西 部
車 検 診	644	86.7	7	0.027	0.038	0.013	0.030
施 設 検 診	1,065	91.3	20	0.069	0.075	0.145	0.024
計	1,709	89.5	27	0.049	0.063	0.053	0.027

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	7,814	162	2.07	141	87.0	15	3	0.038
中 部	7,808	145	1.86	121	83.4	18	1	0.013
西 部	10,006	436	4.36	382	87.6	20	3	0.030
計	25,628	743	2.90	644	86.7	53	7	0.027

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	17,386	565	3.25	528	93.5	30	13	0.075
中 部	3,451	141	4.09	121	85.8	5	5	0.145
西 部	8,311	460	5.53	416	90.4	6	2	0.024
計	29,148	1,166	4.00	1,065	91.3	41	20	0.069

〈経年受診者の状況〉

※経年受診者＝昨年度も肺がん検診を受診した者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体 (X線受診者数)			経年受診者数 (%)		
	男	女	計	男	女	計
H27	21,707	33,338	55,045	15,133 (69.7%)	23,328 (70.0%)	38,461 (69.9%)
H28	21,871	32,808	54,679	15,547 (71.1%)	23,690 (72.2%)	39,237 (71.8%)
H29	21,943	32,833	54,776	16,254 (74.1%)	24,260 (73.9%)	40,514 (74.0%)

(2) がん発見率の推移

年 度	経 年 受 診 者			非 経 年 受 診 者			発見率倍率 (非経年/経年)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H27	38,461	7	0.018	16,584	26	0.157	8.61
H28	39,237	16	0.041	15,442	21	0.136	3.33
H29	40,514	6	0.015	14,262	21	0.147	9.94

〈高危険群所属者の状況〉

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当する者
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体（X線受診者数）			高危険群所属者数（％）		
	男	女	計	男	女	計
H27	21,707	33,338	55,045	6,632 (30.6%)	324 (1.0%)	6,956 (12.6%)
H28	21,871	32,808	54,679	6,941 (31.7%)	320 (1.0%)	7,261 (13.3%)
H29	21,943	32,833	54,776	6,615 (30.1%)	329 (1.0%)	6,944 (12.7%)

(2) がん発見率の推移

年度	高危険群所属者			非高危険群所属者			発見率倍率 (高危険/非高危険)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H27	6,956	22	0.316	48,089	11	0.023	13.83
H28	7,261	10	0.138	47,418	27	0.057	2.42
H29	6,944	14	0.202	47,832	13	0.027	7.42

〈喀痰細胞診の実施状況〉

※喀痰細胞診対象者＝X線検査受診者における高危険群所属者

(1) 結果の推移

年度	X線検査受診者中 高危険群所属者	喀痰検査 受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	がん	がん発見率
H27	6,956	2,566	4	0.16	3	2	0.078
H28	7,261	2,381	2	0.08	2	0	0.000
H29	6,944	2,343	0	0.00	0	0	0.000

〈発見がん患者の状況〉

(1) 要精検カテゴリー別患者数（人）

年 度	全 体	X線のみ要精検	喀痰のみ要精検	ともに要精検
H27	33	31	1	1
H28	37	37	0	0
H29	27	27	0	0

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

昭和62年から平成29年までに発見された肺がん又は肺がん疑いについて予後調査した結果、肺がん確定診断1,511例、内訳は原発性肺癌1,363例、転移性肺腫瘍148例であった。

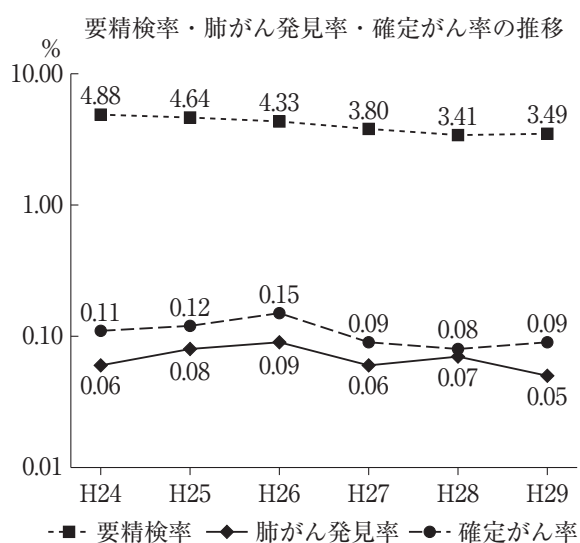
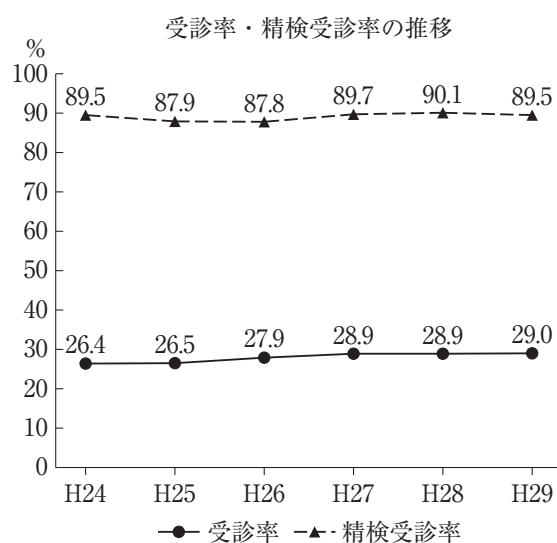
平成29年度については、以下のとおりであった。

- (1) 原発性肺がん50例、転移性肺腫瘍3例、合計53例であった。94名あった肺がん疑いは、その後の予後調査により原発性肺がんが23名、転移性肺腫瘍が2名発見され、肺がん疑いのままが16名、良性が7名、異常なしが26名、現在なお調査中が2名であった。
- (2) 発見された原発性肺がんの43例すべて（100%）が胸部X線で発見され、喀痰細胞診で発見された肺がんはなかった。
- (3) 原発性肺がんの平均年齢は72.9歳、女性肺がんは21例（42.0%）、臨床病期はI期31例（62.0%）、腺癌は38例（76.0%）と例年どおりI期の肺腺がん割合が多かった。
- (4) 手術症例の割合は31例（62.0%）、術後病期I期の肺がんは24例（77.4%）、腺癌が27例（87.5%）であった。
- (5) 腫瘍径は平均32.2mm（+3.6mm）と昨年より大きくなった。11～20mmが15例（30.0%）であった。
- (6) 転移性肺腫瘍は3例で、原発巣は大腸癌1例、膀胱癌1例、胆のう癌1例であった。
- (7) 施設検診と車検診との比較を行ったところ、施設検診の受診者数が年々増加している。要精検率は施設検診4.0%、車検診2.9%と施設が高く、特に西部地区が5.53%と高い傾向は同様であるが、較差は縮小している。がん発見率は、車検診0.082%、施設検診0.099%であった。

(1) 肺がん検診の受診者数および受診率等の推移

区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	190,556	190,556	190,556	190,559	189,132	189,132
	受 診 者 数(人) B	50,376	50,569	53,208	55,045	54,679	54,776
	受 診 率(%) C = B/A	26.4	26.5	27.9	28.9	28.9	29.0
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	47,916	48,225	50,905	52,953	52,815	52,867
	要 精 検 者 数(人) E	2,460	2,345	2,303	2,092	1,864	1,909
	要 精 検 率(%) F = E/B <small>指標：許容値3.0%以下</small>	4.88	4.64	4.33	3.80	3.41	3.49
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,201	2,062	2,021	1,877	1,680	1,709
	精 検 受 診 率(%) H = G/E <small>指標：目標値90%以上</small>	89.5	87.9	87.8	89.7	90.1	89.5
精 密 検 査 結 果	肺 がん の 者(人) I	35(58)	45(68)	55(74)	34(78)	40(52)	28(94)
	上記のうち原発性肺がんの数 J	32	41	46	33	37	27
	肺 がん 発 見 率(%) K = J/B <small>指標：許容値0.03%以上</small>	0.06	0.08	0.09	0.06	0.07	0.05
	陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J/E <small>指標：許容値1.3%以上</small>	1.3	1.7	2.0	1.6	2.0	1.4
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) M	54	62	81	48	50	53
	上記のうち原発性肺がん数(人) N	49	58	74	47	46	50
	確 定 がん 率(%) O = N/B	0.11	0.12	0.15	0.09	0.08	0.09

- * 1 精密検査結果中の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- * 4 確定がん数は、確定調査結果、がんと確定された数を計上
- * 5 要精検者数 (E)、精検受診者数 (G)、肺がんの者 (I)、確定がん数 (L) については、E判定者数を計上。



(2) 平成29年度肺がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

a. X線検査結果

年 齢	対象者数		胸 部 エ ッ ク ス 線 検 査										エックス線フィルム読影結果					
			一次検診 受診者数		受診率 (%)		経年受診者数 再掲※		経年受診者 割合 (%)		要精検者数		異常認めず		要精検率 (%)			
	a		b		c = b/a		d		e = d/b		f		g = f/b					
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,702	3,950	763	1,402	28.2	35.5	32.5	316	553	41.4	39.4	11	11	752	1,391	1.44	0.78	1.02
45～49歳	2,391	3,400	680	1,222	28.4	35.9	32.8	350	651	51.5	53.3	20	22	660	1,200	2.94	1.80	2.21
50～54歳	2,494	3,868	624	1,253	25.0	32.4	29.5	360	734	57.7	58.6	10	20	614	1,233	1.60	1.60	1.60
55～59歳	3,464	5,767	855	1,989	24.7	34.5	30.8	527	1,237	61.6	62.2	23	53	832	1,936	2.69	2.66	2.67
60～64歳	7,789	11,161	2,249	3,919	28.9	35.1	32.5	1,412	2,688	62.8	68.6	84	92	2,165	3,827	3.73	2.35	2.85
65～69歳	13,314	16,514	5,109	6,868	38.4	41.6	40.2	3,816	5,323	74.7	77.5	188	201	4,921	6,667	3.68	2.93	3.25
70～74歳	11,961	15,344	4,750	6,141	39.7	40.0	39.9	3,779	4,978	79.6	81.1	184	215	4,566	5,926	3.87	3.50	3.66
75～79歳	11,039	16,002	3,360	4,753	30.4	29.7	30.0	2,779	3,863	82.7	81.3	157	169	3,203	4,584	4.67	3.56	4.02
80歳以上	18,509	39,463	3,553	5,286	19.2	13.4	15.2	2,915	4,233	82.0	80.1	197	252	3,356	5,034	5.54	4.77	5.08
計	73,663	115,469	21,943	32,833	29.8	28.4	29.0	16,254	24,260	74.1	73.9	874	1,035	21,069	31,798	3.98	3.15	3.49
合計	189,132		54,776		29.0			40,514		74.0		1,909		52,867		3.49		

※経年受診者：昨年度も肺がん検診を受診した者

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	X線検査受診者中 高危険群所属者※		喀痰細胞診 受診者数		喀痰細胞診結果					
					要精検者数		精 検 不 要		要精検率 (%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	5	4	8	3	0	0	8	3	0.00	0.00
45～49歳	12	2	11	2	0	0	11	2	0.00	0.00
50～54歳	145	28	53	7	0	0	53	7	0.00	0.00
55～59歳	258	38	84	14	0	0	84	14	0.00	0.00
60～64歳	799	50	284	17	0	0	284	17	0.00	0.00
65～69歳	1,890	83	662	28	0	0	662	28	0.00	0.00
70～74歳	1,774	77	587	33	0	0	587	33	0.00	0.00
75～79歳	907	30	301	13	0	0	301	13	0.00	0.00
80歳以上	825	17	233	3	0	0	233	3	0.00	0.00
計	6,615	329	2,223	120	0	0	2,223	120	0.00	0.00
合 計	6,944		2,343		0		2,343		0.00	

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当する者
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検者数 (再掲)		精密検査 受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	k		l		m = l / k			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		o = n / b			p = n / k		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40~44歳	11	11	10	6	90.9	54.5	72.7	9	3	1	3	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45~49歳	20	22	18	20	90.0	90.9	90.5	14	13	4	7	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50~54歳	10	20	7	19	70.0	95.0	86.7	4	9	2	9	1	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55~59歳	23	53	20	45	87.0	84.9	85.5	11	21	7	17	2	5	0	2	0.000	0.101	0.070	0.0	3.8	2.6
60~64歳	84	92	74	83	88.1	90.2	89.2	27	35	42	43	3	3	2	2	0.089	0.051	0.065	2.4	2.2	2.3
65~69歳	188	201	168	185	89.4	92.0	90.7	64	81	88	92	13	9	3	3	0.059	0.044	0.050	1.6	1.5	1.5
70~74歳	184	215	162	198	88.0	92.1	90.2	58	87	91	99	12	10	1	2	0.021	0.033	0.028	0.5	0.9	0.8
75~79歳	157	169	148	157	94.3	92.9	93.6	50	73	83	78	11	4	4	2	0.119	0.042	0.074	2.5	1.2	1.8
80歳以上	197	252	165	224	83.8	88.9	86.6	57	87	93	126	11	9	4	2	0.113	0.038	0.068	2.0	0.8	1.3
計	874	1,035	772	937	88.3	90.5	89.5	294	409	411	474	53	41	14	13	0.064	0.040	0.049	1.6	1.3	1.4
合計	1,909		1,709		89.5			703		885		94		27		0.049			1.4		
X線のみ要精検	1,909		1,709		89.5			703		885		94		27		/			1.4		
喀痰のみ要精検	0		0		0.0			0		0		0		0					0.0		
X線+喀痰要精検	0		0		0.0			0		0		0		0					0.0		

3) 検診機関別

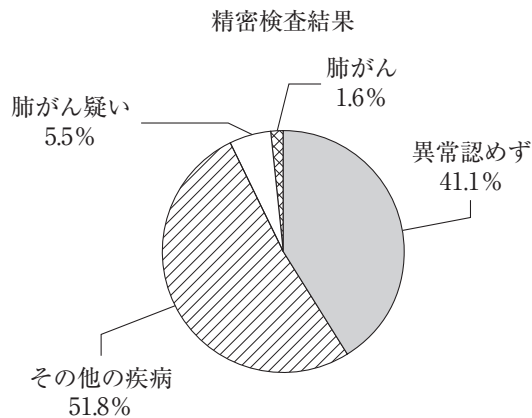
a. 一次検診結果

一 次 検 診 機 関	胸部エックス線検査				エックス線フィルム読影結果							X線検査受診 者中高危険群 所 属 者	
	受診者数 a'		経年受診者数再掲		要精検者数 b'		異常認めず		要精検率(%) c' = b' / a'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
保 健 事 業 団	9,291	15,583	7,245	11,967	293	406	8,998	15,177	3.15	2.61	2.81	2,763	123
中国労働衛生協会	296	458	238	381	17	27	279	431	5.74	5.90	5.84	23	1
病 院	4,195	5,531	2,943	3,867	177	195	4,018	5,336	4.22	3.53	3.82	1,209	66
診 療 所	8,161	11,261	5,828	8,045	387	407	7,774	10,854	4.74	3.61	4.09	2,620	139
計	21,943	32,833	16,254	24,260	874	1,035	21,069	31,798	3.98	3.15	3.49	6,615	329
合 計	54,776		40,514		1,909		52,867		3.49			6,944	

一次検診機関	喀痰容器提出者数 d'		喀痰細胞診結果						X線・喀痰細胞診とも要精検 g'		一次検診総合結果				
			要精検者数 e'		精検不要		要精検率(%) f' = e'/d'				要精検者数 h' = (b' + e') - g'		要精検率(%) i' = h'/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	734	48	0	0	734	48	0.00	0.00	0	0	293	406	3.15	2.61	2.81
中国労働衛生協会	21	0	0	0	21	0	0.00	0.00	0	0	17	27	5.74	5.90	5.84
病院	505	22	0	0	505	22	0.00	0.00	0	0	177	195	4.22	3.53	3.82
診療所	963	50	0	0	963	50	0.00	0.00	0	0	387	407	4.74	3.61	4.09
計	2,223	120	0	0	2,223	120	0.00	0.00	0	0	874	1,035	3.98	3.15	3.49
合計	2,343		0		2,343		0.00		0		1,909		3.49		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 j'		精密検査受診率(%) k' = j'/h'			精密検査結果								肺がん発見率(%) m' = l'/a'			陽性反応適中度(%) n' = l'/h'		
						異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん l'							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	249	359	85.0	88.4	87.0	83	157	132	179	29	21	5	2	0.054	0.013	0.028	1.7	0.5	1.0
中国労働衛生協会	14	22	82.4	81.5	81.8	5	8	7	13	2	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
病院	164	178	92.7	91.3	91.9	59	76	94	93	8	5	3	4	0.072	0.072	0.072	1.7	2.1	1.9
診療所	345	378	89.1	92.9	91.1	147	168	178	189	14	14	6	7	0.074	0.062	0.067	1.6	1.7	1.6
計	772	937	88.3	90.5	89.5	294	409	411	474	53	41	14	13	0.064	0.040	0.049	1.6	1.3	1.4
合計	1,709		89.5			703		885		94		27		0.049			1.4		



4) 平成29年度肺がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員										
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	異認めず	常その他の病	がん疑い	が	人	有所見者	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
A	B	C	D = B + C	E = D / A	F	G	H = F + G	I = H / D	J	K = J / H	L	M	N	O	P = M + N + O	Q = O / D	R = O / H		
鳥取市	59,003	3,759	15,389	19,148	32.5	81	491	572	2.99	529	92.5	231	246	39	13	298	0.068	2.3	
米子市	44,119	3,701	5,482	9,183	20.8	148	263	411	4.48	381	92.7	163	207	8	3	218	0.033	0.7	
倉吉市	17,150	1,285	1,918	3,203	18.7	23	87	110	3.43	91	82.7	33	51	6	1	58	0.031	0.9	
境港市	11,206	1,418	1,583	3,001	26.8	61	124	185	6.16	167	90.3	56	106	5	0	111	0.000	0.0	
岩美町	4,582	1,195	341	1,536	33.5	24	9	33	2.15	31	93.9	12	16	1	2	19	0.130	6.1	
八頭町	6,230	2,140	765	2,905	46.6	34	32	66	2.27	58	87.9	23	34	1	0	35	0.000	0.0	
若桜町	1,539	243	431	674	43.8	11	13	24	3.56	22	91.7	11	9	1	1	11	0.148	4.2	
智頭町	3,027	477	460	937	31.0	12	20	32	3.42	29	90.6	12	14	3	0	17	0.000	0.0	
湯梨浜町	5,676	1,697	745	2,442	43.0	28	26	54	2.21	48	88.9	21	20	5	2	27	0.082	3.7	
三朝町	2,574	935	165	1,100	42.7	20	10	30	2.73	27	90.0	11	14	2	0	16	0.000	0.0	
北栄町	5,516	1,749	463	2,212	40.1	24	8	32	1.45	23	71.9	9	12	2	0	14	0.000	0.0	
琴浦町	6,751	2,142	160	2,302	34.1	50	10	60	2.61	53	88.3	18	24	8	3	35	0.130	5.0	
南部町	4,011	483	1,246	1,729	43.1	20	73	93	5.38	71	76.3	34	36	1	0	37	0.000	0.0	
伯耆町	4,257	1,372	0	1,372	32.2	69	0	69	5.03	58	84.1	27	28	2	1	31	0.073	1.4	
日吉津村	1,008	247	0	247	24.5	9	0	9	3.64	9	100.0	2	7	0	0	7	0.000	0.0	
大山町	6,967	1,153	0	1,153	16.5	46	0	46	3.99	41	89.1	12	25	4	0	29	0.000	0.0	
日南町	2,551	638	0	638	25.0	30	0	30	4.70	27	90.0	12	12	3	0	15	0.000	0.0	
日野町	1,553	313	0	313	20.2	9	0	9	2.88	8	88.9	3	4	0	1	5	0.319	11.1	
江府町	1,412	681	0	681	48.2	44	0	44	6.46	36	81.8	13	20	3	0	23	0.000	0.0	
合計	189,132	25,628	29,148	54,776	29.0	743	1,166	1,909	3.49	1,709	89.5	703	885	94	27	1,006	0.049	1.4	
東部	74,381	7,814	17,386	25,200	33.9	162	565	727	2.88	669	92.0	289	319	45	16	380	0.063	2.2	
中部	37,667	7,808	3,451	11,259	29.9	145	141	286	2.54	242	84.6	92	121	23	6	150	0.053	2.1	
西部	77,084	10,006	8,311	18,317	23.8	436	460	896	4.89	798	89.1	322	445	26	5	476	0.027	0.6	

(3) 平成29年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性1,363、転移性148） 1,511例

他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5） 12例

総 計 1,523例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	62年	63年	平成 元年	平成 2年	平成 3年	平成 4年	平成 5年	平成 6年	平成 7年	平成 8年	平成 9年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38	38	53
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5	4	2
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43	42	55

	平成 10年	平成 11年	平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年
原発性肺癌	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52
転移性肺腫瘍	7	7	6	7	6	3	2	5	6	7	3
合 計	47	48	48	37	54	68	52	62	68	55	55

	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	合計
原発性肺癌	41	65	55	49	58	74	47	46	50	1,363
転移性肺腫瘍	8	4	6	5	4	7	1	4	3	148
合 計	49	69	61	54	62	81	48	50	53	1,511

2) 原発性肺がん診断方法

[H29年度集計]

				〔H29年度集計〕		〔H29年度集計〕	
胸 X 間 接	Dのみ	245例	} 1,259例(92.4%)	Dのみ	0例	} 49例(98.0%)	(E1:35例、E2:12例、E:2)
	Eのみ	1,014例		Eのみ	49例		
細 胞 診	Dのみ	21例	} 56例(4.1%)	Dのみ	0例	} 0例(0.0%)	
	Eのみ	35例		Eのみ	0例		
胸X線間接と細胞診	D + D	10例	} 45例(3.3%)	D + D	0例	} 0例(0.0%)	
	D + E	9例		D + E	0例		
	E + D	6例		E + D	0例		
	E + E	20例		E + E	0例		
	不明	3例	} 3例(0.2%)	不明	1例	} 1例(2.0%)	
計 1,363例				計 50例			

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 1	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
H22	45,482	2,004(4.41%)	1,767(88.2%)	65	142
H23	48,513	2,467(5.09%)	2,208(89.5%)	55	113
H24	50,376	2,460(4.88%)	2,201(89.5%)	49	97
H25	50,569	2,345(4.64%)	2,062(87.9%)	58	115
H26	53,208	2,303(4.33%)	2,021(87.8%)	74	139
H27	55,045	2,092(3.80%)	1,877(89.7%)	47	85
H28	54,679	1,864(3.41%)	1,680(90.1%)	46	84
H29	54,776	1,909(3.49%)	1,709(89.5%)	50	91
計	1,744,903	32,565(1.87%)	28,309(86.9%)	1,363	78

4) 原発性肺癌 (1,363例)

(1) 年齢・性別

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	87例	6.4
60～69歳	413	30.3
70～79歳	621	45.6
80～	242	17.7
計	1,363	100.0

平均年齢=72.1
男：女=816例：546例

(不明：1例)

[H29年度集計]

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	4例	8.0
60～69歳	15	30.0
70～79歳	18	36.0
80～	13	26.0
計	50	100.0

平均年齢=72.9
男：女=28例：21例

(不明：1例)

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類

〔H29年度集計〕

臨床病期	(%)
Occult	2例
I A	570(41.9)
I B	214
II A	54
II B	69
III A	159
III B	83
IV	177
不明	35
計	1,363

臨床病期	(%)
Occult	0
I A	27(54.0)
I B	4
II A	0
II B	1
III A	4
III B	0
IV	13
不明	1
計	50

} 31
(62.0%)

b. 組織型

〔H29年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	297例
腺癌	852(62.4)
大細胞癌	18
小細胞癌	81
腺扁平上皮癌	12
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	103
計	1,365*

組織型	(%)
扁平上皮癌	6例
腺癌	38(76.0)
大細胞癌	1
小細胞癌	3
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	2
計	50

* 2例：扁平上皮癌と腺癌、腺癌と大細胞癌の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例

(854例、手術率：62.7%)

〔H29年度集計〕

a. 臨床病期、術後病期

原発性肺癌の手術症例 (31例、手術率：62.0%)

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	2例	Occult	2例
I A	501(58.7)	I A	440(51.5)
I B	174	I B	191
II A	34	II A	39
II B	42	II B	50
III A	76	III A	85
III B	15	III B	24
IV	9	IV	20
不明	1	不明	3
計	854	計	854

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	0例	Occult	0例
I A	24(77.4)	I A	18(58.0)
I B	3	I B	6
II A	0	II A	1
II B	1	II B	1
III A	2	III A	2
III B	0	III B	0
IV	1	IV	1
不明	0	不明	2
計	31	計	31

} 24
(77.4%)

b. 組織型分類

〔29年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	166例
腺癌	633(74.1)
大細胞癌	14
小細胞癌	10
腺扁平上皮癌	13
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	16
計	854

組織型	(%)
扁平上皮癌	3例
腺癌	27(87.1)
大細胞癌	1
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	0
計	31

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)
0~10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4
11~20	9 (22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.7)	11	26(41.9)	14(31.8)
21~30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.6)	15	18
31~40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5
41~50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3
51~	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm
	最高90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm

腫瘍径 (mm)	H20年度 (%)	H21年度 (%)	H22年度 (%)	H23年度 (%)	H24年度 (%)	H25年度 (%)	H26年度 (%)	H27年度 (%)	H28年度 (%)	H29年度 (%)
0~10	3	2	2	1	4	3	3	0	1	8
11~20	21(40.4)	10	13	16(29.1)	14(28.6)	16	28(37.8)	16(34.0)	14(30.4)	15(30.0)
21~30	6	13(31.7)	26(40)	16(29.1)	13	20(34.5)	21	8	10	15
31~40	14	8	15	6	8	8	7	14	13	2
41~50	5	6	6	4	6	5	6	6	5	2
51~	1	2	2	11	2	6	5	3	2	8
不明	2	0	1	1	2	0	4	0	1	0
計	52	41	65	55	49	58	74	47	46	50
平均	26.1mm	25.9mm	29.4mm	33.2mm	28.4	28.3mm	26.7	30.4	28.6	32.2
	最高71mm	68mm	80mm	90mm	100mm	60mm	70mm	70mm	56mm	83mm

5) 転移性肺腫瘍 (148例)

大腸癌：33例 乳癌：20例 前立腺癌：13例 甲状腺癌：12例 腎臓癌：11例
 肝臓癌：9例 胃癌：6例 子宮癌：5例 胆管癌：4例 膵臓癌：4例
 尿管癌：4例 胆のう癌：4例 膀胱癌：3例 肺癌：2例 食道癌：2例
 卵巣癌：2例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 肛門癌：1例 顎下腺癌：1例
 咽頭癌：1例 後腹膜腫瘍：1例 卵管肉腫：1例 不明：7例

〔H29年度集計〕(3例)

大腸癌：1例、膀胱癌：1例、胆のう癌：1例

平成29年度肺がん検診で発見された肺がん症例の特徴

1. 受診者数は昨年より97名増加し、受診率は29.0% (+0.1%) であった。要精検率は3.49% (+0.08%) と増加、精検受診率は89.5% (-0.6%) と減少した。肺がんは28名 (-12名) 発見され、そのうち原発性肺がんは27名 (-10名)、がん発見率は0.05% (-0.02%)、陽性反応適中度1.4% (-0.6%) となり、昨年を下回った。
2. 予後調査では原発性肺がん50例、転移性肺腫瘍3例、合計53例の肺がん確定診断を得た。最終報告で94名あった肺がん疑いは、その後の予後調査により原発性肺がんが23名、転移性肺腫瘍が2名発見され、肺がん疑いのままが16名、良性が7名、異常なしが26名、不明18名、現在なお調査中が2名という結果であった。肺がん疑いと調査中の18名は今後2年間フォローを続ける予定である。
3. 発見された原発性肺がんのうち49例 (98.0%) が胸部X線で発見され、喀痰細胞診で発見された肺がんはなかった。
4. 原発性肺がんの平均年齢は72.9歳、女性肺がんは21例 (42.0%)、臨床病期はI期31例 (62.0%)、腺癌は38例 (76.0%) と例年どおりI期の肺腺がん割合が多かった。
5. 手術症例の割合は31例 (62.0%)、術後病期I期の肺がんは24例 (77.4%)、腺癌が27例 (87.1%) であった。
6. 腫瘍径は平均32.2mm (+3.6mm) と昨年より大きくなった。11-20mmが15例 (30.0%) であった。
7. 転移性肺腫瘍は3例で、原発巣は大腸癌1例、膀胱癌1例、胆のう癌1例であった。

6) 平成29年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	車 検 診	施 設 検 診
受診者数	25,628	29,148
要精検数	743 (2.9%) 東部：162 (2.07%) 中部：145 (1.86%) 西部：436 (4.36%)	1,166 (4.0%) 東部：565 (3.25%) 中部：141 (4.09%) 西部：460 (5.53%)
確定者数	21名 (0.082%) (東部8、中部4、西部9)	29名 (0.099%) (東部18、中部5、西部6)
発見方法	E1判定 16名 E2判定 5名	E1判定19名 E2判定7名 E判定2名 不明1名
年 齢	73.8歳	72.5歳
性 差	男13名、女7名、不明1名	男15名、女14名
臨床病期	I A 14名、I B 1名 II A 0名、II B 0名 III A 2名、IV 4名	I A 13名、I B 3名 II A 0名、II B 1名 III A 2名、III B 0名 IV 9名、不明 1名
組 織 型	扁平上皮癌2名、腺癌15名 大細胞癌1名、小細胞癌2名 不明1名	扁平上皮癌4名、腺癌23名 大細胞癌0名、小細胞癌1名、 不明1名
手 術	あり13名、なし8名	あり18名、なし11名
腫 瘍 径	32.1mm	32.3mm

4. 乳 がん 検 診

1. 乳がん検診実績

平成29年度より全県でマンモグラフィ単独検診実施となった。

平成29年度対象者数115,469人（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）、受診者数19,317人、受診率16.7%で、受診率は前年度と増減を認めなかった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法は40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数44,660人、受診者数14,516人、受診率32.5%であった。

要精検者数1,075人、要精検率5.57%で前年度より0.89ポイント減少した。精検受診者数1,032人、精検受診率は96.0%で、平成28年度より1.8ポイント増であった。

精検の結果、乳がん74人、がん発見率（がん/受診者数）0.38%、陽性反応適中度（がん/要精検者数）6.88%であった。がん疑いは3人発見された。平成28年度に比べ、がん発見率は0.03ポイント、陽性反応適中度は1.49ポイント増加した。

検診受診率は近年16～17%台で推移しており、大きな変動は認めていない。平成29年度より、全県でマンモグラフィ単独検診となったが、要精検率、精検受診率、検診発見がん率、陽性反応適中度のすべてにおいて国が示す許容値を満たしており、精度は保たれていた。

検診機関別に見てみると、受診者数は車検診約4割強、施設機関検診が約6割弱で、要精検率は車検診4.98%、施設機関検診6.02%で施設機関検診が高い傾向である。圏域別の要精検率は東部4.67%、中部5.44%、西部6.50%であった。また、40歳、50歳代の要精検率が高い。がん発見率は東部0.41%、中部0.22%、西部0.43%、また、陽性反応適中度は東部8.9%、中部4.0%、西部6.6%であった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (%)	要精検者数	要精検率 (%)
車 検 診 (保健事業団、中国労働衛生協会)	8,440 (43.7%)	420	4.98
施 設 検 診 (病院、診療所)	10,877 (56.3%)	655	6.02
計	19,317 (100%)	1,075	5.57

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
車 検 診	402	95.7	30	0.36
施 設 検 診	630	96.2	44	0.40
計	1,032	96.0	74	0.38

〈圏域別結果〉

区 分	対象者数	受診者数	受診率 (%)	要精検 者 数	要精検率 (%)	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
東 部	45,081	7,715	17.11	360	4.67	349	96.9	32	0.41
中 部	22,648	3,676	16.23	200	5.44	194	97.0	8	0.22
西 部	47,740	7,926	16.60	515	6.50	489	95.0	34	0.43
計	115,469	19,317	16.73	1,075	5.57	1,032	96.0	74	0.38

2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

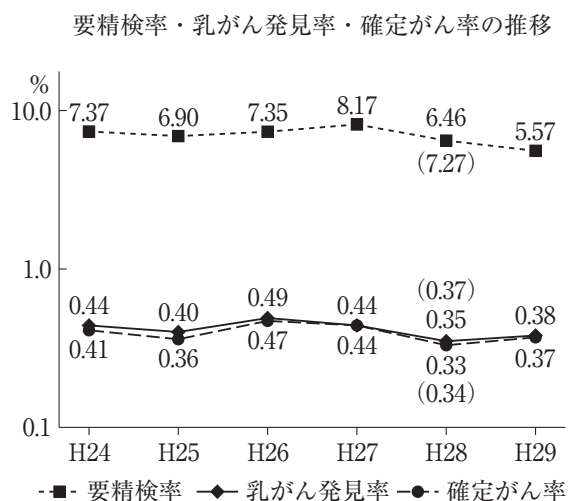
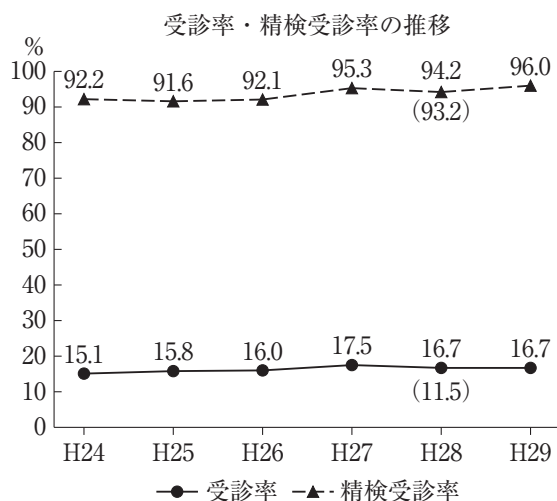
平成29年度は全県でマンモグラフィ単独検診に移行し、乳癌確定症例は72例であった。前年度の63例に比較して増加していた。

発見癌患者の平均年齢は63.4歳で前年度とほぼ同様であり、60代、70代の患者が多かった。一般的な乳癌罹患数の多い年代より平均年齢は高齢である。病期に関しては、約2/3が早期癌症例であった。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度・鳥取市分含	29年度
一次検診	対象者数(人) A	118,248	118,248	118,248	118,248	115,469	115,469	115,469
	受診者数(人) B	17,818	18,715	18,959	20,666	13,226	19,245	19,317
	受診率(%) C = B/A	15.1	15.8	16.0	17.5	11.5	16.7	16.7
一次検診結果	異常認めず(人) D	16,504	17,423	17,566	18,977	12,265	18,001	18,242
	要精検者数(人) E	1,314	1,292	1,393	1,689	961	1,244	1,075
	要精検率(%) F = E/B 指標 11.0%以下	7.37	6.90	7.35	8.17	7.27	6.46	5.57
精密検査	精検受診者数(人) G	1,211	1,184	1,283	1,609	896	1,172	1,032
	精検受診率(%) H = G/E	92.2	91.6	92.1	95.3	93.2	94.2	96.0
精密検査結果	乳がんの者(人) I	78(1)	74(2)	92(5)	91(3)	49(2)	67(3)	74(3)
	乳がん発見率(%) J = I/B 指標 0.23%以上	0.44	0.40	0.49	0.44	0.37	0.35	0.38
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標 2.5%以上	5.94	5.73	6.60	5.39	5.10	5.39	6.88
確定調査結果	確定がん数(人) L	73	67	90	90	45	63	72
	確定がん率(%) M = L/B	0.41	0.36	0.47	0.44	0.34	0.33	0.37

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- * 4 平成19年度報告より、視触診のみの受診者数を除く受診結果を計上
- * 5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。平成20年度報告より視・マンモ併用検診で発見された数。()内の数値は、視触診のみ検診で発見された数を含んだ数。
- * 6 平成29年度実績から、検診方法がマンモグラフィのみとなった。



(2) 平成29年度乳がん検診 (マンモグラフィのみ受診者)

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数 a	一次検診受診者数 b	受診率 (%) c = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b
				要精検者数 d	異常認めず	
40～44歳	3,950	2,422	61.3	192	2,230	7.93
45～49歳	3,400	1,789	52.6	153	1,636	8.55
50～54歳	3,868	2,062	53.3	117	1,945	5.67
55～59歳	5,767	2,066	35.8	113	1,953	5.47
60～64歳	11,161	3,144	28.2	159	2,985	5.06
65～69歳	16,514	3,033	18.4	146	2,887	4.81
70～74歳	15,344	2,615	17.0	111	2,504	4.24
75～79歳	16,002	1,366	8.5	62	1,304	4.54
80歳以上	39,463	820	2.1	22	798	2.68
計	115,469	19,317	16.7	1,075	18,242	5.57

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 l	精検受診率 (%) m = l / d	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) o = n / b	陽性反応 適 中 度 (%) p = n / d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん n		
40～44歳	187	97.4	72	108	1	6	0.25	3.13
45～49歳	144	94.1	60	78	0	6	0.34	3.92
50～54歳	112	95.7	50	58	0	4	0.19	3.42
55～59歳	108	95.6	49	52	0	7	0.34	6.19
60～64歳	154	96.9	83	59	0	12	0.38	7.55
65～69歳	143	97.9	68	58	1	16	0.53	10.96
70～74歳	104	93.7	60	30	1	13	0.50	11.71
75～79歳	59	95.2	38	13	0	8	0.59	12.90
80歳以上	21	95.5	10	9	0	2	0.24	9.09
計	1,032	96.0	490	465	3	74	0.38	6.88

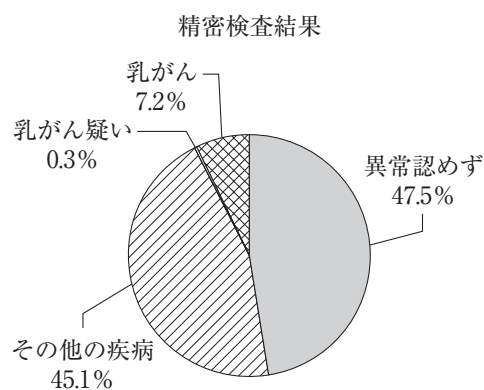
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数 a'	一次検診結果		要精検率 (%) c' = b' / a'
		要精検者数 b'	異常認めず	
保健事業団	8,374	418	7,956	4.99
病 院	9,251	529	8,722	5.72
診 療 所	1,626	126	1,500	7.75
そ の 他	66	2	64	3.03
計	19,317	1,075	18,242	5.57

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査 受診者数 j'	精検受診率 (%) k' = j' / b'	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) m' = l' / a'	陽性反応 適 中 度 (%) n' = l' / b'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん l'		
保健事業団	400	95.7	212	157	1	30	0.36	7.18
病 院	508	96.0	221	249	2	36	0.39	6.81
診 療 所	122	96.8	56	58	0	8	0.49	6.35
そ の 他	2	100.0	1	1	0	0	0.00	0.00
計	1,032	96.0	490	465	3	74	0.38	6.88



4) 平成29年度乳がん検診受診状況(マンモグラフィのみの受診者)

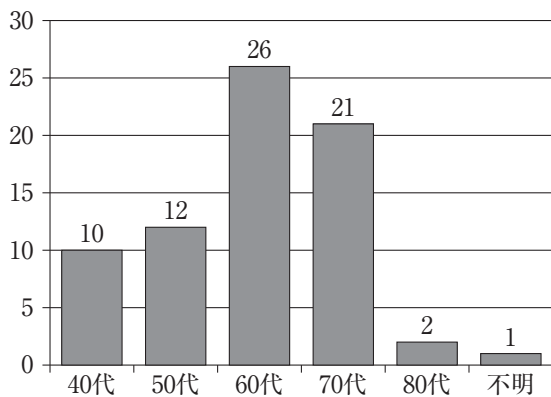
市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検 率(%)	異常 認めず	その他 の疾病	がん 疑い	がん	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率(%)	陽性反応 適中度(%)
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	Q=O/D	R=O/H	
鳥取市	35,981	2,479	3,478	5,957	16.6	148	138	286	4.80	278	97.2	134	119	0	25	144	0.42	8.7
米子市	27,725	638	3,605	4,243	15.3	40	270	310	7.31	303	97.7	118	161	1	23	185	0.54	7.4
倉吉市	10,453	659	645	1,304	12.5	29	57	86	6.60	85	98.8	52	31	0	2	33	0.15	2.3
境港市	6,910	370	895	1,265	18.3	26	48	74	5.85	71	95.9	31	34	1	5	40	0.40	6.8
岩美町	2,704	180	295	475	17.6	8	13	21	4.42	20	95.2	7	10	0	3	13	0.63	14.3
八頭町	3,681	645	158	803	21.8	27	13	40	4.98	39	97.5	19	18	0	2	20	0.25	5.0
若桜町	908	154	14	168	18.5	4	0	4	2.38	4	100.0	4	0	0	0	0	0.00	0.0
智頭町	1,807	128	184	312	17.3	4	5	9	2.88	8	88.9	5	1	0	2	3	0.64	22.2
湯梨浜町	3,347	562	182	744	22.2	16	11	27	3.63	27	100.0	14	10	0	3	13	0.40	11.1
三朝町	1,544	170	30	200	13.0	13	4	17	8.50	17	100.0	8	7	0	2	9	1.00	11.8
北栄町	3,260	559	119	678	20.8	22	12	34	5.01	33	97.1	21	12	0	0	12	0.00	0.0
琴浦町	4,044	620	130	750	18.5	20	16	36	4.80	32	88.9	18	13	0	1	14	0.13	2.8
南部町	2,416	292	407	699	28.9	9	28	37	5.29	33	89.2	21	10	0	2	12	0.29	5.4
伯耆町	2,584	212	217	429	16.6	15	10	25	5.83	23	92.0	10	11	0	2	13	0.47	8.0
日吉津村	649	78	76	154	23.7	7	2	9	5.84	9	100.0	4	5	0	0	5	0.00	0.0
大山町	4,109	339	196	535	13.0	19	14	33	6.17	28	84.8	10	16	1	1	18	0.19	3.0
日南町	1,521	195	35	230	15.1	5	2	7	3.04	7	100.0	7	0	0	0	0	0.00	0.0
日野町	962	160	0	160	16.6	8	0	8	5.00	6	75.0	2	4	0	0	4	0.00	0.0
江府町	864	0	211	211	24.4	0	12	12	5.69	9	75.0	5	3	0	1	4	0.47	8.3
合計	115,469	8,440	10,877	19,317	16.7	420	655	1,075	5.57	1,032	96.0	490	465	3	74	542	0.38	6.9
東部	45,081	3,586	4,129	7,715	17.1	191	169	360	4.67	349	96.9	169	148	0	32	180	0.41	8.9
中部	22,648	2,570	1,106	3,676	16.2	100	100	200	5.44	194	97.0	113	73	0	8	81	0.22	4.0
西部	47,740	2,284	5,642	7,926	16.6	129	386	515	6.50	489	95.0	208	244	3	34	281	0.43	6.6

(3) 平成29年度検診発見乳がん追跡調査結果

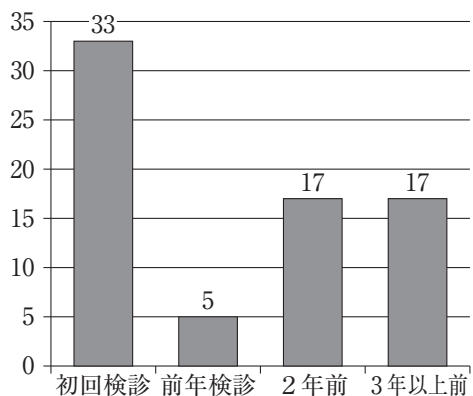
1) 確定乳癌 72例

東部地区 (31例) :	鳥取市 24例	岩美町 3例	八頭町 2例	智頭町 2例
中部地区 (8例) :	倉吉市 2例	湯梨浜町 3例	三朝町 2例	琴浦町 1例
西部地区 (33例) :	米子市 21例	境港市 4例	大山町 1例	南部町 3例
	伯耆町 3例	江府町 1例		

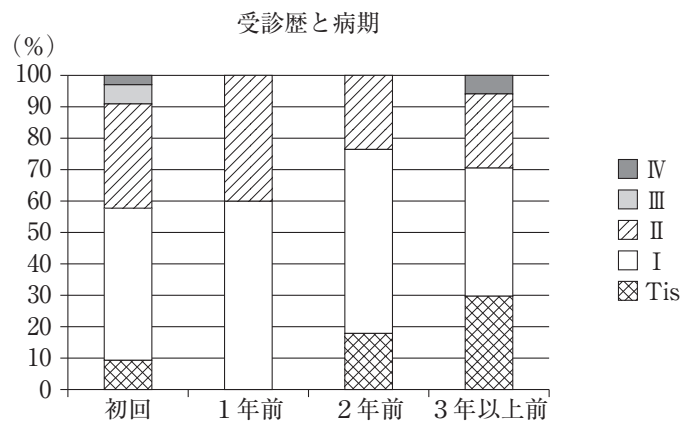
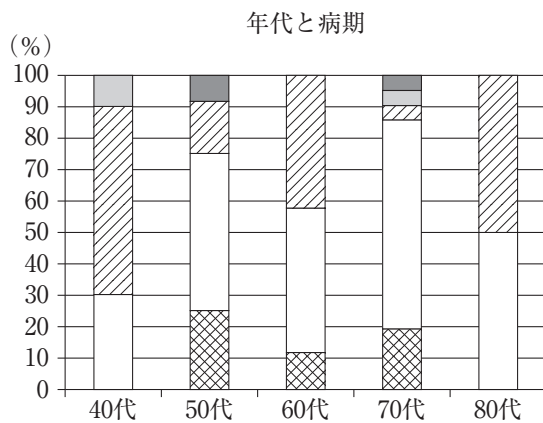
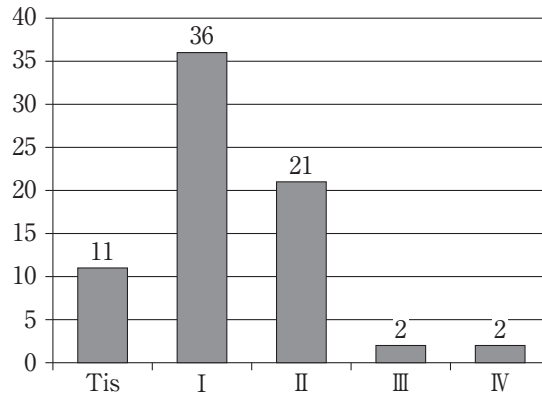
2) 年齢構成 平均年齢：63.4歳



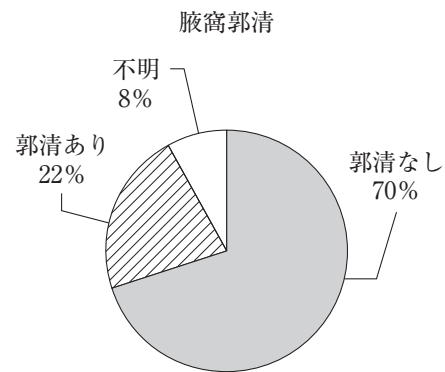
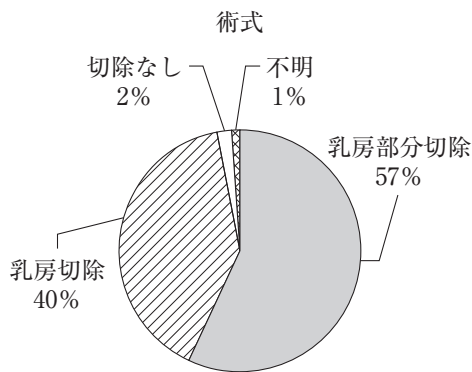
3) 検診歴



4) 病期



5) 手術



まとめ

1. 平成29年度は全県でマンモグラフィ単独検診に移行し、乳癌確定症例は72例であった。前年度の63例に比較して増加していた。
2. 発見癌患者の平均年齢は63.4歳で前年度とほぼ同様であり、60代、70代の患者が多かった。一般的な乳癌罹患数の多い年代より平均年齢は高齢である。
3. 初回検診患者での乳癌発見例が多く、初回患者の掘り起こしが重要であると考えられる。
4. 病期に関しては、約2/3が早期癌症例であった。40代に関しては早期癌症例が少なく、乳房構成の問題からマンモグラフィで早期発見が困難な可能性もある。次年度以降の結果をみていく必要がある。平成29年度はStageIV症例が2名あり、さらなる啓発が必要である。
5. 術式に関しては乳房部分切除（乳房温存）が多かったが、全国的に温存手術は減少傾向にある。本県では乳房温存手術の割合は前年度と同様であった。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

平成29年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は189,132人で、このうち受診者数は57,352人、受診率は30.3%で、前年度に比べ、受診率は0.3ポイント減少した。平成20年度以降、受診者数、受診率ともに上昇傾向が続いていたが、平成27年度をピークに2年続けて減少した。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数30,140人、受診率39.2%で、全国平均（平成28年度）受診率8.8%に比較し高い。

一次検査による要精検者数は5,029人で要精検率は8.8%（前年比0.4ポイント減）であった。要精検者のうち精密検査を受診したのは3,911人で精検受診率は77.8%（前年度比0.7ポイント増）であった。また、精検の結果大腸がんであったのが175人でがん発見率は0.31%（前年と同率）、陽性反応適中度は3.5%（前年比0.2ポイント増）であった。要精検率は国が示す許容値を上回っているが、がん発見率、陽性反応の適中度は国の許容値を満たしており、例年と同様に精度は保たれていると考えられる。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (%)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
地域検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	21,044 (36.7%)	1,430	6.8	6.6	6.8	7.1
施設検診 (病院・診療所)	36,308 (63.3%)	3,599	9.9	9.1	10.8	10.5
計	57,352 (100%)	5,029	8.8	8.3	8.0	9.6

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
地 域 検 診	1,094	76.5	48	0.228	0.179	0.241	0.277
施 設 検 診	2,817	78.3	127	0.350	0.338	0.234	0.386
計	3,911	77.8	175	0.305	0.287	0.239	0.358

〈圏域別結果〉

(1) 地域検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	がん	がん発見率
東 部	7,817	515	6.6	385	74.8	0	14	0.179
中 部	7,457	505	6.8	395	78.2	0	18	0.241
西 部	5,770	410	7.1	314	76.6	0	16	0.277
計	21,044	1,430	6.8	1,094	76.5	0	48	0.228

(2) 施設検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	がん	がん発見率
東 部	16,566	1,512	9.1	1,211	80.1	4	56	0.338
中 部	3,416	368	10.8	279	75.8	1	8	0.234
西 部	16,326	1,719	10.5	1,327	77.2	2	63	0.386
計	36,308	3,599	9.9	2,817	78.3	7	127	0.350

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い182例について確定調査を行った結果、確定癌171例（地域検診46例、施設検診125例）、腺腫4例、その他7例（調査中4件、未受診2件、詳細不明1件）であった。そのうち早期がんは106例、早期癌率は62.0%で、平成28年度に比べ早期がんの割合が増えている。

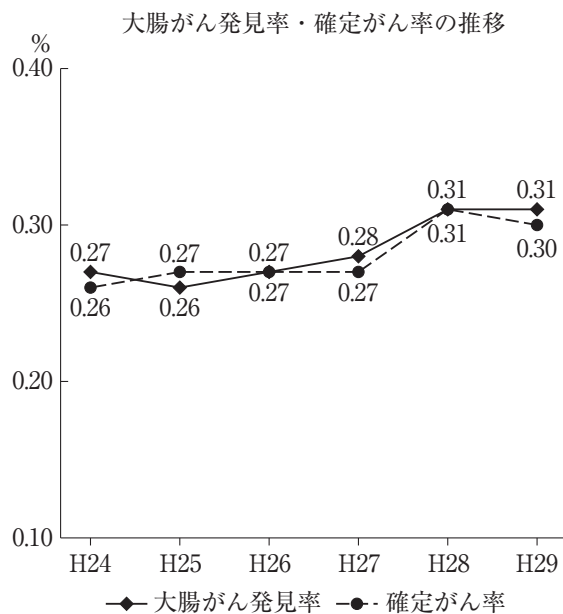
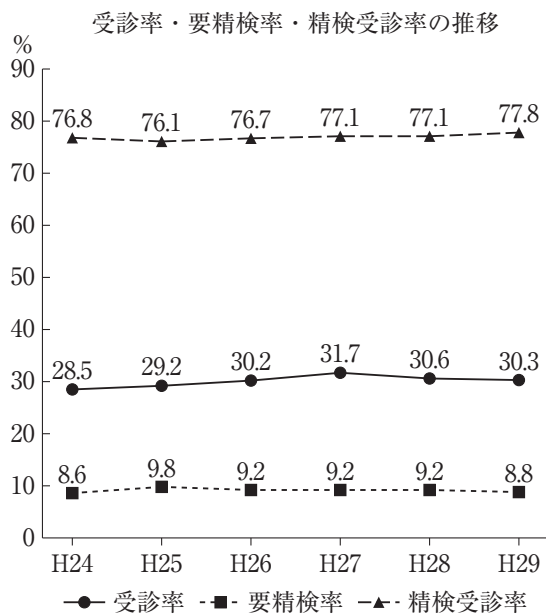
調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様の傾向であった。

- (1) 性及び年齢では男女とも例年通り60歳以上からがんが多く発見され、70歳代が一番多かった。40歳代からがんが6例発見された。
- (2) 部位では「R」と「S」が56.7%で、肉眼分類では「2」は32.2%であった。早期癌106例の肉眼分類では「Ip」「Isp」が49.1%であった。例年通りの傾向であった。
- (3) 深達度「m」が43.3%、「sm」が18.7%で、早期がん62.0%であった。
- (4) 大きさは、10ミリ以下のものが20.5%で例年に比べ少なかった。
- (5) Dukes分類は「A」が74.3%、組織型分類は「Well」が56.1%、「Mod」が35.7%で例年通りの傾向であった。
- (6) 治療方法は外科手術が23例（13.5%）、内視鏡下手術71例（41.5%）、内視鏡治療は76例（44.4%）であった。内視鏡治療の割合が増えた。
- (7) 逐年検診発見進行大腸がんは22例（東部9例、中部3例、西部10例）であった。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	190,556	190,556	190,556	190,556	189,132	189,132
	受 診 者 数(人) B	54,362	55,556	57,502	60,329	57,917	57,352
	受 診 率(%) C = B/A	28.5	29.2	30.2	31.7	30.6	30.3
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	49,693	50,100	52,222	54,810	52,596	52,323
	要 精 検 者 数(人) E	4,669	5,456	5,280	5,519	5,321	5,029
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標：許容値7.0%以下	8.59	9.82	9.18	9.15	9.20	8.77
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	3,588	4,151	4,049	4,253	4,102	3,911
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標：目標値90%以上	76.8	76.1	76.7	77.1	77.1	77.8
精 密 検 査 結 果	大 腸 が ん の 者(人) I	149(4)	146(9)	156(10)	166(14)	177(14)	175(7)
	大 腸 が ん 発 見 率(%) J = I/B 指標：許容値0.13%以上	0.27	0.26	0.27	0.28	0.31	0.31
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標：許容値1.9%以上	3.2	2.7	3.0	3.0	3.3	3.5
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	142	148	155	165	181	171
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.26	0.27	0.27	0.27	0.31	0.30

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成29年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 a		一次検診 受診者数 b		受診率 (%) c = b / a			一次検診結果				要精検率 (%) e = d / b		
								要精検者数 d		異常認めず				
	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,702	3,950	891	1,756	33.0	44.5	39.8	48	121	843	1,635	5.4	6.9	6.4
45～49歳	2,391	3,400	819	1,612	34.3	47.4	42.0	48	106	771	1,506	5.9	6.6	6.3
50～54歳	2,494	3,868	772	1,749	31.0	45.2	39.6	44	99	728	1,650	5.7	5.7	5.7
55～59歳	3,464	5,767	1,018	2,559	29.4	44.4	38.7	78	154	940	2,405	7.7	6.0	6.5
60～64歳	7,789	11,161	2,429	4,390	31.2	39.3	36.0	223	247	2,206	4,143	9.2	5.6	6.9
65～69歳	13,314	16,514	5,132	7,013	38.5	42.5	40.7	533	476	4,599	6,537	10.4	6.8	8.3
70～74歳	11,961	15,344	4,758	6,280	39.8	40.9	40.4	524	493	4,234	5,787	11.0	7.9	9.2
75～79歳	11,039	16,002	3,377	4,783	30.6	29.9	30.2	408	419	2,969	4,364	12.1	8.8	10.1
80歳以上	18,509	39,463	3,333	4,681	18.0	11.9	13.8	502	506	2,831	4,175	15.1	10.8	12.6
計	73,663	115,469	22,529	34,823	30.6	30.2	30.3	2,408	2,621	20,121	32,202	10.7	7.5	8.8
合 計	189,132		57,352		30.3			5,029		52,323		8.8		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f / d			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) i = h / b			陽性反応適中度 (%) j = h / d		
						異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん h							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	36	86	75.0	71.1	72.2	11	50	24	34	0	0	1	2	0.112	0.114	0.113	2.1	1.7	1.8
45～49歳	39	76	81.3	71.7	74.7	13	40	24	35	0	0	2	1	0.244	0.062	0.123	4.2	0.9	1.9
50～54歳	26	78	59.1	78.8	72.7	7	34	17	41	0	1	2	2	0.259	0.114	0.159	4.5	2.0	2.8
55～59歳	61	124	78.2	80.5	79.7	11	51	48	65	0	1	2	7	0.196	0.274	0.252	2.6	4.5	3.9
60～64歳	161	211	72.2	85.4	79.1	27	89	124	116	0	0	10	6	0.412	0.137	0.235	4.5	2.4	3.4
65～69歳	410	387	76.9	81.3	79.0	65	143	314	231	2	0	29	13	0.565	0.185	0.346	5.4	2.7	4.2
70～74歳	418	417	79.8	84.6	82.1	69	142	325	258	1	1	23	16	0.483	0.255	0.353	4.4	3.2	3.8
75～79歳	334	348	81.9	83.1	82.5	62	123	258	209	1	0	13	16	0.385	0.335	0.355	3.2	3.8	3.5
80歳以上	362	337	72.1	66.6	69.3	56	100	287	226	0	0	19	11	0.570	0.235	0.374	3.8	2.2	3.0
計	1,847	2,064	76.7	78.7	77.8	321	772	1,421	1,215	4	3	101	74	0.448	0.213	0.305	4.2	2.8	3.5
合計	3,911		77.8			1,093		2,636		7		175		0.305			3.5		

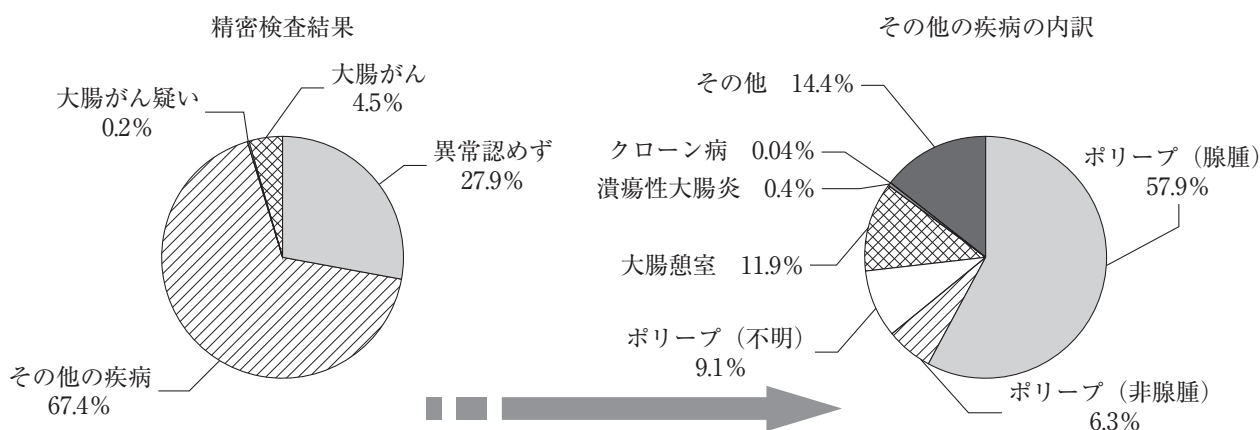
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b' / a'		
			要精検者数 b'		異常認めず				
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	7,726	12,555	646	727	7,080	11,828	8.4	5.8	6.8
中国労働衛生協会	304	459	28	29	276	430	9.2	6.3	7.5
地域検診小計	8,030	13,014	674	756	7,356	12,258	8.4	5.8	6.8
病院	4,445	6,142	598	579	3,847	5,563	13.5	9.4	11.1
診療所	10,054	15,667	1,136	1,286	8,918	14,381	11.3	8.2	9.4
施設検診小計	14,499	21,809	1,734	1,865	12,765	19,944	12.0	8.6	9.9
計	22,529	34,823	2,408	2,621	20,121	32,202	10.7	7.5	8.8
合計	57,352		5,029		52,323		8.8		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応適中度 (%) h' = f' / b'		
						異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	490	559	75.9	76.9	76.4	88	207	374	334	0	0	28	18	0.362	0.143	0.227	4.3	2.5	3.4
中国労働衛生協会	21	24	75.0	82.8	78.9	4	7	17	15	0	0	—	2	—	0.436	0.262	—	6.9	3.5
地域検診小計	511	583	75.8	77.1	76.5	92	214	391	349	0	0	28	20	0.349	0.154	0.228	4.2	2.6	3.4
病院	453	455	75.8	78.6	77.1	87	190	342	252	2	0	22	13	0.495	0.212	0.331	3.7	2.2	3.0
診療所	883	1,026	77.7	79.8	78.8	142	368	688	614	2	3	51	41	0.507	0.262	0.358	4.5	3.2	3.8
施設検診小計	1,336	1,481	77.0	79.4	78.3	229	558	1,030	866	4	3	73	54	0.503	0.248	0.350	4.2	2.9	3.5
計	1,847	2,064	76.7	78.7	77.8	321	772	1,421	1,215	4	3	101	74	0.448	0.213	0.305	4.2	2.8	3.5
合計	3,911		77.8			1,093		2,636		7		175		0.305			3.5		



4) 平成29年度大腸がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員											
	対象者数	地域検診	施設検診	計	受診率 (%)	地域検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	異認めず	常その他の	がん疑い	が	人	有所見者	がん発見率 (%)	陽性反応	
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H		
鳥取市	59,003	3,975	14,354	18,329	31.1	238	1,328	1,566	8.5	1,243	79.4	346	841	4	52	897	0.284	3.3		
米子市	44,119	0	12,145	12,145	27.5	0	1,213	1,213	10.0	946	78.0	264	629	2	51	682	0.420	4.2		
倉吉市	17,150	1,331	2,025	3,356	19.6	98	225	323	9.6	250	77.4	71	165	0	14	179	0.417	4.3		
境港市	11,206	913	2,406	3,319	29.6	66	284	350	10.5	297	84.9	94	189	0	14	203	0.422	4.0		
岩美町	4,582	1,206	391	1,597	34.9	84	26	110	6.9	94	85.5	26	63	0	5	68	0.313	4.5		
八頭町	6,230	2,111	675	2,786	44.7	156	73	229	8.2	168	73.4	43	115	0	10	125	0.359	4.4		
若桜町	1,539	243	380	623	40.5	16	29	45	7.2	32	71.1	6	25	0	1	26	0.161	2.2		
智頭町	3,027	282	766	1,048	34.6	21	56	77	7.3	59	76.6	16	41	0	2	43	0.191	2.6		
湯梨浜町	5,676	1,455	706	2,161	38.1	90	65	155	7.2	123	79.4	38	78	1	6	85	0.278	3.9		
三朝町	2,574	641	193	834	32.4	41	24	65	7.8	50	76.9	19	30	0	1	31	0.120	1.5		
北栄町	5,516	2,302	331	2,633	47.7	161	29	190	7.2	136	71.6	37	96	0	3	99	0.114	1.6		
琴浦町	6,751	1,728	161	1,889	28.0	115	25	140	7.4	115	82.1	21	92	0	2	94	0.106	1.4		
南部町	4,011	465	1,178	1,643	41.0	25	179	204	12.4	129	63.2	38	89	0	2	91	0.122	1.0		
伯耆町	4,257	1,227	0	1,227	28.8	78	0	78	6.4	52	66.7	20	32	0	0	32	0.000	0.0		
日吉津村	1,008	282	235	517	51.3	17	22	39	7.5	26	66.7	6	19	0	1	20	0.193	2.6		
大山町	6,967	1,184	326	1,510	21.7	101	21	122	8.1	91	74.6	23	64	0	4	68	0.265	3.3		
日南町	2,551	652	36	688	27.0	50	0	50	7.3	38	76.0	11	24	0	3	27	0.436	6.0		
日野町	1,553	397	0	397	25.6	24	0	24	6.0	23	95.8	5	16	0	2	18	0.504	8.3		
江府町	1,412	650	0	650	46.0	49	0	49	7.5	39	79.6	9	28	0	2	30	0.308	4.1		
合計	189,132	21,044	36,308	57,352	30.3	1,430	3,599	5,029	8.8	3,911	77.8	1,093	2,636	7	175	2,818	0.305	3.5		
東部	74,381	7,817	16,566	24,383	32.8	515	1,512	2,027	8.3	1,596	78.7	437	1,085	4	70	1,159	0.287	3.5		
中部	37,667	7,457	3,416	10,873	28.9	505	368	873	8.0	674	77.2	186	461	1	26	488	0.239	3.0		
西部	77,084	5,770	16,326	22,096	28.7	410	1,719	2,129	9.6	1,641	77.1	470	1,090	2	79	1,171	0.358	3.7		

(3) 平成29年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	14	18	16	48	60	9	65	134	74	27	81	182
確定癌	13	17	16	46	58	8	59	125	71	25	75	171
腺腫	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	4	4
その他	1	1	0	2	2	1	2	5	3	2	2	7

※その他の内訳（調査中4件、未受診2件、詳細不明1件）

腺腫のケースも含め、組織診断が判明する前に、報告票を提出してしまっている。

表2 性及び年齢

年齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地域	男	0	1	0	0	3	8	8	3	3	26
	女	0	0	0	1	2	5	2	7	3	20
	計	0	1	0	1	5	13	10	10	6	46
施設	男	1	1	2	2	6	20	15	9	13	69
	女	2	1	2	7	4	8	14	8	10	56
	計	3	2	4	9	10	28	29	17	23	125
計	男	1	2	2	2	9	28	23	12	16	95
	女	2	1	2	8	6	13	16	15	13	76
総計		3	3	4	10	15	41	39	27	29	171

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	3	10	4	17	14	2	15	31	48(28.1)
S	3	5	7	15	17	1	16	34	49(28.7)
D	2	0	0	2	3	1	6	10	12(7.0)
T	1	2	2	5	10	1	10	21	26(15.2)
A	4	0	3	7	11	3	8	22	29(17.0)
C	0	0	0	0	3	0	4	7	7(4.1)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	13	17	16	46	58	8	59	125	171

表4 大きさ

大きさ (mm)	地 域				施 設				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0～10	1	2	4	7	12	2	14	28	35(20.5)
11～20	8	7	7	22	21	3	21	45	67(39.2)
21～50	3	8	3	14	19	2	18	39	53(31.0)
51～	1	0	1	2	6	1	6	13	15(8.8)
不明	0	0	1	1	0	0	0	0	1(0.6)
計	13	17	16	46	58	8	59	125	171

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	29	77	106(62.0)
1	2	6	8(4.7)
2	15	40	55(32.2)
3	0	2	2(1.2)
4	0	0	0
5	0	0	0
不明	0	0	0
計	46	125	171

表6 O型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	7	18	25(23.6)
I sp	10	17	27(25.5)
I s	2	14	16(15.1)
II a	8	17	25(23.6)
II a+ II c	1	9	10(9.4)
II b	0	0	0
II c	0	1	1(0.9)
III	0	0	0
その他	1	1	2(1.9)
不明	0	0	0
計	29	77	106

表7 深達度

深達度	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	4	10	7	23	4	26	74(43.3)
sm	3	2	3	12	1	11	32(18.7)
不明	0	0	0	0	0	0	0
小計	7	12	10	35	5	37	106(62.0)
mp	3	2	3	8	0	8	24(14.0)
ss	3	2	3	12	3	13	36(21.1)
se	0	1	0	2	0	1	4(2.3)
si	0	0	0	1	0	0	1(0.6)
不明	0	0	0	0	0	0	0
計	13	17	16	58	8	59	171

表8 Dukes分類

Dukes分類	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	9	14	15	40	5	44	127(74.3)
B	0	3	1	7	2	7	20(11.7)
C	3	0	0	9	0	8	20(11.7)
D	1	0	0	2	1	0	4(2.3)
不明	0	0	0	0	0	0	0
計	13	17	16	58	8	59	171

表9 組織型分類

組織型	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	6	10	12	32	6	30	96(56.1)
Mod	6	5	3	23	2	22	61(35.7)
Por	0	1	0	1	0	2	4(2.3)
Muc	0	0	0	0	0	1	1(0.6)
その他	1	1	0	2	0	4	8(4.7)
不明	0	0	1	0	0	0	1(0.6)
計	13	17	16	58	8	59	171

※その他：pap

表10 治療法

治療方法	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	0	4	1	4	2	12	23(13.5)
内視鏡下手術	8	2	7	32	2	20	71(41.5)
内視鏡治療	5	11	7	22	4	27	76(44.4)
その他不明	0	0	1	0	0	0	1(0.6)
計	13	17	16	58	8	59	171

内視鏡治療の割合が増えた。

6. 肝 臓 が ん 検 診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40～70歳の5歳刻み）＋節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10-13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14-と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14-と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ＋未受診者）＋節目外（要指導者等）
		・H23年より節目検診（40歳以上の5歳刻み）に個別受診勧奨

2. 肝臓がん検診実績

1) 平成29年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

平成29年度は19市町村で実施し、対象者数214,766人（前年度222,491人）のうち、受診者数は5,670人（前年度6,292人）で、受診率は2.6%（前年度2.8%）であった。要精検者数は、HBs抗原陽性者70人、HCV抗体陽性者16人で、受診者数の1.52%（前年度1.68%）であった。受診者数におけるHBs抗原陽性率は1.2%（前年度1.4%）、HCV抗体陽性率は0.3%（前年度0.3%）であった。また、要精検者数85人のうち精検受診者数は61人、精検受診率は71.8%（前年度59.0%）で、前年度に比べ12.8ポイントの増であった。精検受診者数61人のうち、肝臓がん確定は0人（前年度0人）であった。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対するの定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は17市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導対象者 （人）	定期検査受診者数 （人）	定期検査結果（人・%）			
			慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,871	991	173 (17.5)	11 (1.1)	4 (0.4)	1 (0.1)
C型肝炎ウイルス陽性者	777	396	105 (26.5)	17 (4.3)	10 (2.5)	0 (0.0)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から平成29年度の23年間を集計すると、平成7年～9年度の検診時において、市町村から報告のあった対象者数192,315人に対し、受診者総数は160,408人、推定受診率は83.4%である。そのうち、HBs抗原陽性者数は3,529人（陽性率2.20%）、HCV抗体陽性数は3,722人（陽性率2.32%）であった。今回、5年毎の累計が示され、平成7年から11年で受診者数は62,000人であったが、ここ近年の3年間では約19,000人と少なくなっている。また、HBs抗原陽性率、HCV抗体陽性率とも累計毎に低下している。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

- (1) 平成29年度肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑いと診断された者は発見されなかった。肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から2名、C型肝炎ウイルス陽性者から7名の肝臓がんが発見された。
- (2) 平成7～28年度肝臓がん検診発見がん患者のうち、30例が確定癌であり、そのうち27例は死亡、生存中は3例であった。また、平成10～28年度定期検査確定がんが157例で、そのうち119例（他病死を含む）が死亡した。定期検査発見がん患者はウイルス検診発見がん患者に比べて予後は良好であった。しかし、一部には進行がんで発見された症例もあった。また定期検査発見がんの5年生存率は40%とまだ充分ではない。

(1) 肝炎ウイルス検査受診者数等の推移

(1) 一次検診

年 度	受 診 者 数	HBs陽性者	HBs陽性率 (%)	HCV陽性者	HCV陽性率 (%)
H27	7,179	112	1.6	20	0.3
H28	6,292	90	1.4	16	0.3
H29	5,670	70	1.2	16	0.3

※各陽性者数にはB型、C型ともに陽性である者が含まれるため、各陽性者数の合計は下段の要精検者数に一致しない。

(2) 精密検査

年 度	要精検者数	精検受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
H27	132	82	62.1	1	0.01
H28	105	62	59.0	0	0.00
H29	85	61	71.8	0	0.00

※がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

(3) 年齢階級別受診状況

区 分	平成29年度			平成7～29年度		
	受 診 者 数	HBs陽性率 (%)	HCV陽性率 (%)	受 診 者 数	HBs陽性率 (%)	HCV陽性率 (%)
40～44歳	1,071	0.5	0.0	15,986	1.95	0.57
45～49歳	552	0.5	0.4	12,016	2.90	1.21
50～54歳	436	1.4	0.0	13,624	3.07	1.45
55～59歳	489	2.0	0.4	16,991	2.64	1.94
60～64歳	883	1.9	0.2	28,414	2.28	2.41
65～69歳	1,101	1.0	0.1	30,269	2.16	2.74
70～74歳	803	2.1	0.9	24,873	1.78	3.18
75～79歳	174	0.0	0.0	10,297	1.47	3.69
80歳以上	161	0.6	1.2	7,938	1.37	3.41
計	5,670	1.2	0.3	160,408	2.20	2.32

(2) 平成29年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	一次検診受診者数 a		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%)			HCV抗体陽性率 (%)		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b		HCV抗体のみ陽性 c		HBs・HCVともに陽性 d		e = (b+d)/a			f = (c+d)/a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	342	729	341	725	1	4	0	0	0	0	0.3	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0
45～49歳	206	346	203	344	1	2	2	0	0	0	0.5	0.6	0.5	1.0	0.0	0.4
50～54歳	152	284	150	280	2	4	0	0	0	0	1.3	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0
55～59歳	162	327	156	321	5	5	1	1	0	0	3.1	1.5	2.0	0.6	0.3	0.4
60～64歳	403	480	393	471	9	8	1	1	0	0	2.2	1.7	1.9	0.2	0.2	0.2
65～69歳	607	494	601	488	6	5	0	1	0	0	1.0	1.0	1.0	0.0	0.2	0.1
70～74歳	405	398	394	386	9	7	1	5	1	0	2.5	1.8	2.1	0.5	1.3	0.9
75～79歳	89	85	89	85	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
80歳以上	64	97	63	95	0	1	1	1	0	0	0.0	1.0	0.6	1.6	1.0	1.2
計	2,430	3,240	2,390	3,195	33	36	6	9	1	0	1.4	1.1	1.2	0.3	0.3	0.3
合 計	5,670		5,585		69		15		1		1.2			0.3		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	区分	精密検査受診者		精密検査結果												肝臓がん発見率 h = g / a			
		男	女	健康指導対象				診断名				その他				男	女		
				脂肪肝		慢性肝炎		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病					
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
		無症候性キャリア		脂肪		慢性肝炎		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病					
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
40~44歳		0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.000
45~49歳		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.000
50~54歳		0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2	3	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.000
55~59歳		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		4	5	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.000
60~64歳		6	7	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		7	8	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.000
65~69歳		6	4	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		6	4	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
70~74歳		5	6	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		1	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		6	8	5	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.000
75~79歳		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
80歳以上		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.000
計		23	28	19	22	0	0	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		6	4	2	2	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		29	32	21	24	0	0	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		51	41	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		10	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		61	45	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果								HBs抗原陽性率 (%)			HCV抗体陽性率 (%)		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b'		HCV抗体のみ陽性 c'		HBs・HCVともに陽性 d'		e' = (b' + d')/a'			f' = (c' + d')/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
直 営	6	1	6	1	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保 健 事 業 団	810	1,191	797	1,179	11	10	2	2	0	0	1.4	0.8	1.0	0.2	0.2	0.2
中国労働衛生協会	21	21	21	21	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
病 院	392	506	382	502	9	3	0	1	1	0	2.6	0.6	1.4	0.3	0.2	0.2
診 療 所	1,201	1,521	1,184	1,492	13	23	4	6	0	0	1.1	1.5	1.3	0.3	0.4	0.4
計	2,430	3,240	2,390	3,195	33	36	6	9	1	0	1.4	1.1	1.2	0.3	0.3	0.3
合 計	5,670		5,585		69		15		1		1.2			0.3		

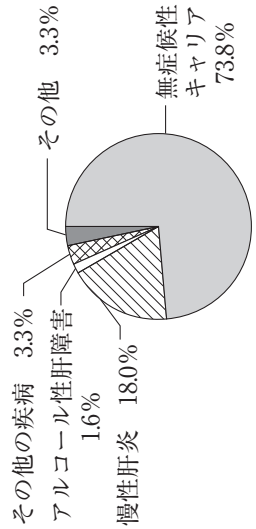
b. 精密検査結果

一次 検査機関	区分	精密検査者		精密検査結果												がん発見率					
		精受診者		健康指導対象者						検査断名						その他					
		男	女	脂肪肝	慢性肝炎	アルコール性肝障害	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	男	女	男	女	男	女	男	女				
直営	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
保健事業団	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.000
	B型陽性	10	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中国労働衛生協会	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	12	7	8	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	4	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
診療所	B型陽性	4	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	全体	13	22	10	18	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B型陽性	9	20	8	17	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	4	2	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	29	32	21	24	0	0	0	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B型陽性	51	41	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
がん発見率	C型陽性	10	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	61	45	11	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

精密検査結果（肝炎ウイルス検査）



4) 平成29年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査受診状況
実施市町村数=19

市町村名	受診者数				陽性者数				精密検査結果別人員									
	対象者数 A	集団検診 B	医療機関 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	HBs抗原 のみ陽性 F	HCV抗体 のみ陽性 G	HBs抗原 HCV抗体 ともに陽性 H	HBs抗原 陽性率 (%) I=(F+H)/D	HCV抗 体陽性率 (%) J=(G+H)/D	精 受診者数 K	精 受診率 (%) L=K/(F+G+H)	無症候性 キャリア M	その他 の疾病 N	が人 疑い O	が 人 P	有所見者 Q=N+O+P	ん 見率 (%) R=P/D
鳥取市	65,020	619	1,277	1,896	2.9	19	3	0	1.0	0.2	13	59.1	7	6	0	0	6	0.000
米子市	65,386	0	1,522	1,522	2.3	23	8	0	1.5	0.5	26	83.9	21	5	0	0	5	0.000
倉吉市	17,788	148	271	419	2.4	4	0	0	1.0	0.0	4	100.0	3	1	0	0	1	0.000
境港市	11,206	262	102	364	3.2	3	0	0	0.8	0.0	2	66.7	1	1	0	0	1	0.000
岩美町	4,582	208	0	208	4.5	4	1	0	1.9	0.5	5	100.0	4	1	0	0	1	0.000
八頭町	6,230	140	0	140	2.2	2	0	0	1.4	0.0	2	100.0	2	0	0	0	0	0.000
若桜町	1,539	7	28	35	2.3	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
智頭町	3,208	29	14	43	1.3	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
湯梨浜町	5,676	39	190	229	4.0	5	3	1	2.6	1.7	3	33.3	3	0	0	0	0	0.000
三朝町	2,574	76	59	135	5.2	1	0	0	0.7	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
北栄町	5,516	49	64	113	2.0	1	0	0	0.9	0.0	1	100.0	0	1	0	0	1	0.000
琴浦町	3,509	72	0	72	2.1	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
南部町	4,011	34	57	91	2.3	5	0	0	5.5	0.0	3	60.0	3	0	0	0	0	0.000
伯耆町	4,257	210	0	210	4.9	1	0	0	0.5	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日吉津村	1,008	21	0	21	2.1	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
大山町	7,740	91	0	91	1.2	1	0	0	1.1	0.0	1	100.0	0	1	0	0	1	0.000
日南町	2,551	13	36	49	1.9	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日野町	1,553	1	0	1	0.1	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
江府町	1,412	31	0	31	2.2	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
合計	214,766	2,050	3,620	5,670	2.6	69	15	1	1.2	0.3	61	71.8	45	16	0	0	16	0.000
東部	80,579	1,003	1,319	2,322	2.9	25	4	0	1.1	0.2	20	69.0	13	7	0	0	7	0.000
中部	35,063	384	584	968	2.8	11	3	1	1.2	0.4	9	60.0	7	2	0	0	2	0.000
西部	99,124	663	1,717	2,380	2.4	33	8	0	1.4	0.3	32	78.0	25	7	0	0	7	0.000

(3) 平成7～29年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 平成29年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	健康指導対象者 (平成29年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成30年10月31日現在の実人員)		定期検査結果											
	健康指導対象者		受診者数		健康指導対象者診断名						検査結果					
	無症候性キャリア		慢性肝炎		脂肪肝		アスクロージン		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病		その他	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	20	11	6	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	15	22	4	8	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	27	40	6	16	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	49	81	19	36	14	7	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0
60～64歳	82	136	35	76	29	17	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
65～69歳	137	214	69	125	47	19	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	165	218	87	127	58	18	2	1	0	0	0	0	1	3	0	1
75～79歳	105	168	69	110	46	15	1	0	0	0	0	0	1	2	1	1
80歳以上	119	262	67	127	50	11	1	1	2	1	0	0	1	1	1	2
計	719	1,152	362	629	255	92	8	11	7	4	3	0	1	3	4	6
合計 (比率%)	1,871		991 (100)		764 (77.1)	173 (17.5)	19 (1.9)	11 (1.1)	3 (0.3)	1 (0.1)	4 (0.4)	10 (1.0)	6 (0.6)			

2) 平成29年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	健康指導対象者 (平成29年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成30年10月31日現在の実人員)		定期検査結果											
	健康指導対象者		受診者数		健康指導対象者診断名						検査結果					
	無症候性キャリア		慢性肝炎		脂肪肝		アスクロージン		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病		その他	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	4	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	9	4	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
55～59歳	7	12	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0
60～64歳	21	15	9	9	4	3	1	1	0	0	0	0	0	3	0	1
65～69歳	37	38	17	20	2	6	2	0	0	0	0	0	8	9	0	2
70～74歳	30	67	15	37	2	6	0	0	2	2	2	2	6	12	1	5
75～79歳	39	105	17	75	7	23	0	0	3	0	0	0	8	27	0	4
80歳以上	96	290	42	142	11	41	0	2	7	7	4	0	8	21	4	10
計	245	532	104	292	26	82	3	3	5	12	6	4	35	77	6	22
合計 (比率%)	777		396 (100)		118 (29.8)	105 (26.5)	6 (1.5)	17 (4.3)	0 (0.0)	10 (2.5)	112 (28.3)	28 (7.1)				

※「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

(4) 平成7～29年度肝臓がん検診結果

年齢階級	一次検診 受診者数 A		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
			陽性者数 B		陽性率 (%) C=B/A			陽性者数 D		陽性率 (%) E=D/A		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	5,265	10,721	127	184	2.41	1.72	1.95	41	50	0.78	0.47	0.57
45～49歳	3,803	8,213	130	218	3.42	2.65	2.90	43	102	1.13	1.24	1.21
50～54歳	4,040	9,584	145	273	3.59	2.85	3.07	41	157	1.01	1.64	1.45
55～59歳	5,086	11,905	139	309	2.73	2.60	2.64	80	250	1.57	2.10	1.94
60～64歳	10,864	17,550	303	345	2.79	1.97	2.28	212	474	1.95	2.70	2.41
65～69歳	12,825	17,444	308	345	2.40	1.98	2.16	307	523	2.39	3.00	2.74
70～74歳	10,361	14,512	202	241	1.95	1.66	1.78	316	475	3.05	3.27	3.18
75～79歳	4,036	6,261	67	84	1.66	1.34	1.47	150	230	3.72	3.67	3.69
80歳以上	2,929	5,009	33	76	1.13	1.52	1.37	115	156	3.93	3.11	3.41
計	59,209	101,199	1,454	2,075	2.46	2.05	2.20	1,305	2,417	2.20	2.39	2.32
合計	160,408		3,529		2.20			3,722		2.32		

(5) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

1) 平成29年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑いは発見されなかった。

2) 平成29年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No.	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	
1	68	男	肝臓がん	肝切除	2017/10/20	単発	S8	13×13	腫瘤	無	B	6.8	26	生存	2018/12/26 S5再発 18×15mm 肝切
2	75	女	肝臓がん	TAE+RFA	2016/2/17	単発	S7	11	腫瘤	有	B	2.0	15	生存	2019/7/16 再発なし
3	77	女	肝臓がん	TAE/RFA	2017/4/1	2個	S2,S6	12,19	腫瘤	有	C	46.0	20	生存	S2RFA S6TACE
4	74	男	肝臓がん	TAE/TAE+RFA	H27.6.2	2個	S5S7	14,13	腫瘤	有	C	2.0	9	生存	S5TACE, S7TACE+RFA
5	85	男	肝臓がん	RFA	2014/2/18	単発	S4	15	腫瘤	有	C	2.0	12	死亡	2017/10 肝内多発再発 肝動注 2018/11/26 他病死(肺炎)
6	82	男	肝臓がん	TAE	2017/5/10	4個以上	S4S78	46	浸潤	無	C	446.0	346	死亡	2019/2/5 レンパチニブ投与 2019/6/2 肝癌死
7	70	男	肝臓がん	TAE	2017/6/26	4個以上	S3S7	14×13	腫瘤	有	C	11.6	54	生存	PVTT 2019/7/24生存
8	70	女	肝臓がん	RFA	2014/8/15	単発	S6	20	腫瘤	無	C			生存	2015/9 S2 14mm S3 5mm TAE 2018/7 TAE 2019/7/17生存再発なし
9	82	男	肝臓がん	肝切除	2010/7/15	単発	S5	13	腫瘤	有	C			生存	2019/6/26生存再発有 TAEを繰り返している

3) 平成10年度～平成28年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考	2019年3月現在
1	71	男	切除	95. 8.	単発			腫瘍	有	C	再発、6年11か月後死亡	
2	63	男	切除	97. 2. 26	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	4年6か月後死亡	
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2個	S68	30×30	腫瘍	無	C	再発、5年9か月後死亡	
4	63	男	PEIT	97. 12. 3	単発	S2	10×10	腫瘍	無	C	12年11か月後他病死	
5	59	男	TAE	98. 5.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	B	再発、3年2か月後死亡	
6	76	女	TAE	98. 6. 30	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡	
7	70	男	切除	98. 9. 1	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C	再発、2年9か月後死亡	
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4個	S2377	27×27	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡	
9	83	男	TAE	99. 2. 11	>4個	S35678	40×30	腫瘍	有	C	11か月後死亡	
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単発	S8		浸潤	有	C	8か月後死亡	
11	64	男	切除	00. 2. 8	2個	S5/6. 4	75×70	腫瘍	無	C	再発、3年6か月後死亡	
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単発	S6	10×10	腫瘍	有	B	8年8か月後死亡	
13	66	男	切除	00. 9. 27	2個	S65	15×15	腫瘍	有	B	再発、4年2か月後死亡	
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単発	S4	55×40	腫瘍	有	C	1年2か月後他病死	
15	74	女	切除	00. 2. 28	単発	S2	32×32	腫瘍	有	C	再発、4年4か月後死亡	
16	64	女	TAI	99. 10. 14	>4個	S23457	10×10	腫瘍	有	C	再発、5年8か月後死亡	
17	75	男	TAE	00. 4. 19	単発	S7	30×30	腫瘍	無	C	4年5か月後死亡	
18	75	男	TAE	97. 11.	>4個	S4568	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後他病死	
19	86	男	PEIT	00. 8. 18	単発	S4	15×15	腫瘍	無	C	7年9か月後他病死	
20	70	女		01. 7. 2						C	同月死亡	
21	65	男	切除	98. 2. 5	単発	S1	90×90	腫瘍	有	B	3年10か月後死亡	
22	67	男	切除	01. 11. 19	単発	S8	13×13	腫瘍	有	B	3年8か月後再発	再発なし
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単発	S7	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年3か月後死亡	
24	66	女	TAE	01. 7. 26	単発	S7	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中	生存、再発なし
25	75	女	T/P	02. 3. 4	単発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	5年1か月後他病死	
26	73	女	TAE	01. 4. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	7か月後死亡	
27	76	女	T/P	02. 10. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2年1か月後他病死	
28	79	女	TAE	01. 6. 27	>4個	S2457	40×40	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡	
29	79	女	切除	03. 2. 26	単発	S3	30×30	浸潤	無	C	再発、3年6か月後死亡	
30	82	女	RFA	03. 5. 26	単発	S5	35×35	腫瘍	無	B	再発、2年5か月後死亡	
31	78	女	T/R	02. 9. 24	単発	S8	40×40	腫瘍	無	C	1年3か月後他病死	
32	75	男	切除	03. 6. 3	単発	S6	20×20	腫瘍	有	B	再発、10年8か月後死亡	
33	76	男	切除	04. 3. 10	2個	S28	50×50	腫瘍	無	C	再発、3年5か月後死亡	
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単発	S8	25×20	腫瘍	有	C	再発、9年8か月後死亡	
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単発	S5/6	22×21	腫瘍	無	C	再発、6年8か月後死亡	
36	80	男	RFA	04. 8. 3	>4個	S13468	30×25	腫瘍	無	C	3年10か月後死亡	
37	91	女	未治療		>4個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	2か月後死亡	
38	74	女	TAE		>4個			腫瘍	無	C	2年10か月後死亡	
39	75	女	TAE	03. 10.	単発	S8	23×23	腫瘍	有	C	再発、4年2か月後死亡	
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単発	S8	30×20	腫瘍	無	C	再発、6年4か月後死亡	
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	無再発生存中	生存
42	78	女	TAE	04. 5. 19	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	再発、7年3か月後死亡	
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3個	S568	15×15	腫瘍	有	C	再発、1年3か月後死亡	
44	68	男	切除	04. 9. 13	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	再発、8年2か月後死亡	
45	72	女	T/R	04. 10.	2個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	再発、1年5か月後死亡	
46	62	男	TAE	03. 4.	不明	不明	不明	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡	
47	86	女	TAE	04. 6.	単発	S8	40×40	腫瘍	有	C	5か月後死亡	
48	73	男	切除	00. 3.	単発	不明	10×10	不明	有	B	再発、6年後死亡	
49	76	男	切除	05. 5. 12	単発	S7/8	90×80	腫瘍	無	B	4年3か月後再発H28. 3. 3 S3部分切除再発なし	2018/12/19S4再発、 RFA施行。生存
50	64	男	TAE	09. 1.	単発	S5	10×10	腫瘍	有	C	再発、3年3か月後死亡	
51	73	女	未治療		>4個	S278	7×7	腫瘍	有	C	4年10か月後死亡	
52	75	男	切除	06. 3. 29	単発	S7/8	43×25	浸潤	無	C	再発、3年10か月後死亡	
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単発	S7	18×18	腫瘍	有	C	5年5か月後死亡	
54	75	男	T/R	05. 8.	2個	S67	25×25	腫瘍	有	C	4年2か月後死亡	
55	87	女	未治療		単発	S2	20×20	腫瘍	有	C	4年後他病死	
56	89	女	T/P	05. 12.	単発	S2	15×15	腫瘍	無	C	4年1か月後他病死	
57	82	女	T/R	05. 10.	単発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1年9か月後他病死	
58	77	女	切除	04. 11. 7	2個	S68	20×20	腫瘍	有	C	2年11か月後再発 H28. 9. 26死亡	
59	59	女	RFA	06. 1.	単発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	再発、7年7か月後死亡	
60	67	女	RFA	04. 4.	単発	S5	15×15	腫瘍	無	B	6年3か月後再発 2018/ 3/9生存	2018/3/9生存
61	68	男	肝癌否定		(単発)	S6	13×13)		無	B	生存中	生存不明
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2個	S57	15×15	腫瘍	有	C	再発、3年6か月後死亡	
63	79	男	TAE	06. 11.	多発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	1年10か月後死亡	
64	87	女	T/R	06. 11. 15	単発	S4	16×23	腫瘍	有	C	再発、6年4か月後死亡	
65	79	男	T/R	06. 11. 20	単発	S8	30×30	腫瘍	無	C	再発、6年10か月後他病死	
66	82	女	TAE	06. 3. 14	単発	S8	35×35	腫瘍	無	C	再発、7年3か月後死亡	
67	69	男	切除	06. 9. 26	2個	S67	22×20	腫瘍	無	C	H28. 5 再発S5. 43mm 治療希望されず H30. 4. 15死亡	2019/4/15死亡。死亡 原因不明
68	72	女	TAE	06. 5. 18	単発	S6	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年10か月後死亡	

No.	年齢	性別	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考	2019年3月現在
69	81	女	切除	97. 3. 24	単発	S8		腫瘍	無	C	再発、12年11か月後死亡	
70	80	女	T/R	06. 8. 31	>4個	S84	31×27	腫瘍	有	C	再発、6年1か月後死亡	
71	73	女	TAE	06. 2. 21	>4個	S853	37×31	腫瘍	有	C	1年6か月後再発	
72	64	男	切除	07. 1. 12	単発	S5	35×35	腫瘍	無	C	2年10か月後再発	S5再発。RFA施行。生存
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単発	S1	20×20	腫瘍	有	C	再発、1年後死亡	
74	80	男	RFA	02. 9. 1	単発	S8		腫瘍	有	C	再発、9年6か月後死亡	
75	63	女	T/R	07. 5. 8	単発	S8	16×16			B	7年1か月後再発	生存。S6再発、RFA検討中
76	73	男	M/R	03. 8. 5	>4個	S348	15×15		無	B	再発、8年後死亡	
77	73	男	切除	05. 3. 14	単発	S45	42×28	腫瘍	無	B	再発、3年後死亡	
78	74	男	切除	06. 12. 21	単発	S458	35×30	腫瘍	無	C	再発、8年10か月後死亡	
79	60	女	未治療	07. 7. 1	単発	S7	17×12	腫瘍	有	C	3年4か月後再発	生存、再発なし
80	87	女	未治療	03. 3. 1	単発	S6	66×56	腫瘍	有	C	2年7か月後他病死	
81	80	女	TAE	03. 3. 1	単発	S2/3	20×20		有	C	再発、8年7か月後死亡	
82	77	女	TAE	08. 10. 7	単発	S6	50×50	腫瘍	有	C	再発、2年後死亡	
83	70	男	RFA		単発	S5	12×12	腫瘍	有	B	H29.3.22 S1 2.5cm 再発肝切除	生存、再発なし
84	77	女	TAE	09. 3. 24	2個	S58	25×25	腫瘍	有	C	1年3か月後肝不全死	
85	84	女	T/P	09. 9. 7	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C	2年1か月後肝不全死	
86	72	女	TAE	09. 12. 18	>4個		40×40	腫瘍	有	C	再発、3年2か月後死亡	
87	79	女	TAE	10. 11. 18	2個	S8/3	40×35	腫瘍	有	C	4年1か月後再発	生存、再発なし
88	89	男	TAE	09. 10. 6	>4個		20×20	腫瘍	有	C	3年9か月後死亡	
89	76	女	T/R	08. 5. 12	単発	S3	25×25	腫瘍	有	C	5年2か月後再発	生存不明
90	76	女	T/R	09. 7. 22	2個	S3/5	25×25	腫瘍	有	C	1年7か月後死亡	
91	79	男	T/R	10. 3. 25	2個	S7	23×23		有	C	2年11ヶ月後他病死	
92	85	女	切除	10. 3. 1	単発	S3	25×25	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡	
93	66	男	TAE	09. 7. 1	>4個	S1		浸潤	無	B	1年10か月後死亡	
94	73	女	切除	09. 10. 20	単発	S5	40×40	腫瘍	無	B	無再発生存中	生存、再発なし
95	68	女	切除	09. 8. 21	>4個	S348	15×15	腫瘍	無	B	生存中	生存、再発なし
96	75	男	TAE	08. 1. 1	>4個	S2458	38×25	腫瘍	有	C	再発、5年3か月後死亡	
97	78	男	精査中							C		
98	75	男	TAE	07. 2. 11	単発	S6			無	B	再発、7年5か月後死亡	
99	66	男	TAE	11. 1. 20	2個	S5/6	12×12	腫瘍		C	H2811.11HCC再発リンパ節転移 H29.7.10 死亡	生存。増悪傾向だが、現在は無治療経過観察中。
100	80	女	RFA	10. 11. 09	単発	S6~7	18×18	腫瘍	無	C	3年8か月後再発	
101	64	女	TAE	10. 11. 1	単発	S6	5×5	腫瘍	有	C	再発、5年1か月後死亡	
102	75	女	切除	08. 7. 30					無	C	H27.1再発	生存不明。2016/3/8以降未受診
103	75	男	TAE	10. 12. 08	>4個	S2/5/6/7/8	20×17	腫瘍	有	C	再発、2年5か月後死亡	
104	69	女	RFA	10. 4. 1	単発	S6	18×18		無	C	3年10か月後再発	生存不明
105	79	男	TAI	09. 10. 26	2個	S7/8	18×15	腫瘍	有	C	2年8か月後死亡	
106	71	女	切除	07. 8. 17	単発	S2~3	60×60	腫瘍	有	B	再発、4年5か月後死亡	
107	85	女	RFA	10. 7. 1	2個	S4/7	15×15	腫瘍	有	C	再発、5年4か月後他病死	
108	84	女	RFA	09. 10. 30	単発	S8	15×15	腫瘍	有	C	無再発生存中	生存、再発なし
109	65	男	T/R	10. 03. 1	単発	S5	24×24		有	B	再発、4年11か月後死亡	
110	57	女	切除	11. 1. 18	単発	S6	40×25	腫瘍	無	B	無再発生存中	生存、再発なし
111	78	女	肝がん否定		単発	S5	5×5		有	C	5か月後腫瘍消失、他病死	
112	87	男	RFA	11. 4. 7	単発	S5	15×16	腫瘍	無	C	死亡詳細不明	
113	67	男	肝がん否定							C		
114	77	女	RFA	11. 7. 1	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	再発、3年8か月後死亡	
115	92	女	TAE	11. 10. 4	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	再発、2年5か月後死亡	
116	78	女	T/R	10. 3. 24	単発	S2/3	19×18	腫瘍	有	C	9か月後再発	生存、再発なし
117	76	男	切除	11. 7. 26	単発	S7	80×75	腫瘍	無	C	無再発H24.6.24死亡	
118	75	男	RFA	11. 7. 1	単発	S6	14×14	腫瘍	有	B	3年2か月後再発	不詳、通院中断
119	84	男	転移性肝癌(肺大細胞癌)							B	5か月後再発	
120	75	男	RFA	13. 10. 2	単発	S7	15×14	腫瘍	有	B	1年11か月後再発 H27.9 H27.12 H29.10 再発しRFA施行	生存、2018/11 S6再発。S4、7再発に対し動注
121	75	男	切除	11. 6. 1					有	B	4年0か月後他病死	
122	70	女	PEI	12. 5. 9	単発	S4	27×20	腫瘍	有	C	再発、8か月後死亡	
123	83	男	TAE	11. 8. 30	単発	S6	35×30	腫瘍	無	C	2年7か月後再発 2015.7 2016.10再発にてRFA 死亡他病死	死亡(死亡日不明)、他病死
124	75	女	RFA	8. 10. 1	単発	S5	20×20	腫瘍	無	C	2016.4再発RFA	生存、再発なし
125	80	女	TAE	12. 11. 20	単発	S1	40×40	腫瘍	無	C	再発、1年11か月後死亡	
126	86	男	T/R	13. 11. 1	3個	S146	13×13	腫瘍	無	C	無再発生存中	不詳、通院中断
127	78	女	RFA	12. 3. 1	単発	S4	8×9	腫瘍	有	C	1年10か月後再発 H27.10 H28.5 TACE H29.1 RFA	生存、再発なし
128	82	女	RFA	12. 3. 14	2個	S7	13×9	腫瘍	有	C	2年10か月後死亡	
129	87	女	TAE	12. 7. 6	単発	S3	20×15	腫瘍	有	C	再発、2年5か月後死亡	
130	85	女	RFA	12. 2. 13	単発	S5	10×17	腫瘍	無	C	再発、3年8か月後死亡	
131	76	男	TAE	12. 6. 20	>4個	S45678	55×52	腫瘍	有	C	3年1か月後死亡	
132	81	女	TAE	10. 11. 10	単発	S3	15×15	腫瘍	有	C	再発、2年6か月後死亡	
133	68	男	切除	13. 5. 20	単発	S5	35×38	腫瘍	無	B	2016.2.29死亡 死因不明	

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考	2019年3月現在
134	60	女	TAE	13. 8. 26	単 発	S3	18×15	腫瘤	有	B	H27.7再発TACE H29.5 動注3回 2017/10/19右葉 多発肝動注生存	2018.1.31死亡。肝 癌 死：鳥取県立厚生病院 にて
135	70	女	RFA	14. 4	単 発	S1	14×14	腫瘤	無	B	無再発生存中	生存、再発なし
136	83	女	T/R	13. 10	単 発	S7	26×26	腫瘤	無	C	2016.3再発TACE 2017.1 動注 2017.3 RFA 死亡	2019/5/31死亡
137	88	男	TAE	13. 10. 31	>4個	S4278	34×34	腫瘤	有	C	1年後再発 肺転移 左副 腎転移 肝内再発	2016/12/26死亡、肝臓 がん死
138	79	女	切除	13. 3	単 発	S8	45×45	浸潤	無	C	1年3か月後死亡	
139	73	男	T/R	13. 7. 2	>4個	両葉	24×24		無	C	1年8か月後死亡	
140	80	女	T/P	13. 5. 1	単 発	S5	30×30	腫瘤	無	C	9か月後再発 2014.2再発	生存。再発、TACE施行
141	94	男		12. 8. 6						C	2年4か月後死亡	
142	83	女	TAE	7	>4個	S157		浸潤	有	C	再発、7年後死亡	
143	67	男	切除	14. 5. 27	単 発	S5	20×20	腫瘤	無	B	再発なし	生存、再発なし
144	66	女	T/R	14. 9. 10	単 発	S3	25×25	腫瘤	有	B	2016.10 再発 TACE	生存、再発なし
145	73	男	T/R	14. 4. 16	2 個	S45	10×17		無	B		2015/4再発RFA、生存
146	77	女	TAE	12. 10. 17	2 個	S6	7×14	腫瘤	有	C	3年2か月後死亡	
147	78	女	切除	15. 12. 17	単 発	S5	15×15	腫瘤	無	C	再発無	生存
148	89	女								B	死亡	
149	85	男	TAE	15. 11. 13	単 発	S8	32×28	腫瘤	無	B	2017.6 生存 通院不可 追跡無	
150	74	男	T/R	15. 9. 7	単 発	S4	24×22	腫瘤	無	B	再発なし	生存、再発S4 TACE 施行も制御困難、鳥大 医第2内科へ紹介
151	76	女	TACE	2017/8/2	>4	S5678	36×33	腫瘤	有	C	米子医療センター	再発、TACE。2018/ 9/17死亡、肝臓死
152	76	男	切除	16. 3. 16	単 発	S8	23×20	腫瘤	有		再発なし	生存、再発なし
153	80	女	TAE・ RFA	28. 9. 23	単 発	S7	29×29	腫瘤	無	C	H2909にS4に再発 RFA 施行	生存、S2再発あり。 RFA施行
154	90	女	RFA	25. 5	2 個	S6 S8	14×1311 ×10	腫瘤	無	C	H29.09 他病死 脳出血	
155	81	男	RFA	28. 10. 5	単 発	S8	14×14	腫瘤	有	C	H29.8 再発なし	生存、再発なし
156	79	女	RFA	28. 6. 15	単 発	S6	7×8	腫瘤	無	C	SVR後発癌	生存、再発なし
157	73	女	無治療	2018/1/15	単 発	S8	10×10	腫瘤	有	C	Pugh 10にて無治療を希望 H30.1.15現在22mmに増大 2018/10/3死亡	

4) 平成7年度～平成28年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考	2019年3月現在
1	74	女	切除	95. 10. 24	単 発	S4	55×55	腫瘤	有	C	再発、7年7か月後死亡	
2	70	女	TAE	96. 2. 20	単 発	S8	40×38	腫瘤	無	C	再発、2年1か月後死亡	
3	63	女	切除	96. 3. 13	単 発	S7	30×23	腫瘤	有	C	再発、15年1か月後死亡	
4	83	男	TAE	96. 7. 15	単 発	S4	12×12	腫瘤	無	C	再発、3年9か月後死亡	
5	74	女	TAE	96. 8. 29	>4個	S5678	35×35	腫瘤	無	C	再発、1年8か月後死亡	
6	64	女	TAE	96. 10. 25	>4個	S67	67×57	腫瘤	無	B	9か月後死亡	
7	72	男	TAE	96. 11. 1	2 個	S6	20×20	腫瘤	有	—	再発、1年1か月後死亡	
8	70	男	PEIT	96. 11. 22	単 発	S5	25×25	腫瘤	有	C	再発、5年2か月後死亡	
9	69	男	PEIT	97. 1. 7	単 発	S7	10×9	腫瘤	無	C	再発、6年1か月後死亡	
10	73	女	TAE	97. 11. 17	>4個	S234	80×60	腫瘤	無	C	3か月後死亡	
11	61	男	TAE	97. 11. 17	3 個	S568	15×10	腫瘤	有	C	再発、2年3か月後死亡	
12	75	男	TAE	97. 12. 4	単 発	S7.8	40×32	腫瘤	無	C	7か月後死亡	
13	57	男	TAE	98. 3. 3	単 発	S1	70×50	腫瘤	有	B	1年後死亡	
14	80	女	切除	98. 7. 31	単 発	S5/6	25×25	腫瘤	無	C	9か月後死亡	
15	49	男	RES	99. 12. 15	>4個	S4568	80×80	浸潤	無	B	4か月後死亡	
16	69	男	切除	00. 12. 23	単 発	S8	50×50	腫瘤	無	—	再発、1年5か月後死亡	
17	66	男	TAE	01. 9. 19	単 発	S6	100×100	腫瘤	無	C	1年10か月後死亡	
18	72	男	PEIT	04. 8. 2	2 個	S1.5	25×25	腫瘤	有	C	再発、3年11か月後死亡	
19	83	男	T/R/P	05. 10. 17	2 個	S1.4	30×30	腫瘤	有	C	再発、3年11か月死亡	
20	67	女	切除	06. 08. 09	単 発	S8	25×25			B	無再発生存中	生存、再発なし
21	79	男	T/R	06. 11.	単 発	S8	20×20	腫瘤	有	C	3年後再発	
22	72	男	切除	08. 4. 21	単 発	右葉	100×100			C	37日後死亡	
23	60	男	TAE	08. 4.	>4個	両葉	40×40	腫瘤	有	C	2年6か月後死亡	
24	61	男	動注/ 放射	11. 10.	>4個	骨転移 あり				B	10か月後死亡	
25	78	男	切除	12. 4. 19	単 発	S3	20×20	腫瘤	有	C	1年5か月後再発 2017.5.9死亡 肝がん死	
26	77	男	切除	13. 12. 17	単 発	S4	53×53	腫瘤	有	B	無再発生存中	生存、再発なし
27	72	男	TAE	13. 11	>4個	S4	44×39	腫瘤	有	B	1年5か月後死亡	
28	74	女	TAE	15. 3. 26	2 個	S45	72×72	腫瘤	有	C	死亡H27.4.27溺死	
29	86	女	緩和治療		>4個	S24578	68×60			C	死亡	
30	48	男	切除	16. 7. 13	単 発	S7	23×19	腫瘤	無	C	2016.12動注 2017.3ネ クサパール 2018/1/11 生存	生存

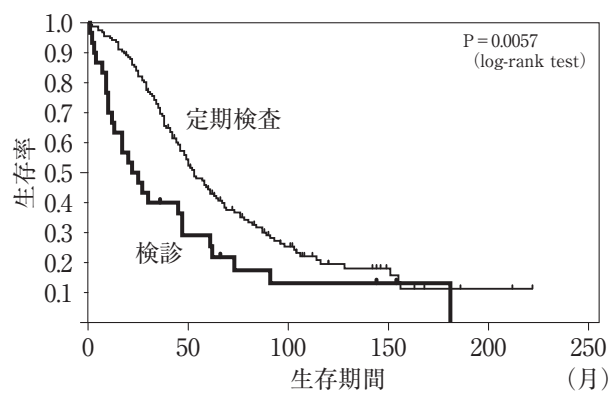


図 1. 肝がん検診および定期検査による
発見がんの累積生存率

7. 全国がん検診実績との比較

平成28年度（※69歳以下の実績）

（単位：人 %）

	区 分	平成28年度実績 (鳥取県)	平成28年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数 (人)	76,814	52,547,071	○受診者・がん発見 = (鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ ○要精検者・精検受診者 = 「X線」のみの数値 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く (以下の部位も同じ)
	受診者数 (人)	28,237	2,103,978	
	受診率 (%)	36.8	4.0	
	要精検者数 (人)	608	143,200	
	要精検率 (%)	8.59	6.81	
	精検受診者数(人)	512	113,785	
	精検受診率 (%)	84.2	79.5	
	がんの者 (人)	62	1,734	
がん発見率 (%)	0.22	0.08		
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数 (人)	59,087	40,345,502	○「頸部のみ」の数値 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率 () を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算 (厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(3,914,800) + (3,804,714) - (1,046,097)}{(40,345,502)} = 16.5$ 鳥取 $\frac{(27,368) + (26,285) - (14,866)}{(59,087)} = 65.6$
	受診者数 (人)	26,285	3,804,714	
	受診率 (%)	44.5(65.6)	(16.5)	
	要精検者数 (人)	217	80,882	
	要精検率 (%)	0.83	2.13	
	精検受診者数(人)	180	60,965	
	精検受診率 (%)	82.9	75.4	
	がんの者 (人)	8	1,355	
がん発見率 (%)	0.03	0.04		
肺 が ん 検 診	対象者数 (人)	76,814	52,548,891	○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値 (「喀痰のみ」は除く) ※全国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診者数 (人)	28,288	4,075,104	
	受診率 (%)	36.8	7.8	
	要精検者数 (人)	769	65,041	
	要精検率 (%)	2.72	1.60	
	精検受診者数(人)	694	50,912	
	精検受診率 (%)	90.2	78.3	
	がんの者 (人)	11	1,374	
がん発見率 (%)	0.04	0.03		

区 分		平成28年度実績 (鳥取県)	平成28年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数 (人)	44,660	26,342,612	○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(2,119,473) + (2,548,439) - (483,956)}{(26,342,612)} = 15.9$ 鳥取 $\frac{(16,191) + (14,764) - (1,458)}{(44,660)} = 66.0$
	受診者数 (人)	14,764	2,584,439	
	受診率 (%)	33.1(66.0)	(15.9)	
	要精検者数 (人)	1,025	176,836	
	要精検率 (%)	6.94	6.84	
	精検受診者数(人)	961	154,855	
	精検受診率 (%)	93.8	87.6	
	がんの者 (人)	49	7,336	
がん発見率 (%)	0.33	0.28		
大 腸 が ん 検 診	対象者数 (人)	76,814	52,551,752	
	受診者数 (人)	31,851	4,633,580	
	受診率 (%)	41.5	8.8	
	要精検者数 (人)	2,430	286,815	
	要精検率 (%)	7.63	6.19	
	精検受診者数(人)	1,840	199,366	
	精検受診率 (%)	75.7	69.5	
	がんの者 (人)	69	7,943	
がん発見率 (%)	0.22	0.17		

(出典) 鳥取県数値 = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値 = 地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

- (注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。
- 2 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定
精検受診者 = 「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」
- 3 平成25年度から全国数値は、69才以下の実績が公表されていることから、鳥取県数値も69才以下の実績で比較している。
- 4 平成27年度から「地域保健・健康増進事業報告」対象者数は、各がん検診の対象年齢の「全住民」を報告することとなった。
- 5 平成28年度から乳がん検診について対象者数は、「視触診方式及びマンモグラフィの併用者」「マンモグラフィのみ」が統一された。

厚生労働省「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」報告書
 がん検診事業の評価に関する委員会（平成20年3月）による
 プロセス指標と本県実績との比較

平成29年度実績

		胃がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	27.2%		35.5%		
要精検率[X線のみ]	許容値	11.0%以下	9.0%	○	7.9%	○	
精検受診率[X線のみ]	許容値	70%以上	83.6%	○	82.6%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.11%以上	0.29%	○	0.14%	○	
陽性反応的中度[X線のみ]	許容値	1.0%以上	1.5%	○	0.5%		

		肺がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	29.0%		35.1%		
要精検率	許容値	3.0%以下	3.5%		2.7%	○	
精検受診率	許容値	70%以上	89.5%	○	89.1%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.03%以上	0.05%	○	0.04%	○	
陽性反応的中度	許容値	1.3%以上	1.4%	○	1.6%	○	

		大腸がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	30.3%		39.2%		
要精検率	許容値	7.0%以下	8.8%		7.2%		
精検受診率	許容値	70%以上	77.8%	○	77.9%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.13%以上	0.31%	○	0.26%	○	
陽性反応的中度	許容値	1.9%以上	3.5%	○	3.5%	○	

		子宮がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	24.7%		44.9%		
要精検率	許容値	1.4%以下	0.92%	○	1.08%	○	
精検受診率	許容値	70%以上	87.1%	○	86.7%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.05%以上	0.03%		0.03%		
陽性反応的中度	許容値	4.0%以上	3.4%		3.1%		

		乳がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	16.7%		32.5%		
要精検率	許容値	11.0%以下	5.57%	○	6.06%	○	
精検受診率	許容値	80%以上	96.0%	◎	96.6%	◎	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.23%以上	0.38%	○	0.35%	○	
陽性反応的中度	許容値	2.5%以上	6.88%	○	5.80%	○	

※子宮がん、乳がんの受診率は単年度計算

Ⅲ. 平成30年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

平成30年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事	業	名	開	催	日	時	場	所	出席者	内	容
胃	がん	胃がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成31年	3月9日(土)	午後4時～午後6時	倉吉市 鳥取県立倉吉未 来中心	137名	演題：「これからの胃がん診療～胃がん検診を中心に～」 講師：弘前大学大学院医学研究科消化器血液内科学講座 教授 福田眞作先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：米子医療センター			
子宮がん	子宮がん	子宮がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成31年	2月17日(日)	午後4時～午後6時	鳥取市 鳥取県健康会館	52名	演題：「子宮頸がんの予防の現状と課題」 講師：大阪大学大学院医学系研究科産科婦人科学講師 上田 豊先生 症例提示5例			
肺	がん	肺がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成31年	2月9日(土)	午後4時～午後6時	鳥取市 鳥取県健康会館	77名	演題：「胸部画像診断と近代技術」 講師：鳥取大学医学部附属病院病態解析医学講座 画像診断治療学分野医員 夕永裕士先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—2例：鳥取大学医学部附属病院 胸部外科			
乳	がん	乳がん検診従事者講習会及び第26回鳥取県乳がん症例検討会	平成30年	8月25日(土)	午後4時～午後5時40分	米子市 鳥取県西部医師 会館	34名	演題：「乳がん検診の要点」 講師：鳥取大学医学部附属病院乳腺内分泌内科学科長 鈴木喜雅先生 症例検討 東部—2例：鳥取赤十字病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院			
大腸	がん	大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成31年	2月23日(土)	午後4時～午後6時	倉吉市 鳥取県立倉吉未 来中心	80名	演題：「大腸がん外科治療の現状」 講師：鳥取赤十字病院外科部長 蘆田啓吾先生 症例検討 東部—1例：鳥取市立病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 第2内科			
肝臓	がん	肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成31年	2月16日(土)	午後4時～午後6時	米子市 鳥取県西部医師 会館	105名	演題：「これからの肝がん診療」 講師：鳥取大学医学部附属病院第2内科診療科群 助教 三好謙一先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—2例：山陰労災病院			

1. 胃がん検診症例研究会

日 時 平成31年3月9日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県立倉吉未来中心

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 岩本 拓

症 例：70歳代、男性

既往歴：十二指腸潰瘍、大腸ポリープ

検診歴：平成22年10月、平成23年10月、平成24年10月の胃がん検診（車検診）では異常を指摘されなかった。平成25年12月の胃がん検診（車検診）で胃角部小弯辺縁不整③を指摘された。

経 過：平成26年2月近医で上部消化管内視鏡検査を施行され、胃角部小弯に25mm大の発赤調の陥凹性病変を認めた。生検でGroup2の結果であったが、胃がんを疑われ当院紹介となった。当院で内視鏡の粘膜下層剥離術施行したが、病理結果はSM2以上と非治癒切除であった。後日外科にて腹腔鏡下幽門側胃切除を施行され、M、Type0-IIa+IIc、45×35mm、tub1-2>por2、pT3(SS)、ly2、v1、N1、M0、Stage II bの結果であった。

考 察：平成22、23年の胃X線画像では病変の指摘は困難であったが、平成24年の遡及的検討では平成25年より目立たないものの同様の所見が指摘された。日頃から注意深い観察・読影が必要と感じた症例であった。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 細田 康平

症 例：75歳、男性

検診歴：2015年胃がん検診（胃透視）で異常なし。2016年検診は受診せず。2017年胃がん検診で胃体部に陥凹を伴う隆起性病変を指摘された。

既往歴：高血圧、膀胱癌

経 過：上記精査目的に当院で上部消化管内視鏡が施行され、胃体中部前壁に2型の腫瘍性病変を認め、陥凹内は一部潰瘍形成と不整な隆起性変化がみられた。同部位の生検にてpor、tub2を認め、後日腹腔鏡下胃切除術が行われた。

病 理：por1>pap、MP、ly1、v1、INFb、intermediate type、PM(-)、DM(-)、LN(-)、Stage I B

考 察：2015年の検診では今回の病変は指摘できないが、ピロリ感染性胃炎に伴うヒダの肥厚がみられたことも発見困難な要素であった可能性がある。このような観察困難な所見がみられた場合には内視鏡による精密検査を考慮してもよいと考える。

〔西部症例〕

提出者：米子医療センター 原 田 賢 一

症 例：70歳代、男性

既往歴：高血圧症

検診歴：毎年、胃がん集団検診（車検診）受検しており、平成27年、平成28年の検診では異常を指摘されなかった。平成29年9月、胃がん集団検診（車検診）で幽門前庭部レリーフ異常を指摘された。

経 過：平成29年12月、前医で上部消化管内視鏡検査が施行され、胃前庭部後壁に周囲隆起を伴う陥凹性病変を認め、生検にてtub2>tub1>por2と診断された。同月、精査目的に当院紹介となった。同病変の深達度は粘膜下層深層以深と判断、非切除因子を認めなかったため、2019年1月に腹腔鏡下幽門側胃切除術が施行された。

病 理：L、Great-Ant、0-IIc、16×10mm、Med、tub2>por1、sm (1,000 μm)、pm0、dm0 (18 mm)、INF a、ly1、v0、pT1b2、pN1、M0、pStageIB

考 察：前々年、前年と週及的に検討したが病変を指摘することは困難であった。胃前庭部は蠕動などの影響もあり伸展十分な撮像が難しい場合がある。また、今回はリンパ節転移があったとはいえ、早期癌であり、胃X線検診では描出は容易ではなく、内視鏡検診を取り込むなどの対策が必要と考えた。

2. 子宮がん検診症例研究会

日 時 平成31年2月17日（日） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館（鳥取県医師会館）

症例検討：鳥取大学医学部産科婦人科 大石徹郎講師の進行により、集団検診1例、施設検診4例の症例検討が行われた。

検討内容：

鳥取大学医学部産科婦人科 工藤明子助教より下記の5症例が提示された。

症例1は子宮頸部円錐切除術（上皮内癌）の既往があり、平成26年以降毎年検診を受診していた20代女性。28年度検診で扁平上皮系の異常（ASC-US）、29年度検診で腺系の異常（AGC）を指摘され、CIN3とAISの亜型の合併を認めた。

症例2は検診受診歴のない40代女性。集団検診でSCCを指摘され、浸潤子宮頸癌と診断された。

症例3は平成27年度検診ではNILMであった20代女性。29年度検診でASC-Hを指摘され、CIN3と診断された。

症例4は平成29年度検診で頸部細胞診：Adenocarcinomaを指摘された50代女性。精査の結果、子宮体癌（混合癌：類内膜癌/漿液性癌）と診断された。

症例5は子宮内膜増殖症の既往があり、平成29年度の施設検診で内膜細胞診陽性となった60代女性。子宮内膜全面搔爬による内膜組織診で悪性所見を認めず、慎重な経過観察となった。その後、二度の全面搔爬再検を経て、1年後に、診断的子宮摘出術を行い、子宮体癌（類内膜癌G1）と確定診断された。

検診未受診者に対する受診勧奨の重要性が再認識された。頸部細胞診で腺系の異常を認めた場合には、精査の際に体部や卵巣の病変の可能性を考慮することが必要である。内膜細胞診陽性で、生検では組織診断がつかない場合に診断的子宮摘出も考慮される。

平成30年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	検診月日	一次検診機関	一次検診結果	精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
						組織診断	進行期分類	TNM分類	
症例1	35歳	H25. 7. 22	みやもと産婦人科	NILM HPV (+) ASC-US NILM NILM ASC-US AGC	鳥取県立中央病院 鳥取県立厚生病院	AIS			鳥取県立厚生病院
		H26. 9. 12							
		H26. 11. 19							
		H27. 9. 1							
		H28. 9. 5							
H29. 12. 4									
症例2	47歳	H29. 11. 13	鳥取県保健事業団	SCC	鳥取県立厚生病院	扁平上皮癌	I B1期	pT1b1N0M0	鳥取県立厚生病院
		H27. 8. 19	鳥取県保健事業団	NILM	鳥取県立厚生病院	CIN3			鳥取県立厚生病院
症例3	30歳	H29. 10. 3	あけしまレディースクリニック	ASC-H	鳥取県立厚生病院				鳥取県立厚生病院
		H26. 2. 20		NILM					
		H26. 10. 21		NILM					
		H27. 10. 28	鳥取市立病院	NILM					
		H28. 10. 3		NILM					
症例4	55歳	H30. 1. 9	鳥取県立中央病院	Adeno.Ca	鳥取県立中央病院	類内膜癌G1	I 期	cT1aN0M0	鳥取大学 女性診療科
		H28. 5. 13	博愛病院	頸部NILM 体部なし	博愛病院	類内膜癌	I A期		鳥取大学 女性診療科
H29. 6. 28	頸部NILM 体部 陽性								

3. 肺がん検診症例研究会

日 時 平成31年2月9日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[東部症例]

提出者：鳥取県立中央病院 長谷川 泰 之

症 例：59歳、男性

現病歴：検診はほぼ毎年受けていたが特に異常は指摘されなかった。平成30年、肺がん検診胸部レントゲンにて右上肺野の異常を指摘され当科受診となった。

既往歴：心室性頻拍症（当院、心臓内科）

家族歴：母が大腸癌、乳癌

生活歴：喫煙歴：20本/日×30年（20歳-50歳） 飲酒歴：ビール350ml 週2回

臨床経過：胸部CTにて、右上葉に葉間に接するように、4cm弱の腫瘍性病変が認められた。右B2aより、気管支鏡下肺生検施行し、肺腺癌(EGFR-L858R陽性)、cT2aN0M0 Stage I Bの診断となった。他院呼吸器外科にて、胸腔鏡下右上葉切除術およびND2a-1郭清が施行された。腫瘍径は39mm、リンパ節転移は認められなかった。術後病期は、pT2aN0M0 stage I Bであった。

考 察：本症例は、過去7年間の胸部レントゲンの比較が可能であったが、腫瘍がちょうど右第1肋骨・肋軟骨接合部に存在し、左右差も特に認められなかったため判定が困難であったと思われた。本年の胸部レントゲンでは、腫瘍の葉間に接する部位が比較的明瞭となり、指摘が可能となったと考えられた。本症例のように、上葉の陰影は骨陰影と重なることがしばしばあり、慎重な読影が望まれる。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 松 岡 佑 樹

症 例：70歳代、男性

主 訴、既往歴：特になし

生活歴：喫煙歴なし

現病歴：毎年の肺がん検診で異常を指摘されたことはなかったが、初めてE1判定となった。同年前医受診し胸部CTで肺癌を疑われ当院へ紹介となった。

臨床経過：胸部X線では左中肺野に第4肋骨と重なるように辺縁不明瞭な11mm大の結節を認めた。胸部CTでは左上葉S4に充実成分径が11mm大、すりガラス成分径が4mm大の不整形結節を認めた。PET-CTでは後期相でSUV-MAX 2.29と上昇しており、肺癌を強く疑い診断と治療を兼ねて胸腔鏡手術の方針とした。術中迅速組織診断で肺腺癌と診断し、胸腔鏡補助下に左上葉切除術を施行した。病理は浸潤性肺腺癌pT1bN0M0、p1ld0e0pm0、stage I Bの診断であった。

考 察：本症例は前年度検診でも異常陰影が確認可能であった。文献によると19～90%の症例において後方視的に前年検診胸部X線写真で異常を確認できたとされる。このような症例は小さな腫瘍径（平均腫瘍径16～19mm）、正常組織との重なり、肺胞上皮置換型の肺癌、上葉発生が多かったとされている。本症例も非浸潤部（肺胞上皮置換型）を含む肺腺癌であった。肺腺癌は非浸潤部が混在すると含気成分によって指摘困難になることがあるが、非浸

潤部を含む小型肺腺癌は切除後の予後が良好であり、そのような肺癌を発見することが重要である。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院胸部外科 城 所 嘉 輝

症例1：60歳代、女性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：これまで検診受診していたが異常指摘なし。平成30年の検診で左中肺野に異常陰影を指摘されて当院を受診した。

既往歴：卵巣良性腫瘍

喫煙歴：なし

臨床経過：胸部X線では、左第3肋骨外側に重なる結節影を認めた。胸部CTでは3.0×2.5cmの part solid nodule (C/T ratio 0.53) を認め、FDG-PET検査では早期相でSUV max 3.85の集積を認めた。気管支鏡検査で肺腺癌cT1bN0M0、stage I A2と診断し、ロボット支援下左肺上葉切除+ND2a-1を施行した。術後病理組織診断は、Invasive adenocarcinoma (acinar-predominant)、pT1c (3.0cm、inv. 2.5cm)、pI0、G2、Ly0、V0、pm0、pN0 (0/22)、pStage I A2であった。術後3ヶ月現在、無再発生存中である。

症例2：60歳代、男性

現病歴：毎年検診を受診していたが異常指摘なし。平成30年の検診で左上葉肺野に異常陰影を指摘されて当院を受診した。

既往歴：大腸ポリープ

喫煙歴：15本/日×40年、既往喫煙

臨床経過：胸部X線では、左上肺野に3cm大の腫瘤を認め、胸部CTでは3.5cm大の不整形充実腫瘤を認めたが縦隔リンパ節に腫大は認めなかった。FDG-PET検査を行うと原発巣にSUV max 30.9の高集積と#4Lリンパ節に4.90の集積を認め、縦隔リンパ節転移が疑われた。気管支鏡下で原発巣および#4Lリンパ節を生検し、肺腺癌cT2aN2M0、stage III Aと診断した。シスプラチン+ドセタキセルを2コースおよび放射線療法(50.4Gy)を施行後、ロボット支援下左肺上葉切除+ND2a-2を施行した。術後病理では、原発巣は著名な瘢痕化の中に異型細胞を散在性に認める程度で、リンパ節転移は消失していた。組織学的治療効果判定はEft2、10%で、術後病理病期ypT1bN0M0、ypStage I A2と診断した。外来にて術後経過観察中である。

考 察：症例1の過去の検診画像を確認すると、前年は、第3肋骨と第4肋骨が重なる左中肺野外側に淡い小結節の存在を後方視的に推測した。一方症例2は、興味深いことに、術前治療後に腫瘍が著名に縮小したため、胸部X線が異常を指摘された前年と類似した画像となった。この画像から後方視的に前年の検診画像を見直すと、第1肋軟骨接合部と鎖骨が重なる左上肺野縦隔側に小結節の存在を推測できた。いずれの症例とも既存の構造物が複数重なる箇所での陰影であり、胸部X線読影のピットフォールとなる。こうした部位では、左右の比較や過去との比較を行い、読影には十分注意する必要がある。

4. 乳がん検診症例研究会

日 時 平成30年8月25日(土) 午後4時～午後5時40分

場 所 鳥取県西部医師会館

[東部症例]

提出者：鳥取赤十字病院 山口 由 美

症例1：66歳、女性。乳がん検診は毎年受診していた。

2017年のMMGで左乳房M-Iのスピキュラを伴う腫瘤陰影を指摘され、カテゴリ-5と診断された。視触診では左乳房A領域に1cm大の硬結を触知。USでは11×11×8mm大の不整形腫瘤を認め、生検で浸潤性乳管癌と診断された。手術は乳房温存手術(Bp+SN)を施行。組織型は浸潤性小葉癌、ER(+)90%、PgR(+)70%、HER2陰性、Ki67 10~30%、T1cN0M0 Stage Iであった。増殖能は中等度の乳癌であったが、年1回の検診で早期発見が可能であった。

症例2：45歳、女性。乳がん検診は2年に1度受診。乳房腫瘤を自覚して早めに検診を受診。

MMGでは左乳房M-Oに不整形の腫瘤影を指摘され、カテゴリ-5と診断された。視触診では左乳房C領域に境界不明瞭な硬結を触知。USでは左C領域に27×19×15mmの不整形腫瘤を認め、前方境界線の断裂あり。生検で浸潤性乳管癌と診断された。手術は乳房切除術(Bt+Ax)を施行。病理診断では乳頭腺管癌(浸潤径16×14mm)リンパ節転移は1個陽性、ER(+)90%、PgR(+)90%、HER2陰性、Ki67>30%、T1cN1M0 Stage II Aであった。術後補助療法の決定のために多遺伝子アッセイであるOncotype DXを施行。中間リスクであったため、術後化学療法、内分泌療法を行った。症例2は増殖能の高い中間期乳癌であったため、2年に1回の検診受診にもかかわらず、早期発見はできなかった。

2症例ともに定期的に検診を受診していたが、増殖能の差、検診間隔の差で発見時の病期に差を生じた。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 児 玉 渉

「構築の乱れを指摘された検診発見乳がんの1手術例」

症 例：40歳代、女性

主 訴：MMG構築の乱れ

現病歴：2年前に乳癌検診を受け異常はなく、今回の乳がん検診で左乳房に構築の乱れを指摘され、当科を受診した。

視触診：左C領域に1.5cm大の腫瘤を触知。

MMG：左U・OにFAD、構築の乱れを認めた(cat-4)。2年前のMMGでは特記所見なし。

エコー：左C領域にMMGと一致する範囲に、1.5×0.6×1.0cmの境界不明瞭で不整形な腫瘤を認めた。

造影CT・造影MRI：明らかな遠隔転移はなし。左乳房に1.5cm大の造影結節を認めた。左腋窩にリンパ節腫大を散見し、リンパ節転移の疑いあり。

FNA：左乳腺腫瘤、左腋窩リンパ節ともにclassVで浸潤性乳管癌の診断。

治 療：c-T1cN1M0、c-Stage II Aで、左乳房部分切除術+左腋窩リンパ節郭清(I、II)を行った。

病理診断：浸潤性乳管癌(scirrhou carcinoma)で浸潤径は2.3×0.7cm。g、ly+、v-、核Grade2、リンパ節転移(2/24)。ER；0、0%、-。PgR；0、0%、-。HER2；3+。Ki-67；15%。

考 察：構築の乱れの原因として最も多いのは術後瘢痕である。それ以外で構築の乱れが認められる場合は癌を疑う所見として重要である。しかし良性病変も少なくなく、読影の際は正常乳腺の流れを意識し左右の比較を注意深く行う事が重要である。【結語】乳がん検診で構築の乱れによって発見された症例を提示した。構築の乱れには、良性病変も少なくなく、見逃しなく、読みすぎにも注意する必要がある。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院 若 原 誠

「検診発見乳癌の一例」

鳥取大学医学部附属病院 乳腺内分泌外科 若原 誠、野坂祐二、田中裕子、鈴木喜雅

症 例：53歳、女性。2017年の乳がん検診でマンモグラフィ異常を指摘され、2018年2月に前医を受診された。右M、I領域に集簇性に分布する多形性石灰化を認め、複数回の針生検およびマンモトーム生検を経て乳癌（非浸潤性乳管癌）と診断された。2018年6月に加療目的に当科紹介となった。エコーでは右乳房AB領域からE領域にかけて内部に高エコーを伴う低エコー域の集簇として、MRIおよびCTでも同領域の造影域として描出された。右乳癌（AB）cTisN0M0、Stage0の診断にて右乳房全切除とセンチネルリンパ節生検を行った。センチネルリンパ節に5mm大の転移を認めたため、腋窩リンパ節郭清を追加した。術後病理では0.2mm大の浸潤部が認められ、最終診断は右乳癌（AB）pT1miN1aM0、StageIIAであった。

考 察：術前の画像および組織所見からは典型的な非浸潤癌を考える症例であったが、センチネルリンパ節にはマクロ転移が認められた。非浸潤癌を考慮する病変においても、センチネルリンパ節生検は安易に省略すべきではないと思われた。

5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 平成31年2月23日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県立倉吉未来中心

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[東部症例]

提出者：鳥取市立病院 谷 口 英 明

症 例：40歳代、男性

主 訴：便潜血陽性

既往歴：胃・十二指腸潰瘍

生活歴：タバコ(-)、アルコール：ビール1本/毎日

家族歴：父、大腸癌、妹、乳癌

現病歴：大腸がん検診で便潜血陽性(+ / +)を指摘された。近医で大腸内鏡検査施行したが、横行結腸肝弯曲までしか挿入できなかったため、精査目的に当院紹介となり、大腸内視鏡の再検を行った。

大腸内視鏡所見：通常光観察では病変は横行結腸(左側)に20mm大、発赤調でヒダをまたがるように存在するLST-NG(IIa+IIc)を認めた。硬さを有する陥凹を伴い、SM浸潤癌が考えられた。NBI拡大では表層の血管の太まりがあり、Surface patternもirregularであり、JNET type2Bであった。

手 術：腹腔鏡下横行結腸切除術(D2)

病理診断：腺腫成分を含む腺癌、高分化型腺癌(tub1)、0-IIa type、サイズ2.0×1.8×1.8cm、pSM(1.2mm)、pN0、Stage I、INFb、ly1、v1、pn1a

検 討：本症例はsm浸潤を伴う表面平坦病変であった。表面平坦病変は見逃しのリスクが高い病変であり、日頃から最適な前処置や丁寧な観察を心がけることは極めて重要と考えられた。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 細 田 康 平

症 例：64歳、女性

主 訴：便潜血陽性

現病歴：2018年2月20日初めての人間ドックで便潜血陽性(+1686、+1618)を指摘され、当院を受診した。3月30日下部消化管内視鏡検査にて直腸腫瘍を認めた。

既往歴：高血圧、高脂血症

生活歴：喫煙なし 飲酒なし

常用薬：イミダプリル、プラバスタチンナトリウム

内視鏡所見：直腸Rbに約20mm大のLST-G結節混在型病変を認めた。一部隆起が目立つ部位がみられたが、NBI拡大観察ではJNET Type2B様のVessel patternを認め、早期大腸癌と考え、ESDにて一括切除を行った。切除病変は20×10mmであった。

病理結果：Adenocarcinoma、tub2、pTis、Ly0、V0、pHM0、pVM0 pStage 0

検 討：LST-G結節混在型は、その結節部において診断は容易であることが多いが、そのほかの部位については正常粘膜と高低差がほとんどないため、存在・範囲診断が困難なこともある。内視鏡検査時には平坦病変の存在にも気を付けて観察を行い、疑わしい所見がみられた場合はインジゴカルミン散布が有用である。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院第2内科 池 淵 雄一郎

症 例：70歳代後半、女性

主 訴：特になし（便潜血陽性）

既往歴：緑内障

現病歴：20XX年11月に便潜血陽性を指摘された。12月に近医を受診し、横行結腸に3 cm程度の隆起性病変を認め、当科に治療適応について紹介となった。

検査・経過：下部消化管内視鏡検査(CS)にて横行結腸に3 cm程度のLST-Gを認めた。平坦隆起の中で一段さらに隆起しており、その隆起部は周囲の粘膜と異なり発赤を強く認めた。平坦隆起部は粘液附着を認め、また拡大観察にて開Ⅱ型pitであり、SSAPを疑う病変であった。そして一段隆起している部位はSSAPからの発癌を考えた。内視鏡的切除可能と判断し、ESDを施行した。ESDは処置時間21分で完遂し、合併症も認めず5日後に退院となった。

病理結果：Adenocarcinoma in serrated adenoma、pTis、HM0、VM0、ly0、v0

検 討：本症例はSSAPからの発癌を認めた症例である。便潜血陽性で早期に病変を発見でき、また前医で生検を行わずに紹介して頂いたことで、速やかにESDを完遂することができた。LST病変に対する生検は癒痕化を起こし、ESD困難となることもあり注意が必要である。

6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成31年2月16日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県西部医師会館

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 満田 朱理

慢性C型肝炎IFN3剤併用療法にてSVRが得られたがサーベイランス不良のためHCC発見が遅延した1例

日本肝臓学会のC型肝炎診療ガイドラインにおいては、「IFNベース抗ウイルス治療によりHCVが排除されると肝発癌リスクは低下する。」「IFNベース治療によってSVRが得られた後も肝発癌は完全には消失せず、SVR後の5年・10年の発癌率はそれぞれ2.3～8.8%、3.1～11.1%である。」

「SVR後であっても、高齢、男性、アルコール摂取、肝脂肪化、糖尿病など現時点で同定されているリスク因子、および治療後のバイオマーカーに基づく定期的な肝臓に対するサーベイランスを継続すべきである。」と記載されている。よって、SVR後も肝発癌に留意し定期検査が必要であるが、この度その定期検査が途切れ発見が遅延した症例を経験したので報告する。

症 例：62歳 女性

既往歴：8年前に糖尿病を指摘

生活歴：喫煙；なし、飲酒；なし

現病歴：38歳頃、職場検診でHCV Ab陽性を指摘。27年前に他院でIFN単独療法（6か月）を受けるも無効。しばらくウルソ内服加療されていたが、その後中断。8年前より糖尿病加療中、前医よりIFNの適応につき当科へ紹介。約6年前、エコー下肝生検施行しCH（F3、A3）の診断、HCV RNA5.7logIU/ml、セロタイプ1にてIFN3剤併用療法（テラプレビル）施行し、SVRとなる。その後約4年間は当科にて定期検査をしていたが、本人の都合にて受診をキャンセル後、定期検査が途切れた。最終定期フォローから1年半後、前医にてUS施行したところ肝右葉にSOLを認め、当科再紹介となる。

血液検査：WBC 5010/mm³、RBC 449/mm³、Hb 13.7g/dl、Ht 40.3%、Plt 7.9×10⁴/mm³、T.bil 1.4mg/dl、AST 41 IU/l、ALT 33 IU/l、LDH 214 IU/l、ALP 651 IU/l、 γ -GTP 142 IU/l、TP 8.3g/dl、Alb 4.2g/dl、ChE 220 IU/l、T.Chol 158mg/dl、HbA1c 9.0%、FBS 116mg/dl、PT 82%、PIVKA II 313mAU/ml、AFP 75ng/ml、M2BPGi 2.94C.O.I

腹部US：肝S6に30mm大の低エコー腫瘤を認める。

ダイナミックCT：肝S6に34mm大の早期濃染、後期相でwash outされる腫瘤あり。

経 過：最終定期検査時の腫瘍マーカーはAFP 6ng/ml、PIVKA II 22mAU/mlと正常であり、HbA1c 9%と糖尿病のコントロールは不良であった。前医で肝腫瘤を認めた時点では腫瘍マーカーはAFP 75ng/ml、PIVKA II 313mAU/mlと著増していた。ダイナミックCTにてHCCと診断。血管造影施行し、A6より肝動脈化学塞栓術（TACE）施行。約3週後に経皮的RFA施行した。その後再発なく経過しているが、局所・異所性再発の有無につき外来で嚴重フォロー中である。

慢性C型肝炎に対する抗ウイルス療法はIFNフリーDAA治療が主体となるなか、IFN治療と同程度の肝発癌抑制効果が得られるとする報告が増えてきている。しかしながらSVR後の発癌率は低いとは言えない。抗ウイルス療法においてIFNフリーDAA治療ではIFN治療に比べ副作用がほとんどなく、外来通院で2～3か月と短期間で終了し、その効

果もほぼ100%に近いものとなっている。DAAs治療前に定期検査を受けていなかった新規の慢性C型肝炎患者も少なくなく、容易に治癒が得られるゆえにその後の定期検査がおろそかになることが懸念される。抗ウイルス療法後にSVRが得られた患者に対して、「発癌の可能性はあり、定期検査が必要であること」の教育とリスク因子も考慮した定期検査の継続の徹底が重要であると考えられる。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 加藤 順

「検診を契機に発見された非B非C型肝炎の1例」

肝癌診療ガイドラインにおいて、肝癌の高危険軍に対する肝癌サーベイランスが推奨されている。しかし、このサーベイランスの対象とすることが困難な、非B非C型肝炎が最近増加傾向を認めており、その対策が問題となっている。検診を契機に発見された非B非C型肝炎の症例を経験したので報告する。

症 例：70歳代、男性

主 訴：肝機能障害、肝腫瘍

既往歴：高血圧症

現病歴：検診にて肝機能障害（AST：70IU/L、ALT：82IU/L、 γ -GTP：96IU/L）を指摘され、近医を受診した。腹部超音波検査、造影CT検査にて肝右葉に約15cm大の腫瘍を指摘された。腫瘍マーカーは、AFP：3.9ng/ml、PIVKA-II：253mAU/ml、CEA：3.3ng/mlであった。近医受診約1週間後、精査加療目的に当科紹介となる。

生活歴：飲酒：機会飲酒、喫煙：30本×25年（45歳以降禁煙）

常用薬：なし（降圧薬内服歴があるが自己中断）

理学所見：体温：35.9℃、脈拍：68回/分、血圧195/99mmHg、SpO₂：98%（room air）

腹部：平坦・軟、圧痛なし

血液検査所見：WBC $65 \times 10^3/\mu\text{l}$ 、Hb 15.7g/dl、PLT $27.5 \times 10^3/\mu\text{l}$ 、Alb 4.5g/dl、T-bil 1.97mg/dl、AST 58IU/L、ALT 78IU/L、ALP 411IU/L、 γ GTP 63IU/L、FBS 127mg/dl、HbA1c 6.7%、AFP 4.0ng/ml、PIVKA-II 157.8ng/ml、HBs抗原陰性、HBc抗体陰性、HCV抗体陰性

腹部超音波検査：肝辺縁は鈍、表面やや不整で内部不均一である。深部エコー減衰、肝腎コントラストを認め、背景肝はCLD+脂肪肝と考えられる。右葉肝門部に117×132mm大のhaloを伴う内部モザイク状の腫瘍を認める。中心部は壊死を反映してか、星芒状の低エコー域を認める。また左様外側区に16×11mm、17×12mm大のacoustic shadowを伴う低エコー腫瘍を認める。

ダイナミックCT検査：肝内に早期濃染する多発腫瘍を認める。経時的にwash outする病変も認めるが、一部平衡相まで造影効果が遷延する病変も認められる。右葉肝門部の病変は、内部が星芒状に造影不領域を認めており、壊死を反映しているものと思われる。

EOB MRI：肝細胞相で、多発肝腫瘍はいずれもEOBの取り込みが亢進しており、高信号を呈している。

経 過：各種画像検査の結果より多発肝細胞癌を最も疑ったが、ダイナミックCTでの造影効果が異なる腫瘍があり、確定診断のために3箇所から経皮的肝腫瘍生検を行った。病理結果から、互いに類似した、何れもよく分化した肝細胞癌の組織を認め、両葉に多発する肝細胞癌と診断した。

右肝門部の病変に対して、腫瘍破裂の予防も含めTACEを行い、現在経過観察中である。

腫瘍が大きいため十分な治療効果は期待できず、今後繰り返しTACEや不応の場合は早めに分子標的薬への移行も検討が必要と考えている。

考 察：2012～2015年度の鳥取県の初発肝細胞癌の検討では、肝細胞癌の成因の43.4%が非B非C型とされており、全国的にも非B非C型肝炎の割合が増えつつある。当院での初発肝癌2010～2017年度の集計において、36%が非B非C型との結果が得られており、鳥取県全体のデータよりも少ないものの、非B非C型肝炎の割合は経時的に増えているものと考えられる。また前述の鳥取県の初発肝細胞癌の検討において、肝炎ウイルスを背景とする肝細胞癌よりも、非B非C型肝炎において腫瘍径が優位に大きいことが示されている。今回の症例は検診を契機に発見された非B非C型肝炎であるが、初発時には進行した状態であり、根治的な治療は困難であった。生活習慣病を背景とする非B非C型肝炎の効率的な囲い込みは今後の課題となるが、今回進行した状態で発見された非B非C型肝炎の典型例といえる症例を経験したので報告する。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 西 向 栄 治

高齢者の慢性心不全に合併した非B非C型の肝癌の2例

山陰労災病院 消化器内科 ○西向荣治、前田直人、岸本幸廣

同循環器内科 尾崎就一、遠藤 哲

はじめに：近年、高齢者肝癌における非B非C型の増加が報告されている。また高齢化に伴い死因の第一位は悪性新生物(28.7%)、ついで第二位が心疾患(15.2%) (うち心不全6.6%)に変化してきている。2017年4月、国立循環器病研究センターは、慢性心不全と癌の関係性について観察研究を発表し慢性心不全患者での癌の罹患率が通常約4倍になることを報告している。今回、高齢者の心不全加療中に偶然に非B非C型の肝癌が発見された2例を経験したので、今後、注意を要する肝癌サーベイランス対象の可能性があると考え報告する。

症例1：91歳女性。呼吸困難を訴え、トイレの前で転倒しているのを発見され、救急搬送された。搬送後、発作性心房細動と診断された。また70歳ごろ近医で肝臓が悪いといわれたことがあった。肝家族歴なし。機会飲酒。搬送時検査、胸XPでうっ血は軽度。Plt 8.3万、TBil 1.1、Alb 2.5、PT 81%、FIB-4 11.42、HBs抗原陰性、HCV抗体陰性、AFP952、PIVKAI1305。入院後の造影CTで、肝S8ドーム直下にφ3cm大の多血性の孤立性肝癌、肝硬変像、脾腫を指摘された。発作性心房細動に合併した肝硬変症、肝癌と診断した。肝癌に対して破裂予防の目的でTAEを勧めたが、ご家族は了解されたが、ご本人は希望されなかった。

症例2：84歳女性。ASD術後、慢性心不全、発作性心房細動の診断で通院加療を受けている。最近発熱が出現し、自宅で一過性意識障害を起こし転倒、当院の救急搬送された。その後、精査目的で入院。既往歴：36歳ASD手術、82才AF、Afで治療開始。飲酒歴、肝家族歴ともになし。入院時の胸XPでは心拡大なかったが、以前からUCGで、右心系の著明な拡大、中隔扁平化、下大静脈の拡大、EF40%程度を指摘されている。

入院時 Plt 19.6、TB 1.9、Alb 3.1、PT 21% (PT-INR 3.33)、ICG-R 23.4%、FIB-4 6.16、HBs抗原陰性、Hbc抗体陰性、HCV抗体陰性、AFP 952、PIVKAI 1305。入院後の造影CTで肝S7/8に被膜を有するφ11cmの多血性の肝癌を認め、右肝静脈は不明で、浸潤の可能性を考えた。また、肝表面に軽度腹水を認めた。うっ血性心不全に伴った、慢性うっ血肝に発症した非B非C型の肝癌と診断した。肝癌に対し、外科的切除、TAE、化学療法などを検討したが、緩和的治療の方向で退院となった。

7. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 がん	14	22	378	5	16	101	10	59	369	29	97	848
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 がん	2	5	38	12	85	149	3	23	39	17	113	226
乳 がん	1	4	14	2	18	36	1	12	20	4	34	70
大腸がん	14	21	403	3	3	49	5	17	219	22	41	671
肝臓がん	2	2	103	0	0	0	3	10	101	5	12	204
合 計	33回			22回			22回			77回		

Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されれば幸いです。

申請の届出書は「鳥取県健康対策協議会ホームページ」からダウンロードできます。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

次回の更新時期

◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回更新 手続き時期
子宮がん検診実施（一次検診）医療機関	平成31. 4. 1～令和2. 3. 31 (2019. 4. 1～2020. 3. 31)	令和元年度中
肺がん一次検診医療機関	平成29. 4. 1～令和2. 3. 31 (2017. 4. 1～2020. 3. 31)	令和元年度中
乳がん検診一次検査 (乳房X線撮影)医療機関	平成29. 4. 1～令和2. 3. 31 (2017. 4. 1～2020. 3. 31)	令和元年度中

◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回更新 手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	平成30. 4. 1～令和3. 3. 31 (2018. 4. 1～2021. 3. 31)	令和2年度中	平成30. 4. 1～令和3. 3. 31
子宮がん検診精密検査	平成30. 4. 1～令和3. 3. 31 (2018. 4. 1～2021. 3. 31)	令和2年度中	平成30. 4. 1～令和3. 3. 31
肺がん検診精密検査	平成29. 4. 1～令和2. 3. 31 (2017. 4. 1～2020. 3. 31)	令和元年度中	平成29. 4. 1～令和2. 3. 31
乳がん検診精密検査	平成29. 4. 1～令和2. 3. 31 (2017. 4. 1～2020. 3. 31)	令和元年度中	平成29. 4. 1～令和2. 3. 31
大腸がん検診精密検査	平成29. 4. 1～令和2. 3. 31 (2017. 4. 1～2020. 3. 31)	令和元年度中	平成29. 4. 1～令和2. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	平成31. 4. 1～令和4. 3. 31 (2019. 4. 1～2022. 3. 31)	令和3年度中	平成31. 4. 1～令和4. 3. 31

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準（平成30年度より改正）

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 4回/年 西部 1回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
胃がん内視鏡検診講習会	東部 1回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 5回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

※胃内視鏡検診マニュアルに従い、精密検査医療機関の登録基準の臨床例数は原則年間100症例以上に変更することとなり、平成30年度より「胃がん検診精密検査医療機関実施要綱」が一部改正しました。

「年間の症例数」について、医師個人とするか医療機関とするかについては、協議の結果、医師の習熟度の目安となるので「医師個人で原則年間100例以上」とすることとなりました。次回の更新3年後に向けて努力目標としていただくこととなりました。

また、登録基準においては、「食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。」としており、100例を満たさない医師については、健対協が十分な実績があると認めれば登録されます。

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコープに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準（平成31年度より改正）

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつ気管支ファイバー下病理検査が可能であること。
ただし、他施設に委託することも可能であること。
- 3 CT読影を含む精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会 10点（過去3年間に1回は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん医療機関検診従事者講習会	東部 1回/年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会・肺がん検診症例検討会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 4回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
 なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

[附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適切な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できること。なお、精密検査を全大腸内視鏡検査で行うことが困難な場合においては、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査（二重造影法）の併用による精密検査を実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。（小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい）。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記） 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 4回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 5回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準（平成31年3月改正）

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン(AFP)検査、HCV-RNA検査及びPIVKA II検査が実施できること。
- 4 次の基準に合う超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師の対応ができること。
 - (1) 走査法は、電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (3) ポラロイド撮影装置、プリンター、マルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (4) 観察用モニターは、12インチ以上であること。（※携帯型超音波装置は除く。）

※一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。
- 5 腹部超音波検査について、次のいずれかを満たしていること。
 - (1) 臨床例が年間100例以上あること。
 - (2) 最近5年間で300件以上の検査の実績があること。
 - (3) 検者が、超音波医学会認定超音波専門医（腹部または総合）又は超音波医学会認定超音波検査士（腹部）であること。
 - (4) 部会等の長及び地区医師会の代表の委員が、十分な実績があると認める機関については、この限りでない。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回/年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 5回/年	2点
消化器超音波研究会	西部 3回/年	2点
西部腹部超音波研究会	西部 1回/年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点
山陰肝臓治療研究会	全県 1回/年	3点

（鳥根県開催も対象）

（注） 上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

※登録基準の「腹部超音波検査の年間症例数」の取り扱いが変更することとなり、平成31年3月に「肝臓がん検診精密検査医療機関実施要綱」が一部改正しました。

あ と が き

がん登録推進法が施行され全国がん登録の運用が開始されました。2019年には結果も公表され、今後の利活用が順調に進められるかが注目されます。がん検診の精度管理においても様々な場面で活用されることが想定されますが、そのためにも今まで以上に質の高いがん登録が求められます。

平成29年度から鳥取市と米子市の胃がん検診において日本医療研究開発機構研究費による「個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究」に参加し継続中ですが、その他にもヘリコバクターピロリ感染に関する施策が検討されております。通常のがん検診精度管理と整合性を取りつつ慎重に進めていきたいと考えております。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第25報です。この報告書は単年度のがん検診の詳細な全体像も一覽いただけるものと考えます。この点においても参考にして戴ければ幸いです。ただ、がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知下さい。編集にあたり、各部長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。発刊に際し、県医師会事務局の岩垣陽子さん、澤北尚子さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。皆様に心から御礼申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理事 岡田克夫